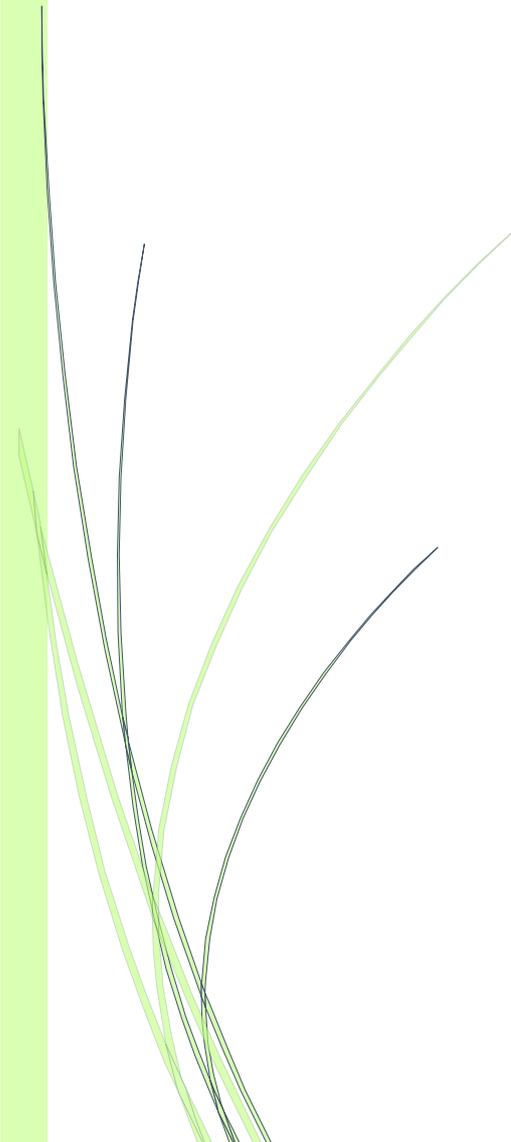


嘉麻市教育委員会
点検・評価報告書
(令和4年度事業分)



令和5年9月

目 次

1. 教育委員会点検・評価の概要について	1
(1) はじめに	1
(2) 点検・評価の導入の目的	1
(3) 点検・評価の対象事業	1
(4) 点検・評価の方法	2
(5) 結果の取扱い	2
(6) 嘉麻市教育行政の基本理念	2
(7) 嘉麻市教育振興基本計画	3
「第5次嘉麻市教育アクションプラン（令和3年度～令和5年度）」	
2. 嘉麻市教育委員会について	4
(1) 教育委員会の活動	4
(2) 教育委員会の会議開催状況	4
(3) 教育委員会の学校訪問実施状況	8
3. 全体評価結果	9
4. 事業別評価結果	10
■主要施策1 少人数指導等による学力向上	13
■主要施策2 個性又は能力を育成する学校教育の充実	16
■主要施策3 豊かな人間性及び志をもってたくましく生きる力を培う教育の推進	33
■主要施策4 生涯学習の実現を目指す社会教育の推進	46
■主要施策5 体力及び運動能力向上の推進	54
■主要施策6 人権尊重精神を育成する教育の推進	60
■主要施策7 市民文化の創造	64
5. 点検・評価委員の意見	71
《資料》	
・嘉麻市教育委員会点検評価実施要綱	82

1. 教育委員会点検・評価の概要について

(1) はじめに

地方教育行政の組織及び運営に関する法律第26条及び嘉麻市教育基本条例第7条の規定に基づき、平成20年4月から、嘉麻市教育委員会は、毎年、その権限に属する事務の管理及び執行の状況について点検及び評価を行い、その結果に関する報告書を作成し、議会に提出するとともに、公表しています。

この報告書は、令和4年度の嘉麻市教育委員会に属する事務の管理及び執行の状況について点検及び評価を行い、点検評価委員の意見を付して、報告するものです。

地方教育行政の組織及び運営に関する法律（抜粋）
（教育に関する事務の管理及び執行の状況の点検及び評価等）

第26条 教育委員会は、毎年、その権限に属する事務（前条第1項の規定により教育長に委任された事務その他教育長の権限に属する事務（同条第4項の規定により事務局職員等に委任された事務を含む。）を含む。）の管理及び執行の状況について点検及び評価を行い、その結果に関する報告書を作成し、これを議会に提出するとともに、公表しなければならない。

2 教育委員会は、前項の点検及び評価を行うに当たっては、教育に関し学識経験を有する者の知見の活用を図るものとする。

(2) 点検・評価の導入の目的

教育委員会制度は、首長から独立した合議制の教育委員会が決定する教育行政に関する基本方針のもと、教育長及び事務局が広範かつ専門的な具体の教育行政事務を執行するものです。

このため、事前に教育委員会が立てた基本方針にそって、具体的な教育行政が執行されているかどうかについて、教育委員会自らが事後にチェックする必要があり、教育委員会が地域住民に対する説明責任を果たし、その活動を充実させることが目的です。

(3) 点検・評価の対象事業

第5次嘉麻市教育アクションプラン（令和3年度～令和5年度嘉麻市教育振興基本計画）の事業を対象とします。

(4) 点検・評価の方法

事業ごとに目標達成度の観点から、それぞれの所管課が自己評価を行い、点検・評価の客観性を確保するために第三者評価を行いました。

第三者評価については、教育に関し学識経験を有する者の知見の活用を図るため、学校教育及び生涯学習の各分野の准教授2名に委嘱し、全58事業から抽出された19事業について、各所管課との間でヒアリングを実施し、各事業の達成度、成果及び効果等について、専門的な知見に基づく意見及び助言等をいただきました。

《点検評価委員名簿》

	選 出 区 分	氏 名	役 職 等
1	学識経験を有する者	原 田 直 樹	福岡県立大学看護学部 准教授
2	学識経験を有する者	農 中 至	鹿児島大学法文学部 准教授

(5) 結果の取扱い

この点検・評価においては、事業ごとに3段階【A：期待以上（高い）、B：概ね期待どおり（基準）、C：課題あり（低い）】で評価し、評価の高い事業については引き続き実施し、評価の低い事業については課題や問題の解決を行うと同時に、事業の見直しについて検討していく予定です。

(6) 嘉麻市教育行政の基本理念

嘉麻市教育委員会では、嘉麻市教育基本条例第2条の基本理念に基づき、本市の教育行政を実施していきます。

嘉麻市教育基本条例（抜粋） （基本理念）

第2条 教育は、人格の完成を目指し、平和で民主的な国家及び地域社会の形成者として必要な資質を備えた心身ともに健康な市民の育成を期して行われなければならない。

2 市民一人一人が、自己の人格を磨き、豊かな人生を送ることができるよう、その生涯にわたって、あらゆる機会に、あらゆる場所において学習することができ、その成果を適切に生かすことのできる社会の実現が図られなければならない。

3 家庭、地域住民及び市は、前2項に定める基本理念の実現に努めるものとする。

(7) 嘉麻市教育振興基本計画

「第5次嘉麻市教育アクションプラン（令和3年度～令和5年度）」

嘉麻市教育委員会では、教育行政の基本理念に基づき、本市における教育振興のための施策に関し基本的な事項を定めた「第5次嘉麻市教育アクションプラン」を策定し、学校教育、社会教育、文化・芸術の各分野における7つの教育施策を柱として、その実現に向けた施策を推進しました。

主要施策

1. 少人数指導（1学級を30人以下の児童又は生徒で編成する等の指導形態をいう。）等による学力向上
2. 個性又は能力を育成する学校教育の充実
3. 豊かな人間性及び志をもってたくましく生きる力を培う教育の推進
4. 生涯学習の実現を目指す社会教育の推進
5. 体力及び運動能力向上の推進
6. 人権尊重精神を育成する教育の推進
7. 市民文化の創造

この7つの施策に基づく事業を対象に、点検・評価を実施しました。

※ 第5次嘉麻市教育アクションプラン（令和3年度～令和5年度 嘉麻市教育振興基本計画）は、嘉麻市ホームページにてご覧いただけます。

「嘉麻市ホームページ」 <http://www.city.kama.lg.jp>

◎情報を探す➡キーワードでさがす

キーワード「教育アクションプラン」と入力してください

2. 嘉麻市教育委員会について

(1) 教育委員会の活動

教育委員会は教育長を含む5名の委員で構成され、会議の実施については、原則、定例会が毎月1回、臨時会は必要に応じて開催し、教育行政に関する重要事項等を適時適切に慎重に審議しています。

また、嘉麻市教育委員会定例学校訪問実施要項に基づき、定例学校訪問を実施しています。小中学校を訪問することで、学校教育現場の状況を確認することができ、教育委員の立場から要望など意見を述べました。

《嘉麻市教育委員会委員名簿》

令和5年9月現在

職名	氏名	任期
教育長	木本 寛昭	令和3年11月9日～令和6年11月8日
教育長 職務代理者	佐竹 正利	令和3年7月4日～令和7年7月3日
委員	辻田 喜美	令和2年8月29日～令和6年8月28日
委員	犬丸 隆行	令和5年7月4日～令和9年7月3日
委員	松岡 瞳子	令和4年7月4日～令和8年7月3日

(2) 教育委員会の会議開催状況

◆令和4年度教育委員会開催実績

- ・定例会 12回
- ・臨時会 1回 計 13回

◆令和4年度教育委員会の会議における議案

番号	議案	開催日
1	嘉麻市立確井義務教育学校の校章及び校歌について	8/2
2	嘉麻市立稲築西義務教育学校の校章及び校歌について	8/2
3	嘉麻市立稲築東義務教育学校の校章及び校歌について	8/2
4	嘉麻市スポーツ推進委員に関する規則の一部を改正する規則について	10/4

5	嘉麻市社会体育施設条例の一部を改正する条例の施行期日を定める規則について	11/1
6	嘉麻市教育委員会の権限に属する事務の補助執行に関する規則の一部を改正する規則について	1/6
7	嘉麻市教育委員会事務局組織規則の一部を改正する規則について	1/6
8	嘉麻市教育委員会公印取扱規則の一部を改正する規則について	1/6
9	嘉麻市教育委員会防犯カメラの管理及び運用に関する規則の一部を改正する規則について	1/6
10	嘉麻市奨学資金貸付審議会規則の一部を改正する規則について	1/6
11	福岡県立嘉穂総合高等学校嘉麻市立大隈城山校の通学区域に関する規則の一部を改正する規則について	1/6
12	嘉麻市学校給食管理運営に関する規則の一部を改正する規則について	2/7
13	嘉麻市サルビアパーク温水プール期間利用券規則の一部を改正する規則について	2/7
14	嘉麻市立小・中学校の教育制度の充実に関する規則の一部を改正する規則について	3/1
15	嘉麻市立小・中学校管理規則の一部を改正する規則について	3/1
16	独立行政法人日本スポーツ振興センター災害共済掛金の徴収に関する規則の一部を改正する規則について	3/1
17	嘉麻市立図書館協議会規則の一部を改正する規則について	3/1
18	嘉麻市立織田廣喜美術館運営協議会規則の一部を改正する規則について	3/1
19	嘉麻市教育委員会事務局組織規則の一部を改正する規則について	3/8
20	嘉麻市教育研究所管理規則の一部を改正する規則について	3/8

◆令和4年度教育委員会の会議における協議

番号	協 議	開催日
1	嘉麻市教育委員会点検・評価（令和3年度事業分）について	7/1

◆令和4年度教育委員会の会議における報告

番号	報 告	開催日
1	生徒指導上の諸問題に関する実態調査「月例報告」について	毎月
2	歳入の収納事務の委託に関する告示について	4/5

3	嘉麻市スポーツ推進委員の委嘱について	4/5
4	小中一貫教育の実施に伴う「ふるさと学習」について	4/5
5	嘉麻市小中一貫教育本部会議設置要綱の一部を改正する要綱について	5/10
6	嘉麻市教育委員会点検評価実施要綱の一部を改正する要綱について	5/10
7	嘉麻市教育委員会点検評価の見直しについて	5/10
8	嘉麻市立義務教育学校開校準備委員会委員について	5/10
9	嘉麻市奨学資金貸付審議会委員について	5/10
10	嘉麻市学校評議員について	5/10
11	嘉麻市学校関係者評価委員について	5/10
12	嘉麻市学校運営協議会委員について	5/10
13	嘉麻市スポーツ推進審議会委員について	5/10
14	嘉麻市奨学資金貸付審議会の諮問及び答申について	5/10
15	嘉麻市義務教育学校施設整備について	5/10
16	令和3年度嘉麻市立中学校卒業生の進路報告について	5/10
17	嘉麻市立小中学校全国学力・学習状況調査等の結果公表に関する規程の一部を改正する告示について	6/7
18	嘉麻市解放子ども会事業補助金交付規程の一部を改正する告示について	6/7
19	嘉麻市立義務教育学校開校準備委員会委員の委嘱について	6/7
20	嘉麻市学校運営協議会委員の委嘱・任命について	6/7
21	嘉麻市社会教育委員の委嘱・任命について	6/7
22	嘉麻市公民館運営審議会委員の委嘱・任命について	6/7
23	嘉麻市文化財保護審議会委員の委嘱・任命について	6/7
24	嘉麻市立図書館協議会委員の委嘱・任命について	6/7
25	嘉麻市立織田廣喜美術館運営協議会委員の委嘱・任命について	6/7
26	令和4年6月嘉麻市議会上程議案等について	6/7
27	嘉麻市教育委員会教育長職務代理者の指名について	8/2
28	嘉麻市学校給食調理等業務委託業者選定委員会設置要綱について	8/2
29	嘉麻市就学援助費等交付認定規程の一部を改正する告示について	8/2
30	嘉麻市社会教育委員の委嘱について	8/2

31	嘉麻市公民館運営審議会委員の委嘱について	8/2
32	標準学力分析検査（フクト）の結果について	8/2
33	嘉麻市教育委員会点検・評価報告書（令和3年度事業分）について	9/2
34	令和4年9月嘉麻市議会上程議案等について	9/2
35	いじめ重大事態について	9/2
36	嘉麻市スポーツ推進審議会委員の委嘱について	10/4
37	令和5年「嘉麻市二十歳を祝う会（旧称：嘉麻市成人式）」の概要について	10/4
38	嘉麻市スポーツ推進委員の委嘱について	11/1
39	令和4年 全国学力・学習状況調査結果について	11/1
40	嘉麻市学校給食調理等業務委託公募型プロポーザル審査結果について	12/6
41	令和4年12月嘉麻市議会上程議案等について	12/6
42	令和5年度嘉麻市立小中学校、義務教育学校の入学式・卒業証書授与式等の期日について	12/6
43	学校給食費について	1/6
44	嘉麻市立稲築西小学校通学対策費補助金交付規程の一部を改正する告示について	2/7
45	嘉麻市学校給食物資選定委員会設置規程の一部を改正する訓令について	2/7
46	嘉麻市文化財まちづくり推進団体認定規程について	2/7
47	嘉麻市文化財保護事業補助金交付規程の一部を改正する告示について	2/7
48	嘉麻市地域学校協働活動推進員設置規程の一部を改正する告示について	3/1
49	嘉麻市適応指導教室設置規程の一部を改正する告示について	3/1
50	嘉麻市立小中学校全国学力・学習状況調査等の結果公表に関する規程の一部を改正する告示について	3/1
51	嘉麻市立小・中学校修学旅行感染症対策支援事業補助金交付規程の一部を改正する告示について	3/1
52	嘉麻市立小・中学校における学校外活動を出席とみなす場合の規程の一部を改正する告示について	3/1
53	嘉麻市立小学校小規模特認校設置規程の一部を改正する告示について	3/1
54	嘉麻市立小中学校の事務の共同実施に関する規程の一部を改正する告示について	3/1
55	嘉麻市立小中学校共同学校事務室に関する規程の一部を改正する告示について	3/1

56	嘉麻市立小・中学校の修学旅行の基準に関する規程の一部を改正する訓令について	3/1
57	嘉麻市特別教員規程の一部を改正する訓令について	3/1
58	令和5年第1回嘉麻市議会（3月）定例会上程議案等について	3/1
59	令和4年度標準学力調査（東京書籍）結果について	3/1
60	嘉麻市社会教育施設等使用料の減免に関する規程の一部を改正する告示について	3/8
61	令和5年度教職員の人事（内示）について	3/8

(3) 教育委員会の学校訪問実施状況

◆定例学校訪問（4校）

嘉麻市教育委員会が各学校における学校経営の諸課題を把握するとともに、改善に向けた方向性について、協議及び所要の指導・支援を行うことにより、学校力を向上させる取組です。

実施日：10月18日（火） 稲築東中学校
11月 2日（水） 稲築東小学校
11月10日（木） 碓井中学校
11月25日（金） 碓井小学校

3. 全体評価結果

評価の方法は目標達成度や取組における成果や効果から、総合的に評価を行いました。また、令和4年度に実施した全58事業から抽出された19事業について、評価委員によるヒアリングを行い、専門的な知見に基づく意見及び助言等をいただき、今後の方向性及び令和5年度の課題につきましても、あわせて検討しました。

事務局の自己評価と評価委員の意見を踏まえた教育委員会としての評価結果は、期待以上（高い）のA評価が14事業（24.1%）、概ね期待どおり（基準）のB評価が43事業（74.1%）、課題あり（低い）のC評価が1事業（1.8%）となりました。

当該年度におきましては、昨年度に引き続き新型コロナウイルス感染拡大による事業の中止及び縮小等により目標値の達成が難しい中、新たな取組等による工夫改善が図られたことで、期待以上の評価が増える結果となりました。

今後も、新型コロナウイルス感染拡大防止を継続しつつ、更なる事業の効率化及び課題解決に向けた新たな取組が必要であると考えます。

《評価結果》

	教育委員会評価（全58事業）
A：期待以上（高い）	14事業（24.1%）
B：概ね期待どおり（基準）	43事業（74.1%）
C：課題あり（低い）	1事業（1.8%）

4. 事業別評価結果

■主要施策1 少人数指導等による学力向上

施策の内容	番号	事業名	自己評価			外部評価事業	記載ページ
			A	B	C		
(1) 確かな学力向上のための取組の推進	1	少人数指導推進事業		○		◎	13
	2	学力検証事業		○		◎	14
	3	嘉麻市学力向上強化プロジェクト事業		○			15

■主要施策2 個性又は能力を育成する学校教育の充実

施策の内容	番号	事業名	自己評価			外部評価事業	記載ページ
			A	B	C		
(1) 子どものニーズに応じる教育の充実	4	特別支援教育推進事業	○				16
(2) 社会の変化に対応する教育の充実	5	英語コミュニケーション能力の育成事業		○			17
	6	情報教育推進事業	○				18
	7	小・中学校情報教育施設整備事業		○		◎	19
(3) 信頼される教員の確保と研修の充実	8	嘉麻市教育研究所研修推進事業	○				20
(4) 安心して学べる学校づくりの推進	9	学校防犯体制整備事業		○			21
	10	通学対策事業	○				22
(5) 学校施設整備の推進	11	学校施設維持管理業務事業	○				23
	12	大隈城山校維持管理事業		○			24
	13	義務教育学校施設整備事業	○				25
	14	義務教育学校開校準備事業	○				26
(6) 地域に開かれた学校づくりの推進	15	コミュニティ・スクール推進事業		○		◎	27
	16	学校関係者評価事業		○			28
	17	学校開放事務事業		○			29
(7) 小中一貫教育への取組	18	小中一貫教育推進事業	○				30
(8) 教育の機会均等の促進	19	就学援助事業		○		◎	31
	20	奨学金事業		○		◎	32

■主要施策3 豊かな人間性及び志をもってたくましく生きる力を培う教育の推進

施策の内容	番号	事業名	自己評価			外部評価事業	記載ページ
			A	B	C		
(1) 道徳性と自立心を養う心の教育の充実	21	道徳教育推進事業		○			33
	22	キャリア教育推進事業		○			34
(2) 健やかな心身をはぐくむ健康教育の充実	23	学校保健事業		○			35
	24	学校給食運営事業	○				36
	25	学校給食費算定及び収納事業		○			37
(3) 家庭・地域・学校における読書活動推進	26	読書活動推進事業			○	◎	38
(4) いじめ・不登校問題等の解決に向けた体制の充実	27	適応指導教室（れすとぴあ）推進事業		○			39
	28	不登校対策支援事業		○		◎	40
(5) 家庭・地域の教育力を高める支援体制の充実	29	郷土を愛する子どもの育成事業		○			41
	30	家庭教育支援事業		○			42
	31	青少年健全育成事業		○		◎	43
(6) 男女共同参画教育の推進	32	学校における男女共同参画推進事業		○			44
	33	地域社会における男女共同参画推進事業		○		◎	45

■主要施策4 生涯学習の実現を目指す社会教育の推進

施策の内容	番号	事業名	自己評価			外部評価事業	記載ページ
			A	B	C		
(1) 生涯学習関係機関、団体との連携・協力体制の整備	34	社会教育関係団体等育成事業		○			46
	35	社会教育施設整備事業		○			47
(2) 学習機会の提供及び学習成果の活用の促進	36	生涯学習推進事業		○		◎	48
	37	公立公民館・自治公民館連携強化推進事業		○		◎	49
	38	公民館活動活性化推進事業	○				50
(3) 図書館の利用促進	39	図書館施設管理運営事業		○		◎	51
	40	読書活動推進事業	○				52
	41	図書ボランティア養成及び活動支援事業		○			53

■主要施策5 体力及び運動能力向上の推進

施策の内容	番号	事業名	自己評価			外部評価事業	記載ページ
			A	B	C		
(1) スポーツによる地域の活性化	42	スポーツコミュニティ創造事業	○				54
	43	スポーツ大会誘致・スポーツ大会支援事業		○			55
(2) スポーツ環境の整備	44	スポーツ環境創成事業		○		◎	56
	45	社会体育施設管理運営事業		○			57
(3) 生涯スポーツの推進	46	プロジェクトK事業		○			58
(4) 競技スポーツの推進	47	競技スポーツ推進事業		○		◎	59

■主要施策6 人権尊重精神を育成する教育の推進

施策の内容	番号	事業名	自己評価			外部評価事業	記載ページ
			A	B	C		
(1) 学校教育における人権・同和教育の推進及び支援	48	人権・同和教育推進事業		○		◎	60
(2) 社会教育における人権・同和教育の推進及び支援	49	人権・同和教育推進事業		○			61
	50	人権・同和教育推進少年団体育成事業		○		◎	62
	51	人権・同和教育推進団体育成事業		○			63

■主要施策7 市民文化の創造

施策の内容	番号	事業名	自己評価			外部評価事業	記載ページ
			A	B	C		
(1) 美術に関する創造的活動の推進	52	文化芸術活動推進事業		○			64
	53	美術館運営管理事業		○			65
	54	企画展事業	○				66
	55	美術教育普及事業		○		◎	67
(2) 文化財の保護・継承・活用	56	郷土の歴史文化を守る事業		○		◎	68
	57	郷土の歴史文化を伝える事業	○				69
	58	郷土の歴史文化拠点施設活用事業		○			70

点検評価表の見方

主要施策				
施策の内容				
事業名 (予算/決算)		【事業番号】 事業名 (担当課:担当係) (予算: 千円 / 決算: 千円)		
事業の概要	事業の目的	※アクションプラン策定時における事業実施の目的		
	事業の内容	※目的を達成するための事業内容		
令和4年度 取組と成果	目標値 (主要な指標)	※アクションプランにおける令和4年度目標値		
	実績値 (目標値との比較)	※令和4年度の実績値に対する目標値		
	重点課題	※令和4年度の課題		
	課題への取組と成果	※重点課題への対応を含め、 令和4年度に取組んだ事業内容とその成果及び効果		
次年度重点課題		※次年度に重点的に取り組む課題		
令和4年度 自己評価	【評価の指標】		A	B
	実績値評価 (当該年度の目標値に対する達成度・進捗度)			
	課題への取組と成果 (当該年度の取組における成果・効果)			
	※評価の指標 A:期待以上(高い) B:概ね期待どおり(基準) C:課題あり(低い)			
評価の根拠	※取組の総合的な成果や効果、及び成果として見えにくい部分(コロナ対策への新たな取組み等)を補足するなどし、教育委員会評価に繋がった評価根拠			
教育委員会評価		今回	(前回)	—

※評価の指標 A:期待以上(高い) B:概ね期待どおり(基準) C:課題あり(低い)

主要施策	1	少人数指導等による学力向上		
施策の内容	1	確かな学力向上のための取組の推進		
事業名 (予算/決算)	[1] 少人数指導推進事業 (学校教育課: 教務係) (予算: 158,316千円 / 決算: 155,106千円)			
事業の概要	事業の目的	小中学校全学年において、1学級を30人以下の少人数指導を実施し、児童生徒の状況を把握しながら、より個に応じた指導を行うことによって、生徒指導の充実、学力を向上させるよう努めます。		
	事業の内容	基準にもとづく少人数指導特別教員を配置し、小中学校の少人数指導を推進しています。		
令和4年度 取組と成果	目標値 (主要な指標)	基準にもとづく職員の配置 (小学校16名、中学校10名)		
	実績値 (目標値との比較)	基準にもとづく職員の配置 (小学校16名、中学校10名)		
	重点課題	基準にもとづく職員の100%配置		
	課題への取組と成果	<p>教員不足が全国的にも大きな課題となっている状況のなかで、退職教員やティーチフォー・ジャパンといった人材派遣会社へ派遣依頼をかけるなど、少人数指導を行うために教員確保に取組みました。</p> <p>その結果、令和4年度の全国学力学習状況調査において、13小中学校中5つの小中学校で標準化得点100を超える結果を出すことができました。また、小学校5年では、12月の標準学力調査において、6月の県学力調査よりも8小学校中6つの小学校で改善が見られました。</p>		
	次年度重点課題	基準にもとづく職員の100%配置		
令和4年度 自己評価	【評価の指標】	A B C		
	実績値評価 (当該年度の目標値に対する達成度・進捗度)	○		
	課題への取組と成果 (当該年度の取組における成果・効果)	○		
	※評価の指標 A: 期待以上 (高い) B: 概ね期待どおり (基準) C: 課題あり (低い)			
評価の根拠	<p>全国的に教員不足が常態化している中で、小学校で16名、中学校で10名配置することができました。その結果、習熟度別指導を全小中学校で実施できました。</p> <p>全国学力・学習状況調査では、嘉麻市全体として、嘉麻市の目標値である標準化得点100 (全国平均) に達していませんが、5つの小中学校で標準化得点100を超える結果を出すことができました。</p> <p>また、小学校5年の12月の標準学力調査では、6月の県学力調査よりも標準スコア (全体平均を50として表す数字) を国語科で2ポイント、算数科で0.5ポイント上昇させることができました。</p>			
教育委員会評価	今回	B	(前回)	(B)

※評価の指標 A: 期待以上 (高い) B: 概ね期待どおり (**基準**) C: 課題あり (低い)

主要施策	1	少人数指導等による学力向上			
施策の内容	1	確かな学力向上のための取組の推進			
事業名 (予算/決算)	[2] 学力検証事業 (学校教育課：教務係) (予算：6,820千円 / 決算：6,185千円)				
事業の概要	事業の目的	児童生徒の実態や学力を把握・分析し、課題を明らかにして学校内の組織的な取組の改善を図り、自ら学び考えるなどの確かな学力を育む教育を推進します。			
	事業の内容	各種学力検査を実施し、早期に学力向上策の評価・改善を行い、授業改善等を促進します。			
令和4年度 取組と成果	目標値 (主要な指標)	標準学力調査 (小学校)：50.5ポイント 標準学力分析検査 (中学校)：50.5ポイント			
	実績値 (目標値との比較)	標準学力調査 (小学校)：47.2ポイント (▲3.3ポイント) 標準学力分析検査 (中学校)：45.5ポイント (▲5ポイント)			
	重点課題	学力低位層 (CD層) に対する個に応じた学習指導及び学習支援の充実			
	課題への取組と成果	小学校では、標準学力調査を行うことにより、全国学力・学習状況調査や福岡県学力調査と併せて年間3回の学力向上策の評価・改善を実施しました。中学校では、全国学力・学習状況調査や福岡県学力調査とフクトの課題テストにより、年間3回以上の学力向上策の評価・改善を実施しています。 その結果、小学校5年生では、標準学力調査で昨年度と比較した場合、国語で2.8ポイント上昇しました。中学校では、標準学力分析検査と課題テストを比較した場合、中学校2・3学年で国語科が上昇しました。 また、全ての学校で習熟度別授業を実施し、学習状況に応じた支援を行うことができました。特に学力CD層の子にどこに課題があるのかを把握し、その克服に向けてきめ細かな支援を行うことができました。			
次年度重点課題	年3回の評価・改善による授業改善等の促進				
令和4年度 自己評価	【評価の指標】	A	B	C	
	実績値評価 (当該年度の目標値に対する達成度・進捗度)		○		
	課題への取組と成果 (当該年度の取組における成果・効果)		○		
※評価の指標 A：期待以上 (高い) B：概ね期待どおり (基準) C：課題あり (低い)					
評価の根拠	小・中学校の学力検査では、目標値を達成させることはできませんでした。 ただし、全ての学校において、年間3回の検証改善を100%実施したり同一集団の変容を把握したりすることができ、取組の検証改善を効果的に進めることができています。				
教育委員会評価		今回	B	(前回)	(B)

※評価の指標 A：期待以上 (高い) B：概ね期待どおり (基準) C：課題あり (低い)

主要施策	1	少人数指導等による学力向上
施策の内容	1	確かな学力向上のための取組の推進
事業名 (予算/決算)	[3] 嘉麻市学力向上強化プロジェクト事業 (学校教育課：教務係) (予算：27,288千円 / 決算：22,649千円)	
事業の概要	事業の目的	地域人材や学生ボランティアを活用して、教育課程外の学力向上事業を実施することにより、児童生徒の基礎的な学力の定着を図ります。
	事業の内容	学校外補習学習事業及び嘉麻市土曜未来塾、家庭学習の定着と課題の個別化の促進を行います。

令和4年度 取組と成果	目標値 (主要な指標)	土日の家庭学習時間ゼロの児童生徒：3%以下
	実績値 (目標値との比較)	土日の家庭学習時間ゼロの児童生徒：9.16% (+6.16)
	重点課題	生活困窮世帯の参加率の向上(参加率20%以上、参加者に占める生活困窮家庭の割合50%以上)
	課題への取組と成果	<p>目標値を達成させることができませんでした。目標達成に向けて、土曜未来塾への参加者増に取組んでいます。今年度は169名の児童生徒が参加をすることができました。そのうち生活困窮世帯の割合は47%で、昨年度より3ポイント上昇しました。生活困窮世帯の参加率上昇のために、学校では土曜未来塾参加について全体的な呼びかけだけでなく、個別に参加を呼びかけたりしました。また、生活支援課と連携を図ってケースワーカー等から家庭へのチラシの配布や参加に向けた声掛けも行ってもらいました。</p> <p>今後は土曜未来塾の様子を動画等で公開する等、土曜未来塾のPR活動に力を入れて、生活困窮世帯を含めて、より多くの児童生徒の参加者数増に取組んでいきます。</p>
次年度重点課題	土日の家庭学習時間ゼロの児童生徒0% 平日の家庭学習時間ゼロの児童生徒全国平均以下	

令和4年度	【評価の指標】	A	B	C
	実績値評価(当該年度の目標値に対する達成度・進捗度)			○
	課題への取組と成果(当該年度の取組における成果・効果)		○	
※評価の指標 A：期待以上(高い) B：概ね期待どおり(基準) C：課題あり(低い)				
自己評価	評価の根拠	令和4年度の参加者に占める生活困窮家庭の参加率は、中学校で50%となり、小中学校併せて昨年度よりも3ポイント上昇させることができ、重点課題を達成することができました。しかし、全体の参加者が昨年度の参加人数を上回ることができませんでした。 多くの児童生徒が参加できるように未来塾への参加の呼びかけについてさらに工夫改善を図ります。		

教育委員会評価	今回	B	(前回)	(B)
----------------	-----------	----------	------	-----

※評価の指標 A：期待以上(高い) B：概ね期待どおり(基準) C：課題あり(低い)

主要施策	2	個性又は能力を育成する学校教育の充実		
施策の内容	1	子どものニーズに応じる教育の充実		
事業名 (予算/決算)	[4] 特別支援教育推進事業 (学校教育課：教務係) (予算：99,389千円 / 決算：91,215千円)			
事業の概要	事業の目的	保育所(園)・幼稚園、小学校、中学校、高等学校及び特別支援学校における特別支援教育の推進及び充実のため一人ひとりのニーズに応じた教育条件の整備を図ります。		
	事業の内容	特別な支援を必要とする児童生徒等の早期発見、早期対応のため巡回相談等を行い、発達障がいを含む障がいのある児童生徒等を支援します。補助教員等を配置し、一人ひとりのニーズに応じた特別支援教育を行います。		
令和4年度 取組と成果	目標値 (主要な指標)	特別支援学級生徒の進学率：100% 特別支援教育補助教員等の配置：基準に基づく配置数		
	実績値 (目標値との比較)	特別支援学級生徒の進学率：97.2% 特別支援教育補助教員等の配置：基準に基づく配置数		
	重点課題	<p>幼小中高の特別支援教育コーディネーターとの情報共有や各種関係機関との連携。</p> <p>個別の教育支援計画等の充実や特別支援教育に係る共通理解の推進のための巡回相談の実施。</p> <p>児童生徒一人ひとりの教育的ニーズに応じた適切な指導、支援のための補助教員等の配置。</p> <p>補助教員等の専門性を高める研修の実施。</p>		
	課題への取組と成果	<p>幼小中高の特別支援教育コーディネーター研修会を実施し、情報共有を図り連携を深めることができました。子育て支援課と連携し臨床心理士による巡回相談を実施し、就学前より療育を受けた児童へ切れ目のない支援につなぐことができました。経験年数の浅い講師や補助教員等を対象とした研修会の実施及び特別支援学級を中心とした定期的な教育相談を実施したことで、個別の支援計画等の充実や特別支援教育に係る共通理解を深めることができました。補助教員11名、特別支援教育支援員36名を配置し、配慮を必要とする児童生徒一人ひとりのニーズに応じた特別支援教育を行いました。</p>		
次年度重点課題	特別な支援を必要とする児童生徒は年々増加傾向にあり、その児童生徒に対応する教職員及び補助教員等も増加の一途をたどっています。そのため、一貫した継続的な指導・支援を充実する必要があります。			
令和4年度 自己評価	【評価の指標】	A	B	C
	実績値評価 (当該年度の目標値に対する達成度・進捗度)		○	
	課題への取組と成果 (当該年度の取組における成果・効果)	○		
※評価の指標 A：期待以上(高い) B：概ね期待どおり(基準) C：課題あり(低い)				
評価の根拠	特別支援学級生徒の進学率100%の目標は達成できなかったものの関係機関との連携を図り補助教員等を基準に基づき配置したことで、配慮を必要とする児童生徒の一人ひとりのニーズに応じた特別支援教育を実施することができました。			
教育委員会評価	今回	A	(前回)	(B)

※評価の指標 A：期待以上(高い) B：概ね期待どおり(基準) C：課題あり(低い)

主要施策	2	個性又は能力を育成する学校教育の充実			
施策の内容	2	社会の変化に対応する教育の充実			
事業名 (予算/決算)	[5] 英語コミュニケーション能力の育成事業 (学校教育課：教務係) (予算：25,066千円 / 決算：20,736千円)				
事業の概要	事業の目的	英語の音声や基本的な表現に慣れ親しませながら、英語によるコミュニケーション能力を高め、国際感覚を身につけさせます。			
	事業の内容	外国語指導助手(A L T)を学校に配置及びオンライン英会話を推進します。また、小学校における英語専科指導教員を配置します。			
令和4年度 取組と成果	目標値 (主要な指標)	外国語指導助手(A L T)配置校数：13校 オンライン英会話実施(小学校)：3～6年生 5回 オンライン英会話実施(中学校)：1～3年生 10回 英語専科指導教員の配置：配置			
	実績値 (目標値との比較)	外国語指導助手(A L T)配置校数：小学校8校 オンライン英会話実施(小学校)：3～6年生 5回 オンライン英会話実施(中学校)：1・2年生 8回 3年生 6回 英語専科指導教員の配置：配置			
	重点課題	オンライン英会話の実施学年(小学3年生～中学3年生)の拡大を図ります。			
	課題への取組と成果	実施学年を拡大し、小学3年生～6年生を対象にオンライン英会話(グループレッスン)を5回、中学生を対象にオンライン英会話(マンツーマンレッスン)を1・2年生8回、3年生6回を実施しました。中学校の実施回数については、期末試験、高校受験等の行事等を考慮し、委託業者と協議のうえ実施回数を決定しました。			
	次年度重点課題	オンライン英会話及び外国語指導助手(A L T)の事業の推進を図ります。			
令和4年度 自己評価	【評価の指標】	A	B	C	
	実績値評価(当該年度の目標値に対する達成度・進捗度)		○		
	課題への取組と成果(当該年度の取組における成果・効果)		○		
	※評価の指標 A：期待以上(高い) B：概ね期待どおり(基準) C：課題あり(低い)				
評価の根拠	オンライン英会話の拡大により、外国語指導助手A L T配置校を縮小し、小学校8校にA L T1名配置し、外国語教育の充実を図りました。また、オンライン英会話においても実施学年、実施回数ともに目標値を変更して実施することができました。さらに、小学校へ英語専科指導教員を配置し、英語指導の充実を図ることができました。				
教育委員会評価		今回	B	(前回)	(B)

※評価の指標 A：期待以上(高い) B：概ね期待どおり(基準) C：課題あり(低い)

主要施策	2	個性又は能力を育成する学校教育の充実			
施策の内容	2	社会の変化に対応する教育の充実			
事業名 (予算/決算)	[6] 情報教育推進事業 (学校教育課: 教務係) (予算: 46,070千円 / 決算: 41,492千円)				
事業の概要	事業の目的	小中学校における情報教育の推進を図り、教師のICT活用指導力の向上と授業等における児童生徒1人1台学習用端末の活用を図ります。			
	事業の内容	情報教育支援員による学校支援(児童生徒の発達段階に応じた情報活用能力の育成、情報モラル教育の実施、教職員研修の実施等)を行います。また、嘉麻市情報教育推進協議会による小中学校情報教育担当者の情報交換と情報教育推進に関する研修を実施します。			
令和4年度 取組と成果	目標値 (主要な指標)	校内研修支援回数: 1校につき5回以上			
	実績値 (目標値との比較)	校内研修支援回数: 13校全て5回以上(100%)			
	重点課題	情報教育支援員による学校支援を質的・量的に高め、嘉麻市1人1台学習用端末(カスタ)を用いた教職員のICT活用指導力を更に向上させます。			
	課題への取組と成果	令和3年度中に、嘉麻市1人1台学習用端末(カスタ)の導入については、市内全小中学校実施済みです。授業での活用に係る校内研修会については、各学校におけるニーズ(学習支援ソフトの使い方、Zoomやスカイメニューの操作等)に応じた研修形式を実施し、授業でのカスタ活用の充実を図りました。また、教育研究所情報教育推進室でのカスタの端末管理及びユーザー管理等、さらに年度更新工程の流れも確立してきました。情報教育支援員による研修及び授業支援により教職員のICT活用指導力向上を図りました。			
次年度重点課題	情報教育支援員による学校支援を継続的に行い、嘉麻市1人1台学習用端末(カスタ)を用いた教職員のICT活用指導力の充実に努めます。嘉麻市1人1台学習用端末(カスタ)の持ち帰りの活用を推進します。				
令和4年度 自己評価	【評価の指標】	A	B	C	
	実績値評価(当該年度の目標値に対する達成度・進捗度)	○			
	課題への取組と成果(当該年度の取組における成果・効果)	○			
	※評価の指標 A:期待以上(高い) B:概ね期待どおり(基準) C:課題あり(低い)				
評価の根拠	目標達成にかかる各指標を全て目標値以上に達成しています(情報教育支援室実績による)。また、校内研修支援や学校支援、嘉麻市情報教育推進協議会の開催等により、嘉麻市1人1台学習用端末(カスタ)の活用が充実してきました。				
教育委員会評価		今回	A	(前回)	(A)

※評価の指標 A:期待以上(高い) B:概ね期待どおり(基準) C:課題あり(低い)

主要施策	2	個性又は能力を育成する学校教育の充実			
施策の内容	2	社会の変化に対応する教育の充実			
事業名 (予算/決算)	[7] 小・中学校情報教育施設整備事業 (教育総務課：管理係) (予算：56,728千円 / 決算：56,127千円)				
事業の概要	事業の目的	多様な子どもたちが誰一人取り残されることのない、子どもたち一人ひとりにとって最適な教育ICT環境の実現を図ります。			
	事業の内容	①高速情報通信ネットワーク環境の運用及び検証 ②ICT環境の最適化に向けた改善検討			
令和4年度 取組と成果	目標値 (主要な指標)	高速通信ネットワーク環境の運用及び検証：実施 ICT環境の最適化に向けた改善検討：実施			
	実績値 (目標値との比較)	高速通信ネットワーク環境の運用及び検証：実施 ICT環境の最適化に向けた改善検討：実施			
	重点課題	教育用タブレットの運用が本格的に実施されるため、その中で出てくる問題点や課題を把握し、環境改善に努めます。			
	課題への取組と成果	オンライン学習で通信がうまくいかないケースが数件起こっていたため、通信環境改善に向けた検討を行いました。			
次年度重点課題	今後、オンライン学習やオンラインによる学力調査の際、通信に支障が出ないように、プロバイダを変更し通信環境の改善を図ります。				
令和4年度 自己評価	【評価の指標】	A	B	C	
	実績値評価 (当該年度の目標値に対する達成度・進捗度)		○		
	課題への取組と成果 (当該年度の取組における成果・効果)		○		
	※評価の指標 A：期待以上 (高い) B：概ね期待どおり (基準) C：課題あり (低い)				
評価の根拠	令和4年度事業については、おおむね予定通りに実施できました。				
教育委員会評価		今回	B	(前回)	(B)

※評価の指標 A：期待以上 (高い) B：概ね期待どおり (基準) C：課題あり (低い)

主要施策	2	個性又は能力を育成する学校教育の充実		
施策の内容	3	信頼される教員の確保と研修の充実		
事業名 (予算/決算)	[8] 嘉麻市教育研究所研修推進事業 (学校教育課：教務係) (予算：382千円 / 決算：182千円)			
事業の概要	事業の目的	嘉麻市教育研究所を中心に、市の課題に応じた教職員及び教育研究団体等の教育研究を奨励するとともに、若年層の指導技術向上、教職員の資質向上に努めます。		
	事業の内容	教職員研修、講師等対象研修、専門研修の実施、校内研修等における指導助言を行います。また、教職員の資質向上を目的とした教育論文の応募を奨励します。		
令和4年度 取組と成果	目標値 (主要な指標)	新しい教育内容に関する研修：2回 特別支援教育に関する研修：4回		
	実績値 (目標値との比較)	新しい教育内容に関する研修：2回実施 〔「プログラミング教育研修会」「小学校外国語教育研修会」〕 特別支援教育に関する研修：4回以上実施		
	重点課題	新学習指導要領に対応した研修を充実させます。 特別支援教育等、市内各学校のニーズに応じた研修に対応します。		
	課題への取組と成果	新学習指導要領対応研修としてプログラミング教育研修会と小学校外国語教育研修会を演習形式で実施しました。そのことで、具体的に効果的な指導方法を学ぶことができました。また、特別支援教育においては、特別支援教育補助教員、支援員、介助員に対して指導主事が講話を行ったことで、特別支援教育に関する理解と認識を深めることができました。		
次年度重点課題	各学校からの校内研修講師依頼等の要請に応えながら、授業実践の充実に努めます。また、様々な職種の教職員に対して教育論文への応募を啓発し、指導内容の充実を図ります。			
令和4年度 自己評価	【評価の指標】	A	B	C
	実績値評価 (当該年度の目標値に対する達成度・進捗度)		○	
	課題への取組と成果 (当該年度の取組における成果・効果)	○		
※評価の指標 A：期待以上（高い） B：概ね期待どおり（ 基準 ） C：課題あり（低い）				
評価の根拠	<p>当初計画した研究所の研修事業については、コロナ対策を十分に講じた中で、目的に応じた研修内容の充実を図ることができました。また、プログラミング教育研修会と小学校外国語教育研修会を演習形式で実施したことにより、具体的に効果的な指導方法を学ぶことができました。</p> <p>特別支援教育においては、各学校のニーズに応じて、特別支援教育研修会の実施、校内研修の講話を行ったことで、特別支援教育に関する理解と認識を深めることができました。</p> <p>校内研修等への指導主事派遣回数や情報教育支援のための学校訪問についても、計画以上の実績を残すことができました。</p>			
教育委員会評価	今回	A	(前回)	(B)

※評価の指標 A：期待以上（高い） B：概ね期待どおり（**基準**） C：課題あり（低い）

主要施策	2	個性又は能力を育成する学校教育の充実		
施策の内容	4	安心して学べる学校づくりの推進		
事業名 (予算/決算)	[9] 学校防犯体制整備事業 (学校教育課: 教務係) (予算: 4, 937千円 / 決算: 4, 650千円)			
事業の概要	事業の目的	児童生徒の安全管理のため、学校安全に関する取組の充実を図ります。		
	事業の内容	学校支援専門員(警察OB)を配置し、警察等関係機関と連携して生徒指導上の支援を行っています。スクールガードリーダーによる学校内外の定期的な巡回や見守り、安全マップの作成、防犯メールの配信により、学校の安全体制の整備充実を図っています。		
令和4年度 取組と成果	目標値 (主要な指標)	学校支援専門員の配置 : 2人 地域学校安全推進員の配置 : 2人		
	実績値 (目標値との比較)	学校支援専門員の配置 : 1人 地域学校安全推進員の配置 : 2人		
	重点課題	生徒指導上の諸問題に対応する体制の点検を徹底させます。 学校安全計画や危機管理マニュアルの共通理解の徹底を図ります。		
	課題への取組と成果	学校支援専門員が定期的な学校訪問を行い、学校と連携しながら防犯体制等について指導助言を行いました。さらに、スクールガードリーダーや地域ボランティアと連携しながら通学路での交通安全指導を行ったことにより、学校安全に関する取組の充実を図ることができました。		
次年度重点課題	各学校の基本的な安全対策について、きめ細かな指導助言を徹底し、組織的な危機管理意識の醸成に努めます。			
令和4年度 自己評価	【評価の指標】	A	B	C
	実績値評価 (当該年度の目標値に対する達成度・進捗度)		○	
	課題への取組と成果 (当該年度の取組における成果・効果)		○	
	※評価の指標 A: 期待以上 (高い) B: 概ね期待どおり (基準) C: 課題あり (低い)			
評価の根拠	<p>学校の求めに応じて、学校支援専門員が適切な助言を行ったことで、生徒指導上の諸問題について迅速に対応することができました。</p> <p>また、交通安全教室への参加、中学校生徒指導委員会への参加等を通して、学校との連携を深めることができました。さらに、スクールガードリーダーの配置、地域ボランティア、防犯メールの全校実施により、学校防犯体制の整備が進んでいます。</p> <p>不審者事案については、迅速に学校支援専門員が対応し、警察と連携して巡回等を行い安全確保に努めてきました。</p>			
教育委員会評価	今回	B	(前回)	(B)

※評価の指標 A: 期待以上 (高い) B: 概ね期待どおり (基準) C: 課題あり (低い)

主要施策	2	個性又は能力を育成する学校教育の充実		
施策の内容	4	安心して学べる学校づくりの推進		
事業名 (予算/決算)	[10] 通学対策事業 (学校教育課: 教務係) (予算: 52,854千円 / 決算: 46,145千円)			
事業の概要	事業の目的	遠距離通学の負担を軽減します。また、通学路の安全確保に関する取組を推進します。		
	事業の内容	遠距離通学することになった児童生徒の通学の負担を軽減します。 また、嘉穂小学校及び嘉穂中学校のスクールバス運行に関して、実情に応じた通学対策を行います。さらに、通学路の安全を確保するため、嘉麻市通学路安全推進会議を開催し、定期的(2年に1回)に市内小学校において、合同点検を実施します。		
令和4年度 取組と成果	目標値 (主要な指標)	対象児童生徒への対応: 100% 嘉麻市通学路安全推進会議: 年2回開催		
	実績値 (目標値との比較)	対象児童生徒への対応: 100% 嘉麻市通学路安全推進会議: 年2回開催 合同点検実施 (毎年点検に変更)		
	重点課題	嘉穂小・中学校のスクールバス運行については、その運用方法について継続して協議して見直し等を行っていきます。また、通学路の安全確保について、嘉麻市通学路安全推進会議にて、定期的に合同点検、対策の実施というサイクルで行っていきます。		
	課題への取組と成果	稲築西小学校に通学する児童のうち、遠距離通学している児童のバス定期券の購入費用の補助を100%実施することができました。また、嘉穂小学校及び嘉穂中学校でスクールバスを運行し、遠距離通学となる児童生徒の送迎を行いました。令和4年度から宮野地区・足白地区の中学生のスクールバス登校便に続き下校便の利用も開始しました。 通学路の安全確保の取組として嘉麻市通学路安全推進会議のメンバーで合同点検を実施しました。2年に1回の実施から毎年実施に変更しました。		
次年度重点課題	通学路の安全確保のため、嘉麻市通学路安全推進会議を開催し、情報共有を図り、対策箇所の優先順位を設定し、対策を行っていきます。			
令和4年度 自己評価	【評価の指標】	A	B	C
	実績値評価 (当該年度の目標値に対する達成度・進捗度)		○	
	課題への取組と成果 (当該年度の取組における成果・効果)	○		
※評価の指標 A: 期待以上 (高い) B: 概ね期待どおり (基準) C: 課題あり (低い)				
評価の根拠	目標値をすべての項目で達成することができました。 定期的(2年に1回)に合同点検を実施していましたが、毎年点検することとし、義務教育学校開校に向けた通学路の合同点検も実施しました。 危険箇所について、警察や道路管理者と対策を協議し、対策を講じました。			
教育委員会評価	今回	A	(前回)	(A)

※評価の指標 A: 期待以上 (高い) B: 概ね期待どおり (基準) C: 課題あり (低い)

主要施策	2	個性又は能力を育成する学校教育の充実			
施策の内容	5	学校施設整備の推進			
事業名 (予算/決算)		[11] 学校施設維持管理業務事業 (教育総務課：管理係) (現年予算：298,158千円 / 決算：280,048千円) (繰越予算：420,572千円 / 決算：402,811千円)			
事業の概要	事業の目的	すべての児童生徒が安心して学習に取り組めるよう校舎等の維持管理を行い、快適な教育環境の整備を図ります。			
	事業の内容	①小中学校のトイレ洋式化改修工事 ②小中学校機械設備等大規模改修工事 ③小中学校の屋内屋外運動場改修工事 ④小中学校の施設修繕及び維持管理			
令和4年度 取組と成果	目標値 (主要な指標)	小中学校のトイレ洋式化改修工事：一 小中学校機械設備等大規模改修工事：実施 小中学校の屋内屋外運動場改修工事：実施 小中学校の施設修繕及び維持管理：実施			
	実績値 (目標値との比較)	小中学校機械設備等大規模改修工事：実施 (上山田小学校・山田中学校) 小中学校の屋内屋外運動場改修工事：実施 (上山田小学校) 小中学校の施設修繕及び維持管理：必要に応じて実施			
	重点課題	繰越工事及び補助事業については、令和4年度中に工事を完了する必要があるため、適切な工事監理が必要となります。			
	課題への取組と成果	令和4年度内に予定していたすべての工事等を完了ことができました。			
次年度重点課題	今後、大規模改修が必要な施設の改修時期等について検討する必要があります。				
令和4年度 自己評価	【評価の指標】		A	B	C
	実績値評価 (当該年度の目標値に対する達成度・進捗度)		○		
	課題への取組と成果 (当該年度の取組における成果・効果)		○		
※評価の指標 A：期待以上 (高い) B：概ね期待どおり (基準) C：課題あり (低い)					
評価の根拠	令和4年度事業については、義務教育学校3校の開校を控え、開校準備への業務量が想定以上に増したことで工事等の発注業務に遅れが生じましたが、このような業務過多の状況の中でも、事業を繰り越すことなく令和4年度内に完了することができたため、Aとしました。				
教育委員会評価		今回	A	(前回)	(B)

※評価の指標 A：期待以上 (高い) B：概ね期待どおり (基準) C：課題あり (低い)

主要施策	2	個性又は能力を育成する学校教育の充実		
施策の内容	5	学校施設整備の推進		
事業名 (予算/決算)	[12] 大隈城山校維持管理事業 (教育総務課：管理係) (予算：27,915千円 / 決算：23,652千円)			
事業の概要	事業の目的	すべての生徒が安心して学習に取り組めるよう校舎等の管理を行い、快適な教育環境の整備を図ります。		
	事業の内容	① ICT環境整備に向けた検討 ② 1人1台端末の整備 ③ 高速通信ネットワークの整備		
令和4年度 取組と成果	目標値 (主要な指標)	ICT環境整備に向けた検討：－ 1人1台端末の整備：実施 高速通信ネットワークの整備：－		
	実績値 (目標値との比較)	ICT環境整備に向けた検討：実施 1人1台端末の整備：実施 高速通信ネットワークの整備：実施		
	重点課題	令和4年度よりタブレットを本格的に運用するため、その中で出てくる問題点や課題を把握し、環境改善に努めます。		
	課題への取組と成果	次年度以降のタブレットの持ち帰りを見据え、端末の管理や使用上のルール、注意点を記したICT活用の手引きを作成しました。		
次年度重点課題	県立学校同様に城山校においても県校務用ネットワークを利用できるよう県に働きかけ、環境改善を図ります。			
令和4年度	【評価の指標】	A	B	C
	実績値評価 (当該年度の目標値に対する達成度・進捗度)		○	
	課題への取組と成果 (当該年度の取組における成果・効果)		○	
※評価の指標 A：期待以上 (高い) B：概ね期待どおり (基準) C：課題あり (低い)				
自己評価	評価の根拠	令和4年度事業については、おおむね予定通りに実施できました。		
教育委員会評価		今回	B	(前回) (A)

※評価の指標 A：期待以上 (高い) B：概ね期待どおり (基準) C：課題あり (低い)

主要施策	2	個性又は能力を育成する学校教育の充実			
施策の内容	5	学校施設整備の推進			
事業名 (予算/決算)	[13] 義務教育学校施設整備事業 (学校施設課：建設係) (予算：3,346,773千円 / 決算：2,385,412千円)				
事業の概要	事業の目的	小中一体型校舎による義務教育学校施設整備を行い、「質の高い教育を実現する学校」及び「地域創造の核となる学校」づくりを目指します。			
	事業の内容	義務教育学校施設整備を行います。			
令和4年度 取組と成果	目標値 (主要な指標)	令和5年4月の義務教育学校3校同時開校に必要な施設整備を完了します。			
	実績値 (目標値との比較)	校舎棟、学童保育所など開校に必要な施設整備が完了しました。			
	重点課題	令和5年4月開校に向け、特に安全面に配慮しながら施設整備事業を遂行します。			
	課題への取組と成果	3校区とも、全ての学校利用者の安全を最優先に事業を進め、令和5年4月開校に必要な施設の整備を行うことができました。			
次年度 重点課題					
令和4年度 自己評価	【評価の指標】	A	B	C	
	実績値評価 (当該年度の目標値に対する達成度・進捗度)	○			
	課題への取組と成果 (当該年度の取組における成果・効果)	○			
	※評価の指標 A：期待以上(高い) B：概ね期待どおり(基準) C：課題あり(低い)				
評価の根拠	<p>短い工期のなか施設整備を進め、目標である令和5年4月に義務教育学校3校の同時開校が可能となりました。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・稲築西義務教育学校 ・稲築東義務教育学校 ・確井義務教育学校 				
教育委員会評価		今回	A	(前回)	(B)

※評価の指標 A：期待以上(高い) B：概ね期待どおり(基準) C：課題あり(低い)

主要施策	2	個性又は能力を育成する学校教育の充実		
施策の内容	5	学校施設整備の推進		
事業名 (予算/決算)	[14] 義務教育学校開校準備事業 (教育総務課：教育企画係) (予算：6,812千円 / 決算：6,197千円)			
事業の概要	事業の目的	現中学校区を基本校区として、基本校区内の小学校と中学校を統合した義務教育学校を設置することにより、学校教育の質の向上と学校を核とした地域コミュニティの形成を目指します。		
	事業の内容	碓井・稲築・稲築東の3中学校区において、令和5年度の義務教育学校開校に向けた学校名称、校章及び校歌など、開校までに必要な事項について協議、検討を行っていきます。		
令和4年度 取組と成果	目標値 (主要な指標)	校歌・校章：令和4年度決定 義務教育学校開校に向け必要な事項：検討・調整		
	実績値 (目標値との比較)	校歌・校章は令和3年度の学校名称決定後から審議を開始し、令和4年7月に開校準備委員会の答申を得ました。		
	重点課題	学校の象徴である校歌・校章について、児童生徒の意見も反映させながら検討を行っていきます。また、開校に向け必要な項目について、検討・調整を行っていきます。		
	課題への取組と成果	令和3年3月から3中学校区に開校準備委員会を設置し協議を進めています。 校章：広く意見を集めるため、デザインの公募を実施 開校準備委員会で絞込を行い、児童生徒への意見聴取を実施 児童生徒の意見も参考に、開校準備委員会で校章の選定を実施 校歌：現校歌の継承か新校歌の制作か検討 全校区現校歌の継承（小・中の2校歌を継承する。） 歌詞の見直しは必要最小限とする。（稲築東中学校を稲築東校へ） 開校に向けた準備の一環として、閉校学校の記録誌を作成 開校準備として、新規備品の購入契約（9月議会契約議案）や引越業務委託契約を予定通り締結し、滞りなく開校準備を進めることができました。		
次年度重点課題	令和5年4月に開校を迎えましたが、引き続き旧校舍解体等の敷地内環境整備が続いていくため、児童生徒の安全確保に努め、学校との調整を行っていきます。また、義務教育学校開校記念式典や各校区における開校記念事業の実施について、地域の声を聞きながら検討していきます。			
令和4年度 自己評価	【評価の指標】	A B C		
	実績値評価（当該年度の目標値に対する達成度・進捗度）	○		
	課題への取組と成果（当該年度の取組における成果・効果）	○		
評価の根拠	※評価の指標 A：期待以上（高い） B：概ね期待どおり（ 基準 ） C：課題あり（低い） 校歌・校章の検討に当たっては、新型コロナウイルス感染拡大対策により、書面会議にて開催するなど委員間の意思疎通の面で課題がありましたが、概ね当初の予定通り令和4年7月に校歌・校章の答申がなされました。 また、新校舎の開校準備として備品購入及び引越業務についても予定通り業者決定を完了し、事前準備を進めていたため、校舎の引渡し時期が若干遅延し準備期間が短縮された中でも、開校に影響することなく開校準備を完了することができました。			
教育委員会評価	今回	A	(前回)	(B)

※評価の指標 A：期待以上（高い） B：概ね期待どおり（**基準**） C：課題あり（低い）

主要施策	2	個性又は能力を育成する学校教育の充実
施策の内容	6	地域に開かれた学校づくりの推進
事業名 (予算/決算)	[15] コミュニティ・スクール推進事業 (学校教育課: 教務係) (予算: 77千円 / 決算: 51千円)	
事業の概要	事業の目的	保護者や地域住民等が一定の権限と責任を持って学校運営に参加することで、育てたい児童生徒像、目指すべき教育のビジョンを共有し、目標の実現に向けて協働する仕組みをつくります。
	事業の内容	全校実施に向けて、段階的に実施校を増やし、各学校の準備や運営に対しての支援を行います。

令和4年度 取組と成果	目標値 (主要な指標)	学校運営協議会: 実施及び準備
	実績値 (目標値との比較)	学校運営協議会: 実施 (下山田小学校、熊ヶ畑小学校) 準備 (嘉徳小学校)
	重点課題	下山田小学校と熊ヶ畑小学校をモデルとして、令和4年度は、嘉徳小学校と牛隈小学校で本格実施に向けた準備を進めます。
	課題への取組と成果	令和4年度は、学校運営協議会の準備が整った下山田小学校と熊ヶ畑小学校においてコミュニティ・スクールが本格始動しました。また、嘉徳小学校において準備を進めてきました。 コミュニティ・スクール導入促進の支援を行うために、コミュニティ・スクールに係る活動の情報提供をし、予算面の打合せを行いました。このことにより、関係校の教職員や地域の関係者のコミュニティ・スクールに関する理解が深まり、地域との協働が進んできました。 牛隈小学校については、地域連携のための情報収集や学校体制の整備に努め、時期を見て準備を進めることとなりました。
次年度重点課題	令和5年度は、嘉徳小学校の本格実施と、牛隈小学校、上山田小学校、山田中学校の準備を進めます。	

【評価の指標】		A	B	C
令和4年度 自己評価	実績値評価 (当該年度の目標値に対する達成度・進捗度)		○	
	課題への取組と成果 (当該年度の取組における成果・効果)		○	
	※評価の指標 A: 期待以上 (高い) B: 概ね期待どおり (基準) C: 課題あり (低い)			
評価の根拠	令和4年度中に、下山田小学校と熊ヶ畑小学校において学校運営協議会が行われ、既存の事業を基盤とした地域との協働が始動しました。 また、嘉徳小学校においても、最終調整が進められ、学校運営協議会が立ち上がっています。 これらの学校の取組は、市内校長研修会等でも情報提供され、事業の推進が図られています。			

教育委員会評価	今回	B	(前回)	(B)
----------------	----	---	------	-----

※評価の指標 A: 期待以上 (高い) B: 概ね期待どおり (基準) C: 課題あり (低い)

主要施策	2	個性又は能力を育成する学校教育の充実
施策の内容	6	地域に開かれた学校づくりの推進
事業名 (予算/決算)	[16] 学校関係者評価事業 (学校教育課: 教務係) (予算: 466千円 / 決算: 93千円)	
事業の概要	事業の目的	教育活動等の成果の検証とその客観性・透明性の確保を通じて、学校経営の改善と発展を目指します。
	事業の内容	保護者、地域住民等の連携強化のために学校関係者評価を全校で実施し、評価結果を公表しています。
令和4年度 取組と成果	目標値 (主要な指標)	学校関係者評価実施・公表校: 実施
	実績値 (目標値との比較)	学校関係者評価実施・公表校: 実施 (全13校で実施)
	重点課題	令和4年度もコロナ禍が想定される中で、関係者評価委員に学校の取組を理解していただいたり、意見を集約したりする効果的な方法を検討する必要があります。
	課題への取組と成果	長く続くコロナ禍により、集合形式での学校関係者評価委員会の実施や学校行事等の公開が制限されてきたため、書面上での意見集約が主となっており、前年度までの学校関係者評価委員会の意見を教育指導計画に反映させることが十分とは言えませんでした。 そこで、再度、学校関係者評価の結果をもとに、PDCAサイクルが機能するように校長会議等で指導してきました。 コロナ禍も一定の落ち着きが見られるようになり、徐々にではありますが、学校の教育活動を公開することができ、学校の取組に対する意見を具体的にいただけるようになってきました。その結果、次年度に向けた学校評価の教育指導計画への反映が期待できるようになりました。
	次年度重点課題	学校関係者評価を学校経営に反映しているかを校長面談で確認する等、学校関係者評価のPDCAサイクルを各学校が改めて認識できるように取組みます。
令和4年度 自己評価	【評価の指標】	A B C
	実績値評価 (当該年度の目標値に対する達成度・進捗度)	○
	課題への取組と成果 (当該年度の取組における成果・効果)	○
※評価の指標 A: 期待以上 (高い) B: 概ね期待どおり (基準) C: 課題あり (低い)		
評価の根拠	学校関係者評価の実施・公表数13校の目標値に対して、すべての学校で自己評価に基づく、学校関係者評価の実施・公表・報告は、確実に行われました。 また、各学校の令和5年度の教育指導計画書に学校関係者評価委員の意見が反映されるようにしていきました。	
教育委員会評価	今回	B (前回) (B)

※評価の指標 A: 期待以上 (高い) B: 概ね期待どおり (**基準**) C: 課題あり (低い)

主要施策	2	個性又は能力を育成する学校教育の充実	
施策の内容	6	地域に開かれた学校づくりの推進	
事業名 (予算/決算)	[17] 学校開放事務事業 (教育総務課: 管理係) (予算: — 千円 / 決算: — 千円)		
事業の概要	事業の目的	生涯学習社会における文化、スポーツ等の地域活動の場として、学校施設を開放することにより、地域住民の生涯学習の推進を図ります。	
	事業の内容	①施設開放条件の方針整理及び検証 ②施設利用減免規定の見直し ③施設備品等の維持管理	
令和4年度 取組と成果	目標値 (主要な指標)	施設開放条件の方針整理及び検証: 実施 施設利用減免規定の見直し: 検討 施設備品等の維持管理: 実施	
	実績値 (目標値との比較)	施設開放条件の方針整理及び検証: 実施 施設利用減免規定の見直し: 実施 施設備品等の維持管理: 実施	
	重点課題	今後も引き続き、新型コロナウイルスの感染状況を見ながら、利用制限について、適切に判断し事業を実施していく必要があります。	
	課題への取組と成果	令和4年度については、利用制限なしで事業を実施することができました。	
次年度重点課題	義務教育学校アリーナの開放時期について検討する必要があります。 また、義務教育学校アリーナを開放する際、開放団体の利用について事前に調整する必要があります。		
令和4年度 自己評価	【評価の指標】	A B C	
	実績値評価 (当該年度の目標値に対する達成度・進捗度)		○
	課題への取組と成果 (当該年度の取組における成果・効果)		○
	※評価の指標 A: 期待以上 (高い) B: 概ね期待どおり (基準) C: 課題あり (低い)		
	評価の根拠	令和4年度については、おおむね予定通りに実施することができました。	
教育委員会評価		今回	B (前回) (B)

※評価の指標 A: 期待以上 (高い) B: 概ね期待どおり (基準) C: 課題あり (低い)

主要施策	2	個性又は能力を育成する学校教育の充実		
施策の内容	7	小中一貫教育への取組		
事業名 (予算/決算)	[18] 小中一貫教育推進事業 (学校教育課：教務係) (予算： - / 決算： -)			
事業の概要	事業の目的	小中一貫教育先進校の取組の成果を踏まえ、学年段階の区切りを柔軟に設ける等、小中学校間の連携・接続を改善するための仕組について、種々の観点に配慮しつつ十分に研究していきます。また、小中学校間の教職員の共同研究、小中連携した学力向上の取組、生徒指導の連携等を図ります。		
	事業の内容	小中学校間の教職員の共同研究を通して、小中連携を推進し、小中一貫した教育活動の充実を図ります。		
令和4年度 取組と成果	目標値 (主要な指標)	職員間の交流の実施：3回以上 一貫教育に関する先進地研修視察：実施		
	実績値 (目標値との比較)	職員間の交流の実施：各中学校区毎に3回以上は実施 一貫教育に関する先進地研修視察：1月31日～2月1日（日向市教育委員会・日向市立平岩小中学校視察）		
	重点課題	義務教育学校開校に向け、教育総務課と連携し、各中学校区の共通の方針を協議します。 教職員への理解を深める手立てを講じます。		
	課題への取組と成果	小中一貫教育本部会議(全校長)、小中一貫教育導入準備部会(主幹教諭・教務主任)を定期的に行ったことで、各中学校区の方針を共通理解することができました。各中学校区では、定期的に職員間の交流及び研修が実施され、一貫教育を実施するための具体的な話し合いが行われました。 また、一貫教育に関する先進校を視察したことで、先進校の有効な手立てがとても参考になりました。視察した内容は、小中一貫教育本部会議で報告されました。		
次年度重点課題	小中一貫教育の実施・推進状況を検証・改善することにより、各校区の実践が、嘉麻市教育課題の解決に寄与できるように働きかけます。			
令和4年度 自己評価	【評価の指標】	A	B	C
	実績値評価 (当該年度の目標値に対する達成度・進捗度)	○		
	課題への取組と成果 (当該年度の取組における成果・効果)	○		
	※評価の指標 A：期待以上（高い） B：概ね期待どおり（ 基準 ） C：課題あり（低い）			
評価の根拠	小中一貫本部会議、小中一貫導入準備部会を毎学期実施しました。その会議に向けて、各中学校区では、全職員が部会に分かれて様々な課題を協議しました。小中学校の授業交流も試行的に行われ、小中一貫教育の完全実施に向けて取組が行われてきました。 また、先進地域の視察を通して、学校経営の見通しを持つことができました。 校区としての研究発表会は、山田中学校が11月17日に集合型の授業公開、分科会を開催しました。山田中学校区3校の小学校は、オンライン型授業公開を開催しました。共に内容の充実が見られ、学習規律・授業デザイン等、学力向上につながるモデルが各小中学校に共有されました。			
教育委員会評価	今回	A	(前回)	(B)

※評価の指標 A：期待以上（高い） B：概ね期待どおり（**基準**） C：課題あり（低い）

主要施策	2	個性又は能力を育成する学校教育の充実		
施策の内容	8	教育の機会均等の促進		
事業名 (予算/決算)	[19] 就学援助事業 (学校教育課: 教務係) (予算: 100,010千円 / 決算: 92,765千円)			
事業の概要	事業の目的	経済的理由により、就学困難な児童生徒及び特別支援学級に在籍する児童生徒の保護者に対し、教育費の一部を負担します。		
	事業の内容	経済的理由により就学困難な児童生徒及び特別支援学級に在籍する児童生徒の保護者に対し、教育費の一部を負担します。さらに、必要な援助が適切な時期に支給されるよう基準の見直しを随時行います。		
令和4年度 取組と成果	目標値 (主要な指標)	該当児童生徒への援助: 100%実施		
	実績値 (目標値との比較)	該当児童生徒への援助: 100%実施		
	重点課題	経済的理由により、就学困難な児童生徒の支援を最優先とするため、実情に応じた支援を行います。児童生徒の保護者に対して本事業について、市の広報等の情報発信による周知を行います。		
	課題への取組と成果	就学援助認定率は、48.9%でした。そのうち要保護率は5.6%、準要保護率は43.2%でした。 申請のあった該当児童生徒に対し、学用品費、給食費、修学旅行費等の教育費の一部を援助することができました。また、入学準備に必要な学用品費の一部を入学前の3月下旬に援助するため、12月から対象保護者に周知し、1月から申請受付を開始しました。		
次年度重点課題	経済的理由により、就学困難な児童生徒の支援を最優先とするため、実情に応じた支援を行います。児童生徒の保護者に対して本事業について、市の広報等の情報発信による周知を行います。			
令和4年度 自己評価	【評価の指標】			
	実績値評価 (当該年度の目標値に対する達成度・進捗度)	A	B	C
	課題への取組と成果 (当該年度の取組における成果・効果)		○	
※評価の指標 A: 期待以上 (高い) B: 概ね期待どおり (基準) C: 課題あり (低い)				
評価の根拠	申請のあった該当児童生徒に対し、学用品費、給食費、修学旅行費等の教育費の一部を援助することができました。 保護者への周知方法として、市の広報誌や市のホームページに掲載しています。在校生については、学校にてお知らせを配布し、新たに学校からすぐメールを配信しお知らせしました。新小学1年生の保護者へは、お知らせを郵送しています。			
教育委員会評価	今回	B	(前回) (B)	

※評価の指標 A: 期待以上 (高い) B: 概ね期待どおり (基準) C: 課題あり (低い)

主要施策	2	個性又は能力を育成する学校教育の充実
施策の内容	8	教育の機会均等の促進
事業名 (予算/決算)	[20] 奨学金事業 (教育総務課：教育総務係) (予算：10,580千円 / 決算：10,534千円)	
事業の概要	事業の目的	生活困窮者の学ぶ機会の支援並びに教育の機会均等の促進と、経済的負担の軽減を図ります。
	事業の内容	①奨学資金貸付業務 ②奨学資金返還収納業務 ③奨学資金審議会事務 ④県教育文化奨学財団奨学金申請受付業務 など
令和4年度 取組と成果	目標値 (主要な指標)	奨学資金貸付者数：20人 奨学資金返還金徴収率の向上 (令和4現年度分)：89%
	実績値 (目標値との比較)	令和4年度新規貸付者数：8名 奨学資金返還金徴収率の向上 (現年度分)：90.45%
	重点課題	口座振替に加えコンビニ支払いの推進や納付相談等の個別対応、連帯保証人への請求などを実施しながら、滞納者への取組を強化していきます。
	課題への取組と成果	口座振替実施者数：87名 (総返還者数：167名) 令和4年度口座振替開始者：2名 督促通知：10月 (現年・過年度分)、2月 (現年・過年度分)、3月 (現年度分) 納付相談：8件、納付計画：5件 新型コロナウイルス感染拡大による猶予：6件 滞納を生まない取組として、現年度納付率の向上を最優先に実施しており、現年度徴収率で目標値を達成できました。しかし、過年度収納率では昨年度を下回りました。
次年度重点課題	口座振替に加えコンビニ支払いの推進や納付相談等の個別対応、連帯保証人への請求などを実施しながら、滞納者への取組を強化していきます。	
令和4年度 自己評価	【評価の指標】	A B C
	実績値評価 (当該年度の目標値に対する達成度・進捗度)	○
	課題への取組と成果 (当該年度の取組における成果・効果)	○
	※評価の指標 A：期待以上 (高い) B：概ね期待どおり (基準) C：課題あり (低い)	
評価の根拠	新規貸付者数は減少となりましたが、市内中学校、近隣の高等学校及び大学等への周知等も行い、希望者全員に貸付を実施することができました。 また、督促や個別相談等の実施、コンビニ支払いの推進等で、現年度徴収率が目標値を達成できました。	
教育委員会評価		今回 B 前回 (B)

※評価の指標 A：期待以上 (高い) B：概ね期待どおり (基準) C：課題あり (低い)

主要施策	3	豊かな人間性及び志をもってたくましく生きる力を培う教育の推進			
施策の内容	1	道徳性と自立心を養う心の教育の充実			
事業名 (予算/決算)	[21] 道徳教育推進事業 (学校教育課: 教務係) (予算: — / 決算: —)				
事業の概要	事業の目的	道徳教育及び「特別の教科 道徳」において、小中学校が連携しながら教員の実践力の向上を図ることにより、学校教育全体を通じて児童生徒の道徳的な判断力、心情、実践意欲と態度の育成を図ります。			
	事業の内容	小中連携を踏まえた道徳教育研修会を実施します。また、各小中学校において道徳科に関する校内研修を実施します。			
令和4年度 取組と成果	目標値 (主要な指標)	道徳科に関する校内研修の実施: 実施			
	実績値 (目標値との比較)	道徳科に関する校内研修の実施: 13校全て(100%)			
	重点課題	令和5年度の小中一貫教育実施に向けて、小・中学校の連携を強める取組を行い、内容項目について校種相互の系統性を理解した授業を実践するよう指導・助言を行います。			
	課題への取組と成果	道徳が教科化され小学校は3年目、中学校では2年目の取組でした。年間指導計画に基づいた授業実践の各学校への指導により、授業時数の量的確保はなされていました。ただし、道徳科の重点目標や内容項目についての小中学校の系統性が不十分な点や展開の概要(1単位時間に主な流れ)を活用した授業計画や指導方法に課題があったため、各学校の校内研修で教職員の指導力向上につなげる指導・助言を行っているところです。			
次年度重点課題	義務教育学校開校とともに、小中一貫教育の完全実施に伴い、児童生徒の実態に応じた重点目標の設定や内容項目の系統性を踏まえた授業を実践するよう指導・助言を行います。				
令和4年度 自己評価	【評価の指標】	A	B	C	
	実績値評価 (当該年度の目標値に対する達成度・進捗度)		○		
	課題への取組と成果 (当該年度の取組における成果・効果)		○		
	※評価の指標 A: 期待以上 (高い) B: 概ね期待どおり (基準) C: 課題あり (低い)				
評価の根拠	目標達成に係る指標は達成しています(令和4年度教育課程実施状況調査による)。ただし、小中一貫教育に向けた取組は不十分であり、各学校への継続した指導が必要です。さらに、校内研修以外でも、県教委主催の校外研修等で学んだ内容を校内へ還元するなど、更なる指導力向上の取組を推進する必要があります。				
教育委員会評価		今回	B	(前回)	(B)

※評価の指標 A: 期待以上 (高い) B: 概ね期待どおり (**基準**) C: 課題あり (低い)

主要施策	3	豊かな人間性及び志をもってたくましく生きる力を培う教育の推進		
施策の内容	1	道徳性と自立心を養う心の教育の充実		
事業名 (予算/決算)	[22] キャリア教育推進事業 (学校教育課: 教務係) (予算: 228千円 / 決算: 0千円)			
事業の概要	事業の目的	家庭や地域と連携して、職業・職場体験活動等を行い、児童生徒一人ひとりのキャリア発達を支援し、望ましい勤労観、職業観を育てます。		
	事業の内容	市内の小中学校において、総合的な学習の時間や特別活動等の中で、基礎的・汎用的能力を育成する教育活動を展開します。		
令和4年度 取組と成果	目標値 (主要な指標)	P D C Aを検証する校内推進委員会の設置: 設置 キャリアパスポートの活用: 100%		
	実績値 (目標値との比較)	P D C Aを検証する校内推進委員会の設置: 設置 (全13校で設置) キャリアパスポートの活用: 100%		
	重点課題	キャリアパスポートの作成と校種間の引き継ぎの徹底		
	課題への取組と成果	<p>コロナ禍のため、本年度も職場体験学習はすべての学校で実施できませんでした。しかし、オンライン形式で職業調べや講師を招いての聞き取り学習会を実施するなど、キャリア教育推進を行うことができました。</p> <p>また、主幹教諭研修会において、キャリア教育と他教科との連携を図るカリキュラム・マネジメントを行い、キャリア教育の年間指導計画の改善・実践ができるように指導助言を行いました。また、キャリアパスポートの活用・充実、校種間の引き継ぎについても指導を行いました。</p> <p>その結果、各学校において、キャリアパスポートの作成・更新及び接続校への引き継ぎを行うことができました。</p>		
次年度重点課題	キャリア教育のP D C A検証の実施			
令和4年度 自己評価	【評価の指標】	A	B	C
	実績値評価 (当該年度の目標値に対する達成度・進捗度)		○	
	課題への取組と成果 (当該年度の取組における成果・効果)		○	
	※評価の指標 A: 期待以上 (高い) B: 概ね期待どおり (基準) C: 課題あり (低い)			
評価の根拠	<p>キャリア教育に関する調査及び教育指導計画書をもとにキャリア教育の年間指導計画の改善・実施について確認したところ、小中学校13校において、改善・実施していました。</p> <p>また、キャリアパスポートについても作成・更新、接続校への引き継ぎをすることができました。</p> <p>特に令和5年度に開校する義務教育学校では、小中9年間を見通したキャリア教育の取組の計画・立案を行うことができました。</p>			
教育委員会評価	今回	B	(前回)	(B)

※評価の指標 A: 期待以上 (高い) B: 概ね期待どおり (基準) C: 課題あり (低い)

主要施策	3	豊かな人間性及び志をもってたくましく生きる力を培う教育の推進		
施策の内容	2	健やかな心身をはぐくむ健康教育の充実		
事業名 (予算/決算)	[23] 学校保健事業 (学校教育課: 教務係) (予算: 20,939千円 / 決算: 20,324千円)			
事業の概要	事業の目的	児童生徒及び教職員の心身両面にわたる健康管理の徹底を図ります。また、事故、加害行為、災害等により、児童生徒に危険又は危害が生じた場合の対処として、災害共済に加入します。		
	事業の内容	児童生徒、教職員の健康診断を実施 市内の小中学校に学校医、学校歯科医、学校薬剤師を配置 各学校において学校保健に関する年間計画を作成 災害共済加入手続きや給付金の支払業務実施 新型コロナウイルス感染症について取組の検討・実施		
令和4年度 取組と成果	目標値 (主要な指標)	健康診断受診率: 100% 災害共済加入率: 100% 学校保健年間計画作成: 実施		
	実績値 (目標値との比較)	健康診断受診率: 94.5% 災害共済加入率: 100% 学校保健年間計画作成: 実施		
	重点課題	健康診断受診率が目標達成にかかる指標(100%)を達成できるよう関係機関等との連携を図り、小中学校へ指導及び健康診断未受診者に対して啓発を重点的に行い、受診を促します。新型コロナウイルス感染症について取組の継続を行います。		
	課題への取組と成果	関係機関と連携を図り、小中学校へ指導や保護者への通知を行いました。また、児童生徒及び教職員の心身両面にわたる健康管理を徹底できるように、学校保健年間計画の見直しと検証を進めるよう指導しました。災害共済加入手続きや給付金の支払い業務を行いました。		
次年度重点課題	健康診断受診率が目標達成にかかる指標(100%)を達成できるよう関係機関等との連携を図り、小中学校へ指導及び健康診断未受診者に対して啓発を重点的に行い、受診を促します。			
令和4年度 自己評価	【評価の指標】	A	B	C
	実績値評価 (当該年度の目標値に対する達成度・進捗度)		○	
	課題への取組と成果 (当該年度の取組における成果・効果)		○	
※評価の指標 A: 期待以上 (高い) B: 概ね期待どおり (基準) C: 課題あり (低い)				
評価の根拠	健康診断受診率94.5%となりました。「未検査用の受診のお知らせ」の配布や、校医やかかりつけ医での受診を促すなどの取組を行いました。また、学校における新型コロナウイルス感染拡大防止のために各学校にコロナ対策の消耗品(抗原検査キット等)の配布や備品(空気清浄機や加湿器等)の導入を行いました。			
教育委員会評価	今回	B	(前回)	(B)

※評価の指標 A: 期待以上 (高い) B: 概ね期待どおり (基準) C: 課題あり (低い)

主要施策	3	豊かな人間性及び志をもってたくましく生きる力を培う教育の推進		
施策の内容	2	健やかな心身をはぐくむ健康教育の充実		
事業名 (予算/決算)	[24] 学校給食運営事業 (学校教育課：学校給食係) (予算：240,950千円 / 決算：223,609千円)			
事業の概要	事業の目的	嘉麻市内小中学校で完全給食を行い、学校給食における衛生管理の徹底を図るとともに、魅力ある学校給食の満実につとめ、「食事の重要性」等を身につける「食育」に関する教育を支援します。		
	事業の内容	<ul style="list-style-type: none"> ・望ましい食習慣を養い、栄養の改善及び健康の増進のため安心・安全な学校給食を実施するとともに、教職員への食育や衛生管理の研修を行うなど食の知識向上を図ります。 ・安心・安全な給食の提供を行うため、保健所等の立ち入り調査にて指摘された事項について対応し、更なる衛生管理にの徹底を図ります。 ・地産地消を継続推進し、利用率の向上を図ります。 ・安定した給食の提供のため、給食事業の民間委託について検討します。 		
令和4年度 取組と成果	目標値 (主要な指標)	年間給食実施回数：190回 地場産食材利用率：30%		
	実績値 (目標値との比較)	年間給食実施回数：190回 地場産食材利用率：32.2%		
	重点課題	安心・安全な学校給食を実施し、衛生管理の徹底を図ります。また、「食の重要性」を身につける教育の支援を行います。地場産利用率については更なる利用率の向上を目指します。義務教育学校に新設される調理場の整備を行うとともに、学校給食の民間委託に向け、適切な業者選考を実施します。		
	課題への取組と成果	<p>年間190回の給食を実施し、1日約3,000食の提供を行いました。衛生管理に関する調理員研修を実施し、安心・安全な給食の提供向上に努めました。また、食のおたより「かまっ子」を発行するなど、食育に関する資料の提供を実施いたしました。</p> <p>地産地消の推進に関しては、地元直売所を通じ、地場産の利用に努めました。地場産利用率32.2%で、前年度に比べ0.1ポイント下落しましたが、目標である地場産食材の利用率は達成できました。</p> <p>義務教育学校の新設調理場の整備を行うとともに、安心・安全な調理業務の委託業者の選考を行うため、プロポーザル方式により選考しました。</p>		
次年度重点課題	安心・安全な学校給食を実施し、衛生管理の徹底を図ります。また、「食の重要性」を身につける教育の支援を行います。地場産利用率については更なる利用率の向上を目指します。学校給食調理等業務委託の状況把握に努め、今後の民間委託の拡大に向け、業務内容の検証を行います。			
令和4年度 自己評価	【評価の指標】	A	B	C
	実績値評価 (当該年度の目標値に対する達成度・進捗度)	○		
	課題への取組と成果 (当該年度の取組における成果・効果)	○		
※評価の指標 A：期待以上（高い） B：概ね期待どおり（基準） C：課題あり（低い）				
評価の根拠	<p>安心・安全な学校給食を実施できました。地場産利用率についても直売所との連絡を密にし、利用促進に努めました。</p> <p>義務教育学校に新設される給食調理室の設計に関わり、衛生管理の徹底が図られるよう調整しました。学校給食調理業務の民間委託について調査研究を行い、安心・安全な給食調理が実施できる業者の選定を行いました。</p>			
教育委員会評価	今回	A	(前回)	(B)

※評価の指標 A：期待以上（高い） B：概ね期待どおり（基準） C：課題あり（低い）

主要施策	3	豊かな人間性及び志をもってたくましく生きる力を培う教育の推進		
施策の内容	2	健やかな心身をはぐくむ健康教育の充実		
事業名 (予算/決算)	[25] 学校給食費算定及び収納事業 (学校教育課：学校給食係) (予算：182千円 / 決算：137千円)			
事業の概要	事業の目的	学校給食費は賄材料費の購入に要する経費のみを保護者負担としており、安心・安全な食材の購入等を行うため適正な算定を行い、適正な徴収業務を行うことで、受益者負担の公平性を確保します。		
	事業の内容	年間を通じた学校給食栄養価の確認と賄材料費の適切な執行を行います。未納通知や催告書の発送、訪問徴収等の実施及び高額滞納者に対して、納付相談の実施や児童手当からの引去りの同意の取り交わしを実施します。		
令和4年度 取組と成果	目標値 (主要な指標)	現年度収納率：98.90% 過年度収納率：14.20%		
	実績値 (目標値との比較)	現年度収納率：98.91% 過年度収納率：12.86%		
	重点課題	受益者負担の公平性を確保するため、更なる収納率の向上を目指し、徴収業務を行います。義務教育学校開校に伴い、すべての学校が自校給食となることから給食費の市内統一に向けた取組を実施します。		
	課題への取組と成果	未納通知や催告書の発送、新型コロナウイルス感染症に配慮しながらの訪問徴収等収納率向上への取組を実施しました。 現年度(令和4年度)の収納率は98.91%で、前年度に比べて0.28ポイント下落しましたが、目標値である98.9%を達成することができました。過年度の収納率は12.86%で、前年度に比べて1.54ポイント上昇しました。目標値である14.20%に及びませんでした。過年度の繰越額については昨年度に比べ、63,127円減少しました。新型コロナウイルス感染症による影響も考慮しながら、夜間徴収などの新規の各戸訪問の実施は控えめました。義務教育学校開校に伴い、すべての学校が自校方式での給食となることから給食献立を市内統一献立とし、給食費を自校方式の額に統一しました。		
次年度重点課題	受益者負担の公平性を確保するため、更なる収納率の向上を目指し、徴収業務を行います。物価高騰による賄材料費への影響を踏まえ、今後の給食費について検討します。			
令和4年度 自己評価	【評価の指標】	A B C		
	実績値評価 (当該年度の目標値に対する達成度・進捗度)	○		
	課題への取組と成果 (当該年度の取組における成果・効果)	○		
	※評価の指標 A：期待以上(高い) B：概ね期待どおり(基準) C：課題あり(低い)			
評価の根拠	未納通知や催告書の発送、新型コロナウイルス感染症に配慮しながらの訪問徴収等収納率向上への取組を実施しました。 現年度(令和4年度)の収納率は目標値を達成することができました。過年度の収納率は目標値に及びませんでした。過年度の繰越額については昨年度に比べ、63,127円減少しました。新型コロナウイルス感染症による影響も考慮しながら、夜間徴収などの新規の各戸訪問の実施は控えながらも、一定の成果を上げることができました。 また、義務教育学校開校に伴い、自校方給食となることから、給食献立を市内統一献立とし、給食費を自校方式の額に統一にしました。			
教育委員会評価	今回	B	(前回)	(B)

※評価の指標 A：期待以上(高い) B：概ね期待どおり(基準) C：課題あり(低い)

主要施策	3	豊かな人間性及び志をもってたくましく生きる力を培う教育の推進			
施策の内容	3	家庭・地域・学校における読書活動推進			
事業名 (予算/決算)	[26] 読書活動推進事業 (学校教育課: 教務係) (予算: 29,218千円 / 決算: 27,034千円)				
事業の概要	事業の目的	児童生徒の学習や読書意欲を高めるため、市立図書館や嘉麻市学校図書館協議会等との連携を図りながら、学校図書館の整備や図書司書機能の充実に努めるとともに、組織的、継続的な読書活動の推進に努めます。			
	事業の内容	図書館の管理運営、図書教育の指導補助、図書の受入れ、貸出し業務、書架の整理、廃棄業務、教科用図書関係事務等を行うため、図書司書を配置し、学校図書館の整備、充実に努めています。			
令和4年度 取組と成果	目標値 (主要な指標)	学校図書館での一人当たり貸出冊数: 小学校 56冊、中学校 15冊			
	実績値 (目標値との比較)	学校図書館での一人当たり貸出冊数: 小学校 44冊、中学校 9冊			
	重点課題	学校図書館の管理運営を行うため、学校司書を配置し、図書館の整備、充実に努めます。貸出冊数の目標値を小学校56冊、中学校15冊と定め、読書量を増やすための取組を行います。特に中学校の読書量を増やすための取組が必要です。			
	課題への取組と成果	各学校に学校司書、図書整理員を配置し図書館利用の促進、読書活動の充実に努めました。また、情報の収集・選択・活用能力を育成して、教育課程の展開に寄与する「学習・情報センター」として機能を果たすことができるよう蔵書を充実させ、授業で活用できるよう整備を行いました。しかしながら小学校3校と中学校3校においては、義務教育学校への引越し作業等のため学校図書館を閉鎖したこともあり学校図書館での一人当たり貸出冊数は、小・中学校で目標値に達することができませんでした。			
次年度重点課題	児童生徒一人当たりの年間貸出冊数の目標値を小学校58冊、中学校18冊と定め読書量を増やす取組を行います。				
令和4年度 自己評価	【評価の指標】	A	B	C	
	実績値評価 (当該年度の目標値に対する達成度・進捗度)			○	
	課題への取組と成果 (当該年度の取組における成果・効果)		○		
※評価の指標 A: 期待以上 (高い) B: 概ね期待どおり (基準) C: 課題あり (低い)					
評価の根拠	小・中学校ともには目標値を達成できた学校があるものの平均すると目標値に達することができませんでした。早急に児童生徒の読書意欲を高める取組を行う必要があります。				
教育委員会評価		今回	C	(前回)	(B)

※評価の指標 A: 期待以上 (高い) B: 概ね期待どおり (基準) C: 課題あり (低い)

主要施策	3	豊かな人間性及び志をもってたくましく生きる力を培う教育の推進
施策の内容	4	いじめ・不登校問題等の解決に向けた体制の充実
事業名 (予算/決算)	[27] 適応指導教室(れすとぴあ) 推進事業 (学校教育課:教務係) (予算:7,168千円 / 決算:6,612千円)	
事業の概要	事業の目的	心理的又は情緒的理由により登校できない状態にある児童生徒の学校復帰を支援し、不登校児童生徒数の減少に取り組めます。教育相談、体験学習、教科指導、集団生活への適応指導、学校生活及び社会生活に適応できるための助言、援助を行います。
	事業の内容	教育相談、体験学習、教科学習、集団生活への適応指導、学校生活及び社会生活に適応できるための助言、援助を行います。
令和4年度 取組と成果	目標値 (主要な指標)	適応指導教室(れすとぴあ)の実施:実施 チャレンジ登校の実施:1回以上/学期
	実績値 (目標値との比較)	適応指導教室(れすとぴあ)の実施:実施 チャレンジ登校の実施:1回以上/学期 (適応指導、教科指導、教育相談を実施)
	重点課題	学校・担任と連携した個別の支援計画の作成と教科指導・進路指導の支援の充実を図ります。 子育て支援課と連携した支援の充実を図ります。
	課題への取組と成果	個別の支援計画を作成し、適応指導教室での学習状況を丁寧に学校・担任と情報交換を行ったことにより、個に応じた指導を行うことができました。そして、各学校と連携しながらチャレンジ登校を実施することを通して、学校復帰を目指した支援を行うことができました。 また、子育て支援課と常に児童生徒の状況を交流したことにより、日常の指導に活かすことができました。
次年度重点課題	学校との連携を密にし、個別の児童生徒のニーズに応じた支援・指導を行います。そのために、義務教育学校をはじめ各学校との情報共有を図ります。また、ICT(カスタ)活用による支援の充実を目指します。 家庭・関係機関・SSWやSCと連携し、児童生徒の情緒の安定と活力の蓄積を図ります。	
令和4年度 自己評価	【評価の指標】	A B C
	実績値評価(当該年度の目標値に対する達成度・進捗度)	○
	課題への取組と成果(当該年度の取組における成果・効果)	○
※評価の指標 A:期待以上(高い) B:概ね期待どおり(基準) C:課題あり(低い)		
評価の根拠	嘉麻市の不登校児童生徒数は、コロナ不安により増加しました。適応指導教室においても、令和3年度末で21人、令和4年度末で9人の在籍数となりました。そのような状況の中で3人の指導員が個に応じた支援計画を作成し、教科指導や進路指導を丁寧に行いました。その結果、中学3年生3人のうち2人が進路選択で自己決定をし、進学をすることができました。 また、学校や子育て支援課との連携も十分行われた結果、適応指導教室としての機能を十分に果たすことができました。	
教育委員会評価	今回	B (前回) (A)

※評価の指標 A:期待以上(高い) B:概ね期待どおり(基準) C:課題あり(低い)

主要施策	3	豊かな人間性及び志をもってたくましく生きる力を培う教育の推進		
施策の内容	4	いじめ・不登校問題等の解決に向けた体制の充実		
事業名 (予算/決算)	[28] 不登校対策支援事業 (学校教育課：教務係) (予算： - / 決算： -)			
事業の概要	事業の目的	個々の不登校児童生徒の状況に応じた支援策等を行い、不登校児童生徒の学校復帰及び社会的自立を目的とします。また、未然防止のための取組を共有し、新規に不登校児童生徒を生まないことを目的とします。		
	事業の内容	各学校の担当者、子育て支援課、適応指導教室と連携をし、個々の不登校児童生徒の状況に応じた支援策等(児童生徒理解・支援シートの活用等)を共有する会議を行います。		
令和4年度 取組と成果	目標値 (主要な指標)	不登校児童生徒発生率：全国平均(2.57%)以下 ※令和4年度の数値は未公表のため、令和3年度の数値を使用		
	実績値 (目標値との比較)	不登校児童生徒発生率：3.80%(97名)		
	重点課題	不登校予防に向けた早期の取組を充実させるために、不登校対策会議の早期開催と取組の検証を図り、実効性のある効果的な取組を市内小中学校で実施します。		
	課題への取組と成果	不登校対策会議を実施し、各学校における不登校の未然予防の取組や不登校児童生徒への支援内容等の情報共有とともに、継続した取組の重要性を指導しました。また、効果のある取組を市内小中学校で共有し、自校の取組の参考とするとともに、校内体制の見直し等を図ることや不登校予防・学校復帰に向けた取組も指導・助言しました。その結果、小学校では不登校児童数の減少(令和3年度35名→令和4年度32名)、学校復帰者の増加(令和3年度1名→令和4年度3名)の成果が見られました。ただし、中学校においては、不登校生徒数は増加し、学校復帰者も減少している課題が残りました。		
次年度重点課題	不登校の解消に向け、未然予防の早期の取組を充実とともに、実効性のある効果的な取組が市内小・中・義務教育学校で実施されるよう、不登校対策会議を開催(年間4回)し、取組の検証と改善を図ります。			
令和4年度 自己評価	【評価の指標】	A	B	C
	実績値評価(当該年度の目標値に対する達成度・進捗度)			○
	課題への取組と成果(当該年度の取組における成果・効果)		○	
	※評価の指標 A：期待以上(高い) B：概ね期待どおり(基準) C：課題あり(低い)			
評価の根拠	目標達成にかかる指標が達成できませんでした(令和4年度「いじめ・不登校等調査」及び事件・事故に関する報告による)。しかしながら、不登校対策の効果的な取組を市内小中学校で共有することで、各小中学校における不登校対策の質的向上(マンツーマン対応、オンラインによる学習支援、保護者や関係機関との連携等)が確認され、小学校での不登校児童数の減少や学校復帰者の増加につながりました。			
教育委員会評価	今回	B	(前回)	(B)

※評価の指標 A：期待以上(高い) B：概ね期待どおり(基準) C：課題あり(低い)

主要施策	3	豊かな人間性及び志をもってたくましく生きる力を培う教育の推進		
施策の内容	5	家庭・地域の教育力を高める支援体制の充実		
事業名 (予算/決算)	[29] 郷土を愛する子どもの育成事業 (学校教育課：教務係) (予算：1,349千円 / 決算：654千円)			
事業の概要	事業の目的	ふるさと嘉麻を胸に志を持ち、社会にはばたく子どもたちを育成するため、地域の「ひと・もの・こと」を活用した教育課程を編成・実施します。		
	事業の内容	地域の「ひと・もの・こと」をふるさと学習教材集としてとりまとめ、そうした教材や地域人材等を活用した教育活動を各学校において展開します。		
令和4年度 取組と成果	目標値 (主要な指標)	地域教育資源・人材を活用する教育計画作成：作成 ふるさと学習教材集作成：第2版配布及び各校区実践		
	実績値 (目標値との比較)	ふるさと学習教育計画作成：作成 ふるさと学習教材集：第2版の作成及び配布		
	重点課題	各学校においてふるさと学習教育計画によるふるさと学習の実施		
	課題への取組と成果	ふるさと学習計画に基づき、各学校の状況に応じて、全ての小中学校でふるさと学習に取り組むことができました。 特に稲築東中学校では、ふるさと学習の成果を嘉麻市長に提案するといった活動を通して、郷土を愛する心の育成に取り組めました。 こうした各学校の学習成果をふるさと学習教材集第2版として作成することができました。今年度は新たに1実践を追加するとともに、2実践の修正・改善を図ることができました。		
	次年度重点課題	ふるさと学習教材集第3版の配布及び各校区実践		
令和4年度 自己評価	【評価の指標】	A B C		
	実績値評価 (当該年度の目標値に対する達成度・進捗度)	○		
	課題への取組と成果 (当該年度の取組における成果・効果)	○		
	※評価の指標 A：期待以上 (高い) B：概ね期待どおり (基準) C：課題あり (低い)			
評価の根拠	教育計画をもとに各学校においてふるさと学習に取り組むことができました。 校区内の教材を中心とした学習内容から嘉麻市全体をふるさととして捉えて学習を展開していくようになったことは大きな成果だと考えます。 また、ふるさと教材集第1版増補版をもとに今年度実施したふるさと学習の教材を盛り込んで、ふるさと教材集第2版を作成しました。			
教育委員会評価	今回	B	(前回)	(B)

※評価の指標 A：期待以上 (高い) B：概ね期待どおり (**基準**) C：課題あり (低い)

主要施策	3	豊かな人間性及び志をもってたくましく生きる力を培う教育の推進		
施策の内容	5	家庭・地域の教育力を高める支援体制の充実		
事業名 (予算/決算)	[30] 家庭教育支援事業 (生涯学習課：社会教育係) (予算：232千円 / 決算：218千円)			
事業の概要	事業の目的	子育て家庭の孤立を防ぐとともに、子育ての不安や負担感・行き詰まり感の解消を図る事業の実施や、地域活動を通して子育て家庭と地域の人たちの交流や保護者同士の交流を図り、地域ぐるみで子育て家庭を支援する体制づくりを目指します。		
	事業の内容	①メディアが及ぼす影響・対策に関する啓発活動等 (メディア講座) ②屋外体験事業 (ミニプレーパーク事業) ③家庭教育支援講座 (子育て講座)		
令和4年度 取組と成果	目標値 (主要な指標)	メディア啓発講座実施校数 (小学校)：7校 メディア啓発講座実施校数 (中学校)：4校		
	実績値 (目標値との比較)	メディア啓発講座実施校数 (小学校)：6校 メディア啓発講座実施校数 (中学校)：5校		
	重点課題	SNSでのいじめ問題が発生していることから、メディアに関する啓発を広範に行っていく必要があります。		
	課題への取組と成果	各講座において、実施時間短縮や回数を増やして1回の参加人数を減らすなど、感染対策を講じることと併せて、オンラインでも実施することで多くの子どもたちにメディア啓発を行いました。 ・メディア啓発講座 [24回：対象者816人] ・屋外体験事業 ミニプレーパーク [6回：282人] のびのびプレーパーク [10回：36人] ・家庭教育支援講座 ポジティブ・ディシプリン [2回：27人] おんぶとだっこのぬくもり育児 [1回：親子6組] はたらく車集合講座 [1日：164人]		
次年度重点課題	SNSから犯罪につながるものが多発し、社会問題化していることから、自分への身体的影響と社会的影響についての情報提供を含めたメディア啓発を行っていく必要があります。			
令和4年度 自己評価	【評価の指標】	A	B	C
	実績値評価 (当該年度の目標値に対する達成度・進捗度)		○	
	課題への取組と成果 (当該年度の取組における成果・効果)		○	
	※評価の指標 A：期待以上 (高い) B：概ね期待どおり (基準) C：課題あり (低い)			
評価の根拠	13校中11校で入学説明会時にメディア啓発講座を実施し、残る2校についても資料配布による啓発を行いました。 屋外体験事業については、事前申込制にし、密にならないよう調整を図ることで多くの方々に安心して参加いただきました。家庭教育支援講座と併せて子育て家庭の保護者同士の交流の場も提供できたことから、総合的に勘案してB評価としています。			
教育委員会評価	今回	B	前回	(B)

※評価の指標 A：期待以上 (高い) B：概ね期待どおり (基準) C：課題あり (低い)

主要施策	3	豊かな人間性及び志をもってたくましく生きる力を培う教育の推進		
施策の内容	5	家庭・地域の教育力を高める支援体制の充実		
事業名 (予算/決算)	[31] 青少年健全育成事業 (生涯学習課：社会教育係) (予算：1,310千円 / 決算：1,163千円)			
事業の概要	事業の目的	青少年問題に関わる関係機関や団体はもとより、学校、家庭、地域が連携をより強化し、社会全体の取組として青少年の健全育成を図ります。		
	事業の内容	①少年相談センター業務 ②少年補導委員委嘱による巡回指導		
令和4年度 取組と成果	目標値 (主要な指標)	少年補導委員研修会開催数：1回 巡回指導回数(年間)：24回		
	実績値 (目標値との比較)	少年補導委員研修会開催数：1回 巡回指導回数(年間)：24回		
	重点課題	少年補導委員への継続的な支援を行います。また、活動を行う上で効果的な研修を実施します。		
	課題への取組と成果	<ul style="list-style-type: none"> 少年相談センター業務 電話相談件数は延べ3件であり、相談者に寄り添った丁寧な対応を行いました。スキルアップに関する研修について情報収集を行いましたが、相応の研修がなかったため、自己研修と業務に対する職員間の認識の共有を図りました。 少年補導委員委嘱による巡回指導 少年補導委員を委嘱し、継続的な支援を行うことにより、巡回指導の充実を図ることができました。 		
次年度重点課題	少年補導委員への継続的な支援を行います。また、青少年の健全育成に向けて、より効果的な活動となるよう、委員の資質の向上を図る研修を実施します。			
令和4年度 自己評価	【評価の指標】	A	B	C
	実績値評価 (当該年度の目標値に対する達成度・進捗度)		○	
	課題への取組と成果 (当該年度の取組における成果・効果)		○	
	※評価の指標 A：期待以上(高い) B：概ね期待どおり(基準) C：課題あり(低い)			
評価の根拠	<p>少年補導委員を委嘱し、年間を通して定期的な巡回指導を行うことにより、重大事案の発生抑止に繋がったものと考えます。</p> <p>前年度は開催できなかった少年補導委員研修会についても、今年度は開催することができ、巡回指導とともに目標値を達成できたことからB評価としています。</p>			
教育委員会評価	今回	B	前回	(B)

※評価の指標 A：期待以上(高い) B：概ね期待どおり(基準) C：課題あり(低い)

主要施策	3	豊かな人間性及び志をもってたくましく生きる力を培う教育の推進			
施策の内容	6	男女共同参画教育の推進			
事業名 (予算/決算)	[32] 学校における男女共同参画推進事業 (学校教育課：教務係) (予算： - / 決算： -)				
事業の概要	事業の目的	男女共同参画の意識づくりをする上で、家庭や学校・地域での教育が重要であり、「嘉麻市男女共同参画推進条例」の理念に基づき、男女共同参画の趣旨や必要性について、教育を通して意識改革と啓発を促進します。			
	事業の内容	学校教育の場においては、指導者の共通認識のもとに男女平等の教育の体制をつくり、男女平等の視点から習慣・行事等の見直し、固定的性別役割分担にとらわれない指導を進めます。			
令和4年度 取組と成果	目標値 (主要な指標)	男女共同参画に関する授業の実施：13校			
	実績値 (目標値との比較)	男女共同参画に関する授業の実施：13校（全校で実施）100%			
	重点課題	男女共同参画の視点に基づいた授業等について、更に積極的に推進していくよう各学校に働きかける必要があります。			
	課題への取組と成果	<p>嘉麻市男女共同参画推進条例をわかりやすく解説した「学ぼうそして行動しよう」の小冊子を活用した授業を実施するとともに、引き続き男女共同参画を意識した教育課程の編成を推進するよう各学校に働きかけを行いました。</p> <p>その結果、小学校では、家庭科や社会科、理科、生活科、学級活動等で男女共同参画の視点に基づいた授業が実施され、中学校でも社会科、道徳科等で男女共同参画の視点に基づいた授業が実施されています。</p> <p>また、校内研修（教職員研修）においても、男女共同参画に係る研修の実施が進んでいます。</p>			
次年度重点課題	教職員の嘉麻市男女共同参画推進条例の周知・理解を継続して進め、男女共同参画の視点に基づいた授業づくりを充実させていく必要があります。				
令和4年度 自己評価	【評価の指標】		A	B	C
	実績値評価（当該年度の目標値に対する達成度・進捗度）			○	
	課題への取組と成果（当該年度の取組における成果・効果）			○	
※評価の指標 A：期待以上（高い） B：概ね期待どおり（基準） C：課題あり（低い）					
評価の根拠	男女共同参画の視点に基づいた授業の実施は、市内全小中学校で進めています。また、研修や諸会議を通じた各学校での共通理解も進んでいます。				
教育委員会評価		今回	B	(前回)	(B)

※評価の指標 A：期待以上（高い） B：概ね期待どおり（基準） C：課題あり（低い）

主要施策	3	豊かな人間性及び志をもってたくましく生きる力を培う教育の推進		
施策の内容	6	男女共同参画教育の推進		
事業名 (予算/決算)	[33] 地域社会における男女共同参画推進事業 (生涯学習課：社会教育係) (予算： — 千円 / 決算： — 千円)			
事業の概要	事業の目的	家庭の中や地域活動における固定的な性別役割分担意識に基づく慣習・慣行の見直しを促進し、男女共同参画の啓発を行うとともに、講座を実施する中で性別役割分担意識の解消に繋がります。		
	事業の内容	社会教育における事業や講座を通して、男女共同参画の趣旨や必要性について意識啓発を行うとともに、性別役割分担意識の解消に努めます。		
令和4年度 取組と成果	目標値 (主要な指標)	啓発活動の実施：5回		
	実績値 (目標値との比較)	啓発活動の実施：5回		
	重点課題	男女共同参画推進課と連携し、男女共同参画の意識改革及び啓発を推進します。		
	課題への取組と成果	男性のための家事講座や介護ミニ講座を開催し、定員15人に対し、ほぼ100%の参加状況になっています。 また、高校生ボランティアを対象としたボランティア講座を3回開催し、性別的役割分担意識をもたないよう啓発を行い、高校生自身はもちろん、ミニプレーパーク等の家庭教育支援事業において、参加者である子どもたちを始め、保護者へも啓発を推進する意識改革に取り組ましました。		
次年度重点課題	男女共同参画の意識の涵養に向けて、子ども向けの事業において、職業や行動等は性別で決められるものではないこと等の啓発に努めます。			
令和4年度 自己評価	【評価の指標】	A	B	C
	実績値評価 (当該年度の目標値に対する達成度・進捗度)		○	
	課題への取組と成果 (当該年度の取組における成果・効果)		○	
	※評価の指標 A：期待以上（高い） B：概ね期待どおり（ 基準 ） C：課題あり（低い）			
評価の根拠	家庭内の性別的役割分担の解消につながるように、男性のための家事や介護の講座を開催しており、高い参加率となっています。また、高校生ボランティアを対象としたボランティア講座において啓発を行うことで、高校生はもちろん、高校生ボランティアが参加する各種事業の場において、性別的役割分担意識をなくし、参加者である子どもたちに向けた男女共同参画の意識の涵養と保護者への固定的な性別役割意識の解消につながるような機会とし、様々な世代の方への啓発に努めました。 その他の体験事業においても、男女共同参画の啓発に努めていますが、保護者の参加については依然として女性の割合が多い状況です。意識改革に向けた啓発活動は、継続して行い、少しでも多くの方に繰り返し伝えていくことが大切と考え、総合評価はB評価としています。			
教育委員会評価	今回	B	前回	(C)

※評価の指標 A：期待以上（高い） B：概ね期待どおり（**基準**） C：課題あり（低い）

主要施策	4	生涯学習の実現を目指す社会教育の推進		
施策の内容	1	生涯学習関係機関、団体との連携・協力体制の整備		
事業名 (予算/決算)	[34] 社会教育関係団体等育成事業 (生涯学習課：社会教育係) (予算：4,915千円 / 決算：4,186千円)			
事業の概要	事業の目的	社会教育関係団体の主体的・自主的活動が活発に行われることにより、地域の社会教育活動の活性化を図ります。		
	事業の内容	①社会教育関係団体への指導・助言 ②適正な補助金の交付		
令和4年度 取組と成果	目標値 (主要な指標)	支援団体数：9団体		
	実績値 (目標値との比較)	支援団体数：6団体		
	重点課題	団体構成者の高齢化・固定化など、各団体の実情に応じた指導・助言を行う必要があります。		
	課題への取組と成果	他団体の活動状況についても情報提供を行い、コロナ禍での事業の進め方や今後の方向性等について助言を行いました コロナ対策のため、今年度も事業・イベントを自粛した団体もあり、補助金交付団体数は9団体のうち6団体でした。活動自粛における補助金の取扱い等について不安を感じる団体へも、今後の活動再開に通じるよう指導・助言を行いました。		
次年度重点課題	団体構成者の高齢化・固定化などもあり、各団体の活動が継続的に進められるよう、状況に応じた指導・助言を継続する必要があります。			
令和4年度 自己評価	【評価の指標】	A	B	C
	実績値評価 (当該年度の目標値に対する達成度・進捗度)		○	
	課題への取組と成果 (当該年度の取組における成果・効果)		○	
	※評価の指標 A：期待以上 (高い) B：概ね期待どおり (基準) C：課題あり (低い)			
評価の根拠	各団体において、アフターコロナの今後の活動に向けて、これまでの活動を見直す機会が多くなっています。現状を踏まえながら、今後も継続的に活動できる体制づくりに必要と思われる情報を提供するとともに指導・助言を行いました。 補助対象の9団体中、3団体については感染拡大防止対策を考慮した事業の中止・自粛であるため、致し方ないものと考えており、目標値に達していませんが、B評価としています。			
教育委員会評価	今回	B	前回	(B)

※評価の指標 A：期待以上 (高い) B：概ね期待どおり (**基準**) C：課題あり (低い)

主要施策	4	生涯学習の実現を目指す社会教育の推進		
施策の内容	2	学習機会の提供及び学習成果の活用促進		
事業名 (予算/決算)	[35] 社会教育施設整備事業 (生涯学習課：社会教育係) (予算：44,543千円 / 決算：36,524千円)			
事業の概要	事業の目的	地域の生涯学習の拠点である社会教育施設の適切な維持管理運営を行い、市民の教育・文化の向上と生きがいつくりにつなげます。		
	事業の内容	社会教育施設の定期的な点検や修繕などの維持管理を行います。		
令和4年度 取組と成果	目標値 (主要な指標)	施設利用者数：24,600人		
	実績値 (目標値との比較)	施設利用者数：27,061人		
	重点課題	経常経費のほか、老朽化に伴う突発的な故障等による修繕費の支出も増加傾向にあるため、廃止を含めた施設の運営管理を検討する必要があります。		
	課題への取組と成果	経年劣化に伴う不慮の故障等が発生し、市民の教育・文化活動や発表を行う場と機会に支障がでたところもありましたが、個別施設の見直し計画・方針等を鑑み、地元団体と代替案について協議し、理解を得ました。併せて修繕に係る年次計画の見直しを行い、今後も地域の生涯学習の拠点施設として適切な維持及び管理運営を行います。		
	次年度重点課題	年次計画に基づいた必要最小限の修繕等を適切に行います。また、廃止を含めた施設の運営管理を継続して協議する必要があります。		
令和4年度 自己評価	【評価の指標】	A B C		
	実績値評価 (当該年度の目標値に対する達成度・進捗度)	○		
	課題への取組と成果 (当該年度の取組における成果・効果)	○		
	※評価の指標 A：期待以上 (高い) B：概ね期待どおり (基準) C：課題あり (低い)			
評価の根拠	<p>コロナ対策による施設休館、利用時間の短縮、利用人数の制限及び利用の自粛などはありましたが、安心して利用できるよう感染対策を講じた衛生・安全管理を行うことで、多くの方に利用いただき、目標値を達成することができたため、実績値評価はA評価としています。</p> <p>個別施設の見直し計画・方針等に従って、計画的に修繕及び協議を進めていることから、課題への取組と成果もB評価としています。</p>			
教育委員会評価	今回	B	前回	(B)

※評価の指標 A：期待以上 (高い) B：概ね期待どおり (**基準**) C：課題あり (低い)

主要施策	4	生涯学習の実現を目指す社会教育の推進		
施策の内容	2	学習機会の提供及び学習成果の活用促進		
事業名 (予算/決算)	[36] 生涯学習推進事業 (生涯学習課：社会教育係) (予算：25,348千円 / 決算：23,209千円)			
事業の概要	事業の目的	市民が学習した成果を地域で活用し、更なる学びや生きがいに繋がる「知の循環型社会」を構築することにより、お互いに学び合い、生きがいのある豊かな地域社会をつくります。		
	事業の内容	①ボランティア人材バンクの活用 ②内外部研修による職員の資質向上		
令和4年度 取組と成果	目標値 (主要な指標)	内部研修会の実施：2回 人材バンク登録者数：260人 外部研修会への参加：5回 人材バンク派遣回数：70回		
	実績値 (目標値との比較)	内部研修会の実施：1回 人材バンク登録者数：235人 外部研修会への参加：2回 人材バンク派遣回数：20回		
	重点課題	人材バンクの活用促進と生涯学習関係職員の資質向上を図ります。		
	課題への取組と成果	<ul style="list-style-type: none"> 内外部研修による職員の資質向上 内部研修については、課内研修を実施しました。コロナ対策により参集形式の実施が困難であったため、テキストを活用しての研修としました。また、社会教育総合センターや筑豊教育事務所主催の外部研修への参加を促進しました。 ボランティア人材バンクの活用 ホームページでの周知と併せて、学校に向けて人材バンクの活用について周知を行いました。 		
次年度重点課題	義務教育学校が開校したこともあり、学校における人材バンクの活用促進と生涯学習関係職員の資質向上を図ります。			
令和4年度 自己評価	【評価の指標】	A	B	C
	実績値評価 (当該年度の目標値に対する達成度・進捗度)		○	
	課題への取組と成果 (当該年度の取組における成果・効果)		○	
	※評価の指標 A：期待以上(高い) B：概ね期待どおり(基準) C：課題あり(低い)			
評価の根拠	<p>人材バンク登録者は高齢者が多数を占めていることもあり、各学校においては感染対策により活用が難しい部分もありますが、校長会において人材バンクの活用促進について改めて周知したこと、また各学校においても様々な事業が再開されたこともあり、目標値は下回っていますが、増加傾向となっています。</p> <p>外部研修の周知・参加促進は遅滞なく行いましたが、事業との調整もあり、参加回数は目標値に届きませんでした。内部研修については、個々の社会教育にかかる資質向上に向けた個人研修を実施しました。</p> <p>目標値を下回っていますが、まだコロナ禍の影響も大きく、難しい面もあることから、総合評価はB評価としています。</p>			
教育委員会評価	今回	B	前回	(B)

※評価の指標 A：期待以上(高い) B：概ね期待どおり(基準) C：課題あり(低い)

主要施策	4	生涯学習の実現を目指す社会教育の推進
施策の内容	2	学習機会の提供及び学習成果の活用促進
事業名 (予算/決算)	[37] 公立公民館・自治公民館連携強化推進事業 (生涯学習課：中央公民館係) (予算：131,796千円 / 決算：124,552千円)	
事業の概要	事業の目的	公立公民館と自治公民館の情報共有、分館と自治公民館への活動支援、施設の適切な維持管理を行うことを目的とします。
	事業の内容	①公民館関係者を対象とした研修会や会議の開催 ②分館、自治公民館への活動補助金の交付、地域が所有する公民館類似施設の修繕等に係る補助金の交付 ③市が所有する施設の適切な維持管理

令和4年度 取組と成果	目標値 (主要な指標)	研修会の開催及び参加：4回 地区公民館長会議開催：12回 分館長会議の開催：2回 自治公民館長会議の開催：3回 補助金の交付：12,118,000円
	実績値 (目標値との比較)	研修会の開催及び参加：4回 地区公民館長会議の開催：12回 分館長会議の開催：2回 自治公民館長会議の開催：2回 補助金の交付：11,749,608円
	重点課題	自治公民館長会議を開催して情報収集や課題把握に努め、自治公民館活動の活性化を図りながら、嘉麻市公民館基本計画の分館方式移行に係る問題点を整理した内容についても意見を徴し、実施計画を策定する必要があります。
	課題への取組と成果	<ul style="list-style-type: none"> 各種研修会に参加できたことで公民館関係者の資質向上が図れました。 地区公民館長、分館長、自治公民館長会議は概ね目標値どおりに開催し、情報共有が図れました。 分館や自治公民館の活動に対して補助金を交付し、地域活動の維持に努めることができました。 公民館類似施設の修繕等に係る経費の一部を補助したことで、施設の適切な維持管理への支援ができました。 公立公民館施設の計画的な修繕や保守点検を適切に行いました。 嘉麻市公民館基本計画に基づく組織再編（分館方式移行）については、問題点を整理した内容全てに対しての意見を聴取することができませんでした。
	次年度重点課題	分館、自治公民館との情報共有や地域課題の把握に努めながら、地域活動への支援を行います。嘉麻市公民館基本計画に基づく組織再編（分館への移行）については、分館や自治公民館、地域コミュニティに関係する庁内部署と協議を行う必要があり時間を要することが想定されますが、合意形成を図りながら計画の改定に向けて着手する必要があります。

令和4年度	【評価の指標】	A	B	C
	実績値評価（当該年度の目標値に対する達成度・進捗度）		○	
	課題への取組と成果（当該年度の取組における成果・効果）		○	
※評価の指標 A：期待以上（高い） B：概ね期待どおり（基準） C：課題あり（低い）				
自己評価	評価の根拠	概ね目標値どおりの会議の開催及び研修会へ参加し情報共有や公民館職員 の資質向上が図れたことや、補助金を適正に交付したことで、分館や自治公 民館の活動への支援ができ、施設の維持管理も適切にできたことを評価して います。		

教育委員会評価	今回	B	(前回)	(B)
---------	----	---	------	-----

※評価の指標 A：期待以上（高い） B：概ね期待どおり（基準） C：課題あり（低い）

主要施策	4	生涯学習の実現を目指す社会教育の推進
施策の内容	2	学習機会の提供及び学習成果の活用促進
事業名 (予算/決算)	[3 8] 公民館活動活性化推進事業 (生涯学習課：中央公民館係) (予算：1, 977千円 / 決算：1, 559千円)	
事業の概要	事業の目的	地域住民相互の交流と教養の向上、さらには健康増進を図り、地域住民の生きがいがづくり、地域コミュニティの醸成を目的とします。
	事業の内容	教育・文化に関する各種事業や地域住民参加型の事業を実施します。
令和4年度 取組と成果	目標値 (主要な指標)	地域住民との協働事業：16事業 公民館講座・教室等：18講座 青少年体験活動推進事業：2事業
	実績値 (目標値との比較)	地域住民との協働事業：15事業 公民館講座・教室等：18事業 青少年体験活動推進事業：9事業
	重点課題	コロナ禍により各種団体等の活動も停止したことから、このまま活動が衰退するようであれば、活動への支援が必要になります。
	課題への取組と成果	<ul style="list-style-type: none"> ・団体等の活動も徐々に再開してきており、懸念していたコロナ禍における団体等の活動衰退はみられませんでした。 ・地域住民との協働事業は、各種スポーツ大会や公民館祭りなどを実施し、地域住民相互の交流や健康増進に努めることができました。 ・公民館講座や教室等は、人権、文化、防災、男女共同参画、デジタルデバイスなど地域課題にも関連する内容で開催しました。また、受講生同士で自主サークルを設立するなど、地域住民の交流、教養の向上が図れました。 ・青少年体験活動推進事業は、コロナ禍により通学合宿は実施できませんでしたが、冬場のアウトドア体験、夏・冬休み期間中を利用した「ときめき学習」など、地域住民が子どもたちと一緒に体験活動を実施するなど、青少年の健全育成や地域住民の生きがいがづくりの場の提供に努めることができました。
	次年度重点課題	地域の実情の即した教育・文化に関する各種事業を実施するため、地域課題の把握や住民のニーズを把握する必要があります。
令和4年度 自己評価	【評価の指標】	A B C
	実績値評価 (当該年度の目標値に対する達成度・進捗度)	○
	課題への取組と成果 (当該年度の取組における成果・効果)	○
※評価の指標 A：期待以上（高い） B：概ね期待どおり（ 基準 ） C：課題あり（低い）		
評価の根拠	概ね目標値どおりの地域の実情に即した事業が実施できており、特に青少年体験活動推進事業においては、地域やボランティアが主体的に企画・運営するなど地域住民の生きがいがづくりの場になっています。また、公民館講座から自主サークルが設立されたことなども評価しています。	
教育委員会評価	今回	A (前回) (B)

※評価の指標 A：期待以上（高い） B：概ね期待どおり（**基準**） C：課題あり（低い）

主要施策	4	生涯学習の実現を目指す社会教育の推進		
施策の内容	3	図書館の利用促進		
事業名 (予算/決算)	[39] 図書館施設管理運営事業 (生涯学習課：図書館係) (予算：一 千円 / 決算：一 千円)			
事業の概要	事業の目的	図書館施設及び図書館システムを適切に管理運営することにより、読書環境の整備・充実を図り、快適かつ安心して利用できる図書館サービスを提供することを目的とします。		
	事業の内容	①図書館施設の維持管理及び図書館システムの更新 ②選書等資料の管理 ③配本車の巡回 ④移動図書館車の運行 ⑤図書館だよりの発行 など		
令和4年度 取組と成果	目標値 (主要な指標)	施設利用者数： 56,500人 年間貸出冊数：188,000冊 市民一人当たり貸出冊数： 4.69冊 移動図書館車の貸出冊数：17,300冊		
	実績値 (目標値との比較)	施設利用者数： 41,137人 年間貸出冊数：136,375冊 市民一人当たり貸出冊数：3.66冊 移動図書館車の貸出冊数：8,724冊		
	重点課題	令和4年度から嘉麻市立図書館の管理運営を指定管理者へ委託するため、市と指定管理者とで行う施設管理及び図書館運営が問題なく行われるよう細かな連絡調整を図ります。		
	課題への取組と成果	指定管理者との定例会議などにおいて、施設管理及び図書館運営の引継ぎ・進捗管理などの協議・確認を丁寧に行うことで、業務のスムーズな移行に努めました。 施設管理については、双方の連絡相談を密にしながら、碓井図書館の空調機修繕や山田図書館の天井修繕などを実施しました。		
	次年度重点課題	移動図書館車の運行計画について、市内全体に効果的に図書館サービスを届ける新たな方針について、様々な観点から検討する必要があります。		
令和4年度	【評価の指標】	A	B	C
	実績値評価 (当該年度の目標値に対する達成度・進捗度)		○	
	課題への取組と成果 (当該年度の取組における成果・効果)		○	
※評価の指標 A：期待以上(高い) B：概ね期待どおり(基準) C：課題あり(低い)				
自己評価	評価の根拠	<p>スタッフ不足による火曜日休館について、指定管理者への移行に伴い令和4年4月から常時開館に戻すことができました。また、各実績値は、目標値に達しなかったものの、昨年度と比較して数値が好転していることから、実績値はB評価としています。</p> <p>また、課題への取組と成果については、指定管理者と定期的に細かな連絡調整などが図られたことからB評価としています。</p> <p>よって、総合もB評価としています。</p>		
教育委員会評価		今回	B	(前回) (B)

※評価の指標 A：期待以上(高い) B：概ね期待どおり(基準) C：課題あり(低い)

主要施策	4	生涯学習の実現を目指す社会教育の推進			
施策の内容	3	図書館の利用促進			
事業名 (予算/決算)	[40] 読書活動推進事業 (生涯学習課：図書館係) (予算：一 千円 / 決算：一 千円)				
事業の概要	事業の目的	おはなし会・講座・読書講演会など、市民の読書活動のきっかけづくりとなる事業を開催し、読書活動の推進及び図書館利用の促進を図ることを目的とします。			
	事業の内容	①ブックスタート事業 ②絵本ですくすく講座 ③赤ちゃんタイム ④朝の読書活動支援 (小学校) ⑤ブックトーク (小・中学校、土曜未来塾) ⑥定例おはなし会及びおはなし工作会 ⑦夏休みイベント ⑧一日図書館員 ⑨職場体験の受入れ ⑩図書館教養講座 ⑪読書講演会 ⑫映画会			
令和4年度 取組と成果	目標値 (主要な指標)	おはなし会1回当たり参加者数 (幼児及び児童向け)：11人 読書講演会参加者数：55人 ブックスタート配布率：100%			
	実績値 (目標値との比較)	おはなし会1回当たり参加者数 (幼児及び児童向け)：4.0人 読書講演会参加者数：21人 ブックスタート配布率：100%			
	重点課題	令和4年度から嘉麻市立図書館の管理運営を指定管理者へ委託するため、目標に沿った読書推進事業が行われるよう、指定管理者と細かな連絡調整を図ります。			
	課題への 取組と成果	指定管理者との定例会議などにおいて、各種読書推進事業の計画及び報告に関するヒアリングを丁寧に行い、よりよい事業を目指して意見交換を行いました。 庁舎内の各部署との連携事業についても、必要に応じて各部署との連絡調整を行いながら、スムーズな移行に努めました。また、各種読書推進事業の広報に伴う、嘉麻市公式LINEなどの活用について支援しました。			
次年度 重点課題	引き続き各部署と指定管理者との連絡調整に努めながら、各種読書推進事業を支援する必要があります。				
令和4年度 自己評価	【評価の指標】		A	B	C
	実績値評価 (当該年度の目標値に対する達成度・進捗度)			○	
	課題への取組と成果 (当該年度の取組における成果・効果)		○		
※評価の指標 A：期待以上 (高い) B：概ね期待どおり (基準) C：課題あり (低い)					
評価の根拠	<p>ブックスタート配布率を除いて目標値を下回っています。読書講演会は感染対策上の理由から定員15人としていましたが、希望者多数により21人の参加となりました。また、おはなし会は、コロナ禍の参加者数低調が尾を引いていますが、今後回復する兆しも見受けられることから、実績値はB評価としています。</p> <p>指定管理者との連絡調整を行い、従来の事業への引継ぎについても円滑に進められたことから、課題への取組と成果はA評価としています。</p> <p>新規事業を企画立案し、各館において積極的・意欲的に取組んでいることから、総合はA評価としています。</p>				
教育委員会評価		今回	A	(前回)	(B)

※評価の指標 A：期待以上 (高い) B：概ね期待どおり (基準) C：課題あり (低い)

主要施策	4	生涯学習の実現を目指す社会教育の推進		
施策の内容	3	図書館の利用促進		
事業名 (予算/決算)	[41] 図書ボランティア養成及び活動支援事業 (生涯学習課：図書館係) (予算：一 千円 / 決算：一 千円)			
事業の概要	事業の目的	図書館事業の推進に必要な図書ボランティアの養成、活動支援を行うことを目的とします。		
	事業の内容	新規ボランティアの養成及び既存ボランティアの支援並びに嘉麻市図書ボランティア連絡協議会の活動支援を行っています。 ①読書ボランティアスキルアップ研修 ②読書ボランティア養成講座 ③嘉麻市図書ボランティア連絡協議会（総会、研修会開催支援など）		
令和4年度 取組と成果	目標値 (主要な指標)	ボランティア養成講座参加者数：9人 ボランティアスキルアップ講座参加者数：31人 ボランティア活動参加者数：62人		
	実績値 (目標値との比較)	ボランティア養成講座参加者数：19人 ボランティアスキルアップ講座参加者数：未実施 ボランティア活動参加者数：70人		
	重点課題	令和4年度から嘉麻市立図書館の管理運営を指定管理者へ委託するため、市と指定管理者と協力し、継続的なボランティア活動ができるような支援体制の強化を図ります。		
	課題への取組と成果	市内の図書ボランティアの状況について、指定管理者との定例会議をとおして共有し、継続的なボランティア活動支援について確認を行いました。また、現在感染対策のため活動を中止しているブックスタートボランティアに対して、再開時期を検討していることを伝えるため、現状報告の案内文書を発送し、継続的な協力を求めました。 嘉麻市図書ボランティア協議会については、代表者会議を年1回開催し、今後の再開時期について連絡調整することを確認しました。		
	次年度重点課題	指定管理者と協力し、ボランティア団体・個人などとの連絡相談を進めるとともに、活動再開時期の検討含めて支援体制を再構築する必要があります。		
令和4年度 自己評価	【評価の指標】	A B C		
	実績値評価 (当該年度の目標値に対する達成度・進捗度)	○		
	課題への取組と成果 (当該年度の取組における成果・効果)	○		
	※評価の指標 A：期待以上（高い） B：概ね期待どおり（基準） C：課題あり（低い）			
評価の根拠	スキルアップ講座は未実施でしたが、ボランティア講座参加者数とボランティア活動参加者数は目標値を上回りました。また、ボランティア講座において、参加者の中から、今後のボランティア参加に繋がる機運も高まったことから、実績値はB評価としています。 課題への取組と成果については、指定管理業者やボランティア団体と連絡相談を行い、状況把握に努めるとともに、再開時期についても継続的に検討していたことから、B評価とし、総合はB評価としています。			
教育委員会評価	今回	B	(前回)	(B)

※評価の指標 A：期待以上（高い） B：概ね期待どおり（基準） C：課題あり（低い）

主要施策	5	体力及び運動能力向上の推進			
施策の内容	1	スポーツによる地域の活性化			
事業名 (予算/決算)	[42] スポーツコミュニティ創造事業 (スポーツ推進課：プロジェクトK・スポーツ推進係) (予算：6,515千円 / 決算：5,785千円)				
事業の概要	事業の目的	スポーツと健康運動を通じて、市民一人ひとりの潜在的能力の向上を図るとともに、地域における市民の主体的な活動を促進し、地域力が向上することを目的とします。			
	事業の内容	スポーツを通じた地域の主体的かつ継続的な取組を促進するため、リズム体操教室等を市主催だけでなく、外部のスポーツ指導者と連携し、地域に出向いて実施します。また、教室の運営の仕方などを指導し、誰もが気軽に地域でスポーツができるよう、自主的に教室を開催できるような仕組みを形成します。			
令和4年度 取組と成果	目標値 (主要な指標)	スポーツ指導参加者：700人 スポーツによるコミュニティ育成支援団体：15団体 各教室開催数：72回			
	実績値 (目標値との比較)	スポーツ指導参加者：1,442人 スポーツによるコミュニティ育成支援団体：19団体 各教室開催数：109回			
	重点課題	新型コロナウイルスの感染状況を見極めながら、教室や出前講座を実施し、市民が自主的に地域での活動を行えるよう支援します。			
	課題への取組と成果	新型コロナウイルス感染対策による事業縮減等を行いました。限られた機会を活かし、ふれあい・いきいきサロン出前講座、学童保育所出前講座、リズム体操教室などを実施しました。 ・サロン出前講座：19団体、平日41回、土日5回、参加者514人 ・学童保育所出前講座：市内7学童保育所、12回実施、参加者102人 ・リズム体操教室：44回実施、参加者762人 ・リフレッシュヨガ教室：3回実施、参加者30人、託児者1人 ・悩み解消！トレーニング教室：4回実施、参加者34人			
次年度重点課題	新型コロナウイルス感染対策の規制緩和に伴い、積極的に教室や出前講座を実施し、市民が自主的に地域での活動を行えるよう支援します。				
令和4年度 自己評価	【評価の指標】				
	実績値評価（当該年度の目標値に対する達成度・進捗度）	A	B	C	
	課題への取組と成果（当該年度の取組における成果・効果）	○			
	※評価の指標 A：期待以上（高い） B：概ね期待どおり（ 基準 ） C：課題あり（低い）				
評価の根拠	新型コロナウイルス感染防止対策を徹底し、限られた機会を活かし、対象者の拡充を図りながら事業を実施したことにより、スポーツ指導参加者、コミュニティ育成支援団体、各種教室開催数の実績値が目標値を上回る成果あげていますので、実績値評価はA、課題への取組と成果もA評価としています。 また、サロン出前講座を行っている7団体68人に対してアンケートを実施したところ、出前講座の内容が「とても良かった」が34人、「良かった」が25人、次年度の出前講座について、「また来たい」が59人との回答を得ています。				
教育委員会評価		今回	A	(前回)	(A)

※評価の指標 A：期待以上（高い） B：概ね期待どおり（**基準**） C：課題あり（低い）

主要施策	5	体力及び運動能力向上の推進			
施策の内容	1	スポーツによる地域の活性化			
事業名 (予算/決算)	[43] スポーツ大会誘致・スポーツ大会支援事業 (スポーツ推進課：施設管理運営係) (予算： — 千円 / 決算： — 千円)				
事業の概要	事業の目的	スポーツに関係する多くの人々が嘉麻市を訪れ、スポーツを行い、観るとともに地域の人々と交流し、本市の豊富な自然環境と観光資源に触れ、親しんで帰ってもらうことで、地域活性化につなげることを目的とします。			
	事業の内容	スポーツ大会やスポーツ合宿の機会を活用するため、関係機関と連携して、交流人口の増加と地域の活性化につなげます。 また、大会の支援を行い、市民の運営や企画への参加を促します。			
令和4年度 取組と成果	目標値 (主要な指標)	大会・合宿による市外利用者数(交流人口)：12,300人 支援大会の参加者数：7,800人			
	実績値 (目標値との比較)	大会・合宿による市外利用者数(交流人口)：3,979人 支援大会の参加者数：3,140人			
	重点課題	令和4年度は、嘉徳総合体育館特定天井改修工事が実施されることから、誘致をしているフットサル県リーグへの連絡調整等を行っていく必要があります。 また、引き続き新型コロナウイルスの影響を受けることが想定される中、大会の誘致・支援をどのように行っていくかが課題となります。			
	課題への取組と成果	新型コロナウイルス感染症の影響や嘉徳総合体育館の特定天井改修工事により、嘉麻シティマラソンが中止となりましたが、全国高校駅伝福岡県大会に関しましては通常開催がなされました。 その他の大会等においても自粛による中止や延期が相次ぐなか、幅広く施設情報を提供するため、休館情報や開館情報等をホームページやポスター、SNSで発信するなどし、利用者への情報提供に努めました。 嘉徳総合体育館特定天井改修工事に伴う施設の休館に関して、誘致しているフットサル県リーグと連絡調整を図り、計9回実施することができました。 また、感染症対策を徹底し施設内の衛生管理に努めました。			
次年度重点課題	新型コロナウイルス感染対策の規制緩和により、各種大会等による施設利用の増加が見込まれる中、いつでも利用者を安全・安心して受け入れができるよう、衛生管理や安全管理をする必要があります。				
令和4年度 自己評価	【評価の指標】	A	B	C	
	実績値評価 (当該年度の目標値に対する達成度・進捗度)			○	
	課題への取組と成果 (当該年度の取組における成果・効果)		○		
	※評価の指標 A：期待以上(高い) B：概ね期待どおり(基準) C：課題あり(低い)				
評価の根拠	新型コロナウイルス感染症の影響や嘉徳総合体育館の改修工事により、嘉麻シティマラソンが開催中止となったほか、その他の大会等においても自粛による中止や延期が相次いだこともあり、交流人口は3,979人、大会参加者数は3,140人となり、目標とする大会・合宿による市外利用者数(交流人口)11,700人、支援大会の参加者数7,400人を下回ったことから、実績値評価はC評価としています。 課題への取組と成果については、利用者を安全・安心して受け入れができるよう、衛生管理や安全管理を徹底して行ったことからB評価としています。				
教育委員会評価		今回	B	(前回)	(B)

※評価の指標 A：期待以上(高い) B：概ね期待どおり(基準) C：課題あり(低い)

主要施策	5	体力及び運動能力向上の推進		
施策の内容	2	スポーツ環境の整備		
事業名 (予算/決算)	[44] スポーツ環境創成事業 (スポーツ推進課：プロジェクトK・スポーツ推進係) (予算： 千円 / 決算： 千円)			
事業の概要	事業の目的	家庭や学校、自然の中など身近な場所での運動を進め「市内のいたるところがスポーツ環境であること」という意識改革を目的とします。		
	事業の内容	自然豊かで文化性に満ちた市内の環境を再発見するとともに、効果的なウォーキングの仕方やコースの情報提供を行うことで市民の利用を促進します。また、子どもたちの成長を促し、心に刺激を与えるような環境づくりを目指し、アイデアに満ちたスポーツ環境を整備します。		
令和4年度 取組と成果	目標値 (主要な指標)	ホームページにおける軽運動等の情報掲載件数：2件 脳機能発達を目指した生活環境改善に関する研修会の開催数：2回 ジョギング・ウォーキングイベント開催件数：1件		
	実績値 (目標値との比較)	ホームページにおける軽運動等の情報掲載件数：2件 脳機能発達を目指した生活環境改善に関する研修会の開催数：0回 ジョギング・ウォーキングイベント開催件数：1件		
	重点課題	新型コロナウイルス感染症に対応した事業実施を図り、脳機能発達を目指した生活環境改善に関する研修会やジョギング・ウォーキングイベントを開催します。		
	課題への取組と成果	新型コロナウイルス感染拡大により、脳機能発達を目指した生活環境改善に関する研修会が中止となりましたが、ウォーキングイベントやサロン出前講座等において、参加者に対して脳機能発達を目指した生活環境の改善について説明を行いました。 ・ウォーキングイベント：1回実施、参加者9人 嘉麻市ホームページにおいてリフレッシュヨガ教室、悩み解消！トレーニング教室及びウォーキングイベントについての情報を掲載しました。 ・悩み解消！トレーニング教室情報掲載：1件 ・リフレッシュヨガ教室情報掲載：1件 ・ウォーキングイベント情報掲載：1件		
	次年度重点課題	新型コロナウイルス感染対策の規制緩和に伴い、積極的に事業実施を図り、脳機能発達を目指した生活環境改善に関する研修会やジョギング・ウォーキングイベントを開催します。		
令和4年度 自己評価	【評価の指標】	A B C		
	実績値評価 (当該年度の目標値に対する達成度・進捗度)	○		
	課題への取組と成果 (当該年度の取組における成果・効果)	○		
	※評価の指標 A：期待以上（高い） B：概ね期待どおり（ 基準 ） C：課題あり（低い）			
評価の根拠	ホームページにおける軽運動等の情報掲載件数とジョギング・ウォーキングイベントにつきましても目標値を達成しましたが、脳機能発達を目指した生活環境改善に関する研修会は中止となり、目標値を下回っているため実績値評価はBであります。研修会につきましては、新型コロナウイルス感染拡大防止のため、やむを得ず中止となりました。よって、課題への取組と成果はB評価としています。			
教育委員会評価	今回	B	(前回)	(B)

※評価の指標 A：期待以上（高い） B：概ね期待どおり（**基準**） C：課題あり（低い）

主要施策	5	体力及び運動能力向上の推進			
施策の内容	2	スポーツ環境の整備			
事業名 (予算/決算)	[45] 社会体育施設管理運営事業 (スポーツ推進課：施設管理運営係) (予算：524,724千円 / 決算：463,237千円)				
事業の概要	事業の目的	市民のニーズに応じた、より快適なスポーツ活動の場を提供することを目的としています。			
	事業の内容	スポーツ施設の整備を効果的かつ効率的な管理運営と、市民ニーズに対応するため施設の整備などの検討を行い、適正化を図ります。			
令和4年度 取組と成果	目標値 (主要な指標)	社会体育施設利用者数：367,100人			
	実績値 (目標値との比較)	社会体育施設利用者数：257,501人			
	重点課題	令和4年度は、嘉徳総合体育館特定天井改修工事や繰越となったサルビアパーク空調改修工事、稲築屋内球技場照明取替工事が実施されることに伴い、工事期間中の施設利用者への事前の周知や定期利用団体等の他の体育施設への利用の調整を行っていく必要があります。			
	課題への取組と成果	嘉徳総合体育館特定天井改修工事、サルビアパーク空調改修工事、稲築屋内球技場照明取替工事及び稲築武道館柔道場床改修工事等による施設的环境整備を行いました。 また、施設的环境整備に伴う工事期間中の施設利用者への事前の周知や定期利用団体等の他の体育施設への利用の調整を図りました。			
次年度重点課題	令和5年度は大規模改修工事として、サルビアパークの体育館及び温水プールの特天改修工事が施行されることに伴い、工事期間中の施設利用者への事前の周知や定期利用団体等の他の体育施設への利用の調整を行っていく必要があります。				
令和4年度 自己評価	【評価の指標】				
	実績値評価 (当該年度の目標値に対する達成度・進捗度)	A	B	C	
	課題への取組と成果 (当該年度の取組における成果・効果)		○		
	※評価の指標 A：期待以上（高い） B：概ね期待どおり（ 基準 ） C：課題あり（低い）				
評価の根拠	新型コロナウイルス感染拡大の防止対策において、感染症対策を徹底し施設的环境整備を行いました。また、嘉徳総合体育館、サルビアパーク、稲築屋内球技場、稲築武道館等の改修工事により休館する施設が多かったため、施設の利用者数は257,501人と目標値を下回ったことから、実績値評価はC評価としています。 課題への取組と成果については、工事期間中の施設利用者への事前の周知や定期利用団体等の他の体育施設への利用の調整を行ったことからB評価としています。				
教育委員会評価		今回	B	(前回)	(B)

※評価の指標 A：期待以上（高い） B：概ね期待どおり（**基準**） C：課題あり（低い）

主要施策	5	体力及び運動能力向上の推進			
施策の内容	3	生涯スポーツの推進			
事業名 (予算/決算)	[46] プロジェクトK事業 (スポーツ推進課：プロジェクトK・スポーツ推進係) (予算：4, 824千円 / 決算：3, 060千円)				
事業の概要	事業の目的	乳幼児から高齢者、障がい者に至るすべての市民を対象に、誰もが幸福で豊かな生活を営むことができるよう、脳科学、認知科学などに基づいたコーディネーショントレーニングを導入することにより、体力・運動能力の発達だけでなく、知的能力の発達、情緒的な安定や創造性豊かな人格形成等を図ることを目的とします。			
	事業の内容	乳幼児から高齢者、障がい者に至るすべての市民を対象とし、各年齢層に応じたコーディネーショントレーニングのプログラムを構築します。そのため、市内の乳幼児施設職員をはじめ、小・中・高等学校の教員や障がい者施設職員などに研修会を開催するなど、指導者を育成・発掘し、関係機関と連携しながらプログラムの普及を図ります。			
令和4年度 取組と成果	目標値 (主要な指標)	コーディネーショントレーニング指導者研修会開催数：3回 乳幼児施設コーディネーショントレーニング導入率：75% 小学校コーディネーショントレーニング導入校数：8校 中学校コーディネーショントレーニング導入校数：5校			
	実績値 (目標値との比較)	コーディネーショントレーニング指導者研修会開催数：5回 乳幼児施設コーディネーショントレーニング導入率：82% 小学校コーディネーショントレーニング導入校数：8校 中学校コーディネーショントレーニング導入校数：5校			
	重点課題	新型コロナウイルス感染状況を考慮しながら、教員用コーディネーショントレーニング指導書の作成は継続し、更なる乳幼児施設への導入率向上が課題です。			
	課題への取組と成果	小学校新学習指導要領の各領域区分に応じた、教員用コーディネーショントレーニング指導書の作成を令和元年度に荒木秀夫名誉教授に依頼していますが、新型コロナウイルス感染症の影響により、荒木秀夫名誉教授の嘉麻市へ来訪が制限されたため指導書の完成には至っていません。 現在、各小学校は国が示した新学習指導要領に沿って学習指導を展開しているため、今後はこれまでのデータを取りまとめ、新学習指導要領に則した補填的なプログラムを荒木秀夫名誉教授監修のもと作成いたします。 また、乳幼児へのコーディネーショントレーニングの普及のため、学童保育所職員を対象とした研修会を実施し、指導力の向上を図りました。 ・小学校教員コーディネーショントレーニング研修会：4回 ・学童保育所教員コーディネーショントレーニング指導研修会：1回 ・乳幼児施設コーディネーショントレーニング導入率：14園/17園			
次年度 重点課題	第2期嘉麻市スポーツ推進計画の策定				
令和4年度	【評価の指標】	A	B	C	
	実績値評価 (当該年度の目標値に対する達成度・進捗度)		○		
	課題への取組と成果 (当該年度の取組における成果・効果)		○		
自己評価	※評価の指標 A：期待以上（高い） B：概ね期待どおり（基準） C：課題あり（低い）				
	評価の根拠	小学校・中学校のコーディネーショントレーニング導入校数は目標値を達成し、コーディネーショントレーニング指導者研修会開催数及び乳幼児施設のコordinーショントレーニング導入率は目標値を上回っていますが、重点課題である教員用コーディネーショントレーニング指導書の作成については、新型コロナウイルスの影響により、荒木秀夫名誉教授の嘉麻市への来訪が制限されたことにより完成に至っていないため、実績値評価及び課題への取組と成果につきましては、共にB評価としています。			
教育委員会評価		今回	B	(前回)	(B)

※評価の指標 A：期待以上（高い） B：概ね期待どおり（基準） C：課題あり（低い）

主要施策	5	体力及び運動能力向上の推進		
施策の内容	4	競技スポーツの推進		
事業名 (予算/決算)	[47] 競技スポーツ推進事業 (スポーツ推進課：プロジェクトK・スポーツ推進係) (予算：6,004千円 / 決算：5,488千円)			
事業の概要	事業の目的	誰もが自らを目標に即してスポーツ競技力を伸ばそうとするスポーツ文化を広めるとともに、小・中・高校生からの優れた体力・運動能力、さらには運動学習力、潜在的能力を豊かに伸ばしていくことを目的とします。		
	事業の内容	トップアスリートによる教室を開催するなど、子どもたちの競技スポーツへの関心を深め、ジュニア期からの育成に取り組めます。また、指導者向けの研修を開催し、競技力向上及び人材育成、発掘に取り組めます。		
令和4年度 取組と成果	目標値 (主要な指標)	未体験の競技体験会開催数：2回 競技スポーツ教室開催数：2回 スポーツ指導者等研修会開催数：3回		
	実績値 (目標値との比較)	未体験の競技体験会開催数：0回 競技スポーツ教室開催数：1回 スポーツ指導者等研修会開催数：5回		
	重点課題	新型コロナウイルス感染状況を考慮しながらトップアスリートによる教室・体験会の実施及びスポーツ指導者等に対する研修会による指導力の向上が課題です。		
	課題への取組と成果	新型コロナウイルス感染拡大防止対策のため、未体験の競技体験会は中止となりましたが、元バドミントン日本代表潮田玲子氏による競技スポーツ教室を開催し、親子で楽しく交流し、参加した子ども達にはバドミントンに興味を持つきっかけとなりました。また、スポーツ推進課職員によるスポーツ指導者等研修会を実施しました。 ・トップアスリートによるバドミントン教室：1回 ・小学校教員に対するコーディネーショントレーニング研修会：2回 ・学童保育所職員に対するコーディネーショントレーニング研修会：1回 ・スポーツ推進課職員によるコーディネーショントレーニング研修会：2回		
次年度重点課題	トップアスリートによる教室を開催するなど、子どもたちの競技スポーツへの関心を深め、ジュニア期からの育成に取り組めます。また、指導者向けの研修を開催し、競技力向上及び人材育成、発掘に取り組めます。			
令和4年度	【評価の指標】	A	B	C
	実績値評価 (当該年度の目標値に対する達成度・進捗度)		○	
	課題への取組と成果 (当該年度の取組における成果・効果)		○	
※評価の指標 A：期待以上(高い) B：概ね期待どおり(基準) C：課題あり(低い)				
自己評価	評価の根拠	スポーツ指導者等研修会開催数は目標値を上回り、未体験の競技体験会開催数や競技スポーツ教室開催数が目標値を下回っていますが、当初予定していた教室・体験会は、新型コロナウイルスの影響により、講師の派遣が不可能となったため、やむを得ず中止となったものであり、競技スポーツ教室に関しては、親子のふれあいを通して競技スポーツに親しむ、関心を持つきっかけづくりとして、一定の成果を上げたものとして、実績値評価及び課題への取組と成果につきましては、共にB評価としています。		
教育委員会評価		今回	B	(前回) (B)

※評価の指標 A：期待以上(高い) B：概ね期待どおり(基準) C：課題あり(低い)

主要施策	6	人権尊重精神を育成する教育の推進			
施策の内容	1	学校教育における人権・同和教育の推進及び支援			
事業名 (予算/決算)	[48] 人権・同和教育推進事業 (学校教育課：教務係) (予算： - / 決算： -)				
事業の概要	事業の目的	福岡県人権教育・啓発基本指針及び嘉麻市人権教育・啓発基本指針に基づき、学校教育活動全体を通して、児童生徒が共生の心を身につけるとともに、自分らしさや能力を十分に発揮し、人権問題を主体的に解決していく力を身につけることができるよう指導していきます。			
	事業の内容	学校における人権・同和教育の指導の充実を図ります。			
令和4年度 取組と成果	目標値 (主要な指標)	学校での教職員等の研修 (校内研修)：2回 人権・同和教育研修会の実施 (市全域)：1回			
	実績値 (目標値との比較)	学校での教職員等の研修 (校内研修)：2回 (全13校で実施) 人権・同和教育研修会の実施 (市全域)：1回 (全13校で実施)			
	重点課題	若年教員の人権問題、同和問題に対する認識を深めるための研修会の実施を進める必要があります。			
	課題への取組と成果	学校での人権・同和教育全体計画は、人権が尊重される「学習活動づくり」「人間関係づくり」「環境づくり」の3つの視点を踏まえて作成されています。 学校での教職員等の研修 (校内研修) は、校内研修計画に沿って実施されています。 あらゆる差別の解消に向けた教職員の認識を深めるための人権・同和教育研修会 (全職員対象) は、本年度、オンデマンドで実施しました。			
次年度重点課題	基本的な内容理解を促進する研修や教職員自らが考える機会を提供する研修等、効果的な研修会の計画・実施を進める必要があります。				
令和4年度 自己評価	【評価の指標】		A	B	C
	実績値評価 (当該年度の目標値に対する達成度・進捗度)			○	
	課題への取組と成果 (当該年度の取組における成果・効果)			○	
	※評価の指標 A：期待以上 (高い) B：概ね期待どおり (基準) C：課題あり (低い)				
評価の根拠	<p>学校での教職員等の研修 (校内研修) は、全ての学校で2回以上実施されています。</p> <p>人権・同和教育研修会 (全職員対象) は、8月にオンデマンドで実施できました。</p>				
教育委員会評価		今回	B	(前回)	(B)

※評価の指標 A：期待以上 (高い) B：概ね期待どおり (基準) C：課題あり (低い)

主要施策	6	人権尊重精神を育成する教育の推進			
施策の内容	2	社会教育における人権・同和教育の推進及び支援			
事業名 (予算/決算)	[49] 人権・同和教育推進事業 (生涯学習課：人権・同和教育係) (予算：1,847千円 / 決算：1,647千円)				
事業の概要	事業の目的	部落問題をはじめ女性、子ども、高齢者、障がい者、アイヌの人々、外国人、HIV感染者、性的少数者等に対する人権課題を解決し、人権尊重社会の実現に向け、嘉麻市人権教育・啓発基本方針に基づき、社会教育における人権・同和教育を一層推進するとともに、市内の各種団体等の協力を得ながら、行政区単位地域研修会、団体・サークル等研修会、企業内人権・部落問題研修会を実施します。また、関係行政機関及び地域活動指導員(人権・同和教育指導員)との連携を行い、社会教育における人権に関する学習を推進します。			
	事業の内容	嘉麻市の人権・同和教育の推進を図るため、市内各行政区をはじめ、団体・サークル等、企業や市職員の人権・部落問題研修会を実施し、人権・部落問題に関する意識の向上を図っています。			
令和4年度 取組と成果	目標値 (主要な指標)	地域等での人権・部落問題研修会開催数(27回) 事業主人権・部落問題研修会参加事業所数(87事業所)			
	実績値 (目標値との比較)	地域等での人権・部落問題研修会開催数(23回・コロナ禍のため中止4回) 事業主人権・部落問題研修会参加事業所数(66事業所)			
	重点課題	人権について考える機会と場を持っていただけるよう開催検討を促すような働きかけや社会状況に応じた人権教育・啓発の検討が必要です。また、部落問題をはじめ様々な人権問題の研修内容等の工夫と学習機会の充実を図る必要があります。			
	課題への取組と成果	人権ビデオ視聴後、ビデオ内容の振り返りを行う研修資料(パワーポイント)を作成するなど、学習内容の工夫を行ったことで、人権問題についての理解が深まり、日常生活においても差別への気づきに繋がっています。公民館分館事業である「ときめき学習」は、コロナ禍に影響で一部中止になるところもありましたが、概ね開催でき、子どもたちへの人権学習の機会を確保しました。小中学校へのゲストティーチャー等としての参加については、一部実施でき、継続した人権学習が深まりつつあります。ハローワークと連携し、外部講師による人権・部落問題研修会を2月に開催し、事業主及び事業所内の人権意識の向上を図ることができました。 令和4年度も、「人権パネル」展を2回開催し、人権感覚を高める機会と場の提供を確保しました。			
次年度重点課題	地域住民によって構成された行政区等において、人権・部落問題研修会が開催されるよう、積極的に働きかける必要があります。各審議会等においても、人権・部落問題研修会の開催を促す必要があります。社会状況に応じた個別の人権課題及び地域のニーズに合った研修内容となるよう工夫改善に努める必要があります。				
令和4年度 自己評価	【評価の指標】		A	B	C
	実績値評価(当該年度の目標値に対する達成度・進捗度)			○	
	課題への取組と成果(当該年度の取組における成果・効果)			○	
	※評価の指標 A：期待以上(高い) B：概ね期待どおり(基準) C：課題あり(低い)				
評価の根拠	コロナ禍において、一部中止になった研修もありましたが、概ね実施でき、人権感覚を高める機会と場の提供を確保し、市民の人権意識の向上に繋がったと捉え、B評価としています。				
教育委員会評価		今回	B	(前回)	(B)

※評価の指標 A：期待以上(高い) B：概ね期待どおり(基準) C：課題あり(低い)

主要施策	6	人権尊重精神を育成する教育の推進			
施策の内容	2	社会教育における人権・同和教育の推進及び支援			
事業名 (予算/決算)	[50] 人権・同和教育推進少年団体育成事業 (生涯学習課：人権・同和教育係) (予算：3,000千円 / 決算：3,000千円)				
事業の概要	事業の目的	人権感覚の涵養と差別をなくしていこうとする子どもの育成を図るため、解放子ども会を支援し、解放子ども会に参加する一人ひとりが、人権・部落問題について正しい認識と理解を深める活動を推進します			
	事業の内容	部落差別をはじめ、あらゆる差別をなくすことを主たる目的として活動する団体が企画運営する解放子ども会事業に、嘉麻市解放子ども会事業補助金交付規程に基づき補助金を交付します。 学習活動を学校と協議、連携し支援しています。			
令和4年度 取組と成果	目標値 (主要な指標)	解放子ども会運営委員会開催（2回以上）			
	実績値 (目標値との比較)	解放子ども会運営委員会開催（3回）			
	重点課題	子どもたちの部落問題学習が深まる活動となるよう、関係団体や小・中学校とより一層緊密な連携を図り、事業展開を構築していく必要があります。			
	課題への取組と成果	事業展開については小・中学校と情報共有を図り、子どもたちの部落問題学習が深まる活動となるよう助言等を継続していき、差別に立ち向かえる子どもの育成を支援することができました。			
次年度重点課題	補助事業の目的及び内容となっているか、注視し、また事業展開が子どもたちの部落問題学習の深まりとなっているか、継続して支援を行う必要があります。				
令和4年度 自己評価	【評価の指標】		A	B	C
	実績値評価（当該年度の目標値に対する達成度・進捗度）			○	
	課題への取組と成果（当該年度の取組における成果・効果）			○	
	※評価の指標 A：期待以上（高い） B：概ね期待どおり（ 基準 ） C：課題あり（低い）				
評価の根拠	関係団体等と事業展開の情報共有を常に図っております。また、小・中学校と連携し、子どもたちの部落問題学習が深まる活動となるよう学習計画立案の段階から協議の場を設けました。さらに、学習の場においては、指導者の補助的役割や子ども達の自主性・主体性が育めるように導く等、活動に対して助言等を行い、効果・効率性の向上を図ったと捉え、B評価としています。				
教育委員会評価		今回	B	(前回)	(B)

※評価の指標 A：期待以上（高い） B：概ね期待どおり（**基準**） C：課題あり（低い）

主要施策	6	人権尊重精神を育成する教育の推進
施策の内容	2	社会教育における人権・同和教育の推進及び支援
事業名 (予算/決算)	[51] 人権・同和教育推進団体育成事業 (生涯学習課：人権・同和教育係) (予算：2,329千円 / 決算：1,773千円)	
事業の概要	事業の目的	解放学級及び日常生活で文字の読み書きに不自由している人々を対象にした識字学級を開催し、学級生一人ひとりが、人権・部落問題について更なる正しい認識と理解を深める学習や学級活動を推進します。
	事業の内容	稲築・碓井・嘉穂地区において、解放学級を開催し、人権・部落問題についての学習を行うとともに、碓井地区においては、識字学級を開催することにより文字の読み書き学習を支援しています。
令和4年度 取組と成果	目標値 (主要な指標)	解放学級数【7学級】 識字学級【1学級】
	実績値 (目標値との比較)	解放学級【6学級】 識字学級【1学級】
	重点課題	人権学習が寸断されることなく、学習の機会を持つとする意識になれるよう働きかけ、学習活動を引続き支援していく必要があります。
	課題への取組と成果	地域住民の自主的・主体的な学習活動を学校と協力してサポートすることにより、学級生一人ひとりが、人権問題について更なる正しい認識と理解をより深め、継続して学びの場となっています。コロナ禍において1学級が休講となりましたが、7学級中6学級が開講し学習を深めました。また、開講式はコロナ禍により中止となりましたが、閉講式は、合同学習会と併せて実施することができました。様々な教材を活用し、学級生それぞれが学習内容を深めることができるよう支援を行ない、学習の機会と場の確保を図ることができました。そのことが、日常生活に即した学びに繋がっています。
次年度重点課題	解放学級では、学級生の自主的・主体的な学習活動を引続き支援し、学習内容の工夫・充実を図る必要があります。学習の機会を持つとする意識になるよう働きかけ、学びの継続に繋がるよう支援する必要があります。また、地域の協力を得ながら、学級生の拡大を図る必要があります。識字学級では、学びを継続することで、生きることへの自信や喜びに繋がるよう支援することが必要です。	
令和4年度 自己評価	【評価の指標】	A B C
	実績値評価 (当該年度の目標値に対する達成度・進捗度)	○
	課題への取組と成果 (当該年度の取組における成果・効果)	○
※評価の指標 A：期待以上（高い） B：概ね期待どおり（基準） C：課題あり（低い）		
評価の根拠	目標値である学級数は昨年度からの変動はありませんでした。コロナ禍において、1学級のみ休講となりましたが、解放学級6学級、識字学級が開講し、自主的・主体的な学習活動が継続できました。そのことで、学級生一人ひとりが人権・部落問題について更なる正しい認識と理解が深まる活動になったと捉えています。また、識字学級においては、様々な教材を活用することで、学級生それぞれが学習内容を深めることが出来たと捉え、B評価としています。	
教育委員会評価	今回	B (前回) (B)

※評価の指標 A：期待以上（高い） B：概ね期待どおり（基準） C：課題あり（低い）

主要施策	7	市民文化の創造		
施策の内容	1	美術に関する創造的活動の推進		
事業名 (予算/決算)	[52] 文化芸術活動推進事業 (生涯学習課：美術館係) (予算： — 千円 / 決算： — 千円)			
事業の概要	事業の目的	関係団体が主体的、自主的に創作、展示を行えるよう支援を行います。児童や生徒などの作品鑑賞や創作活動の支援を行います。		
	事業の内容	関係団体と連携し、市民の展示活動やアトリエでの創作活動の支援、学校と連携し、児童生徒の作品鑑賞、出前学習や地域と連携し、子どもたちの創作活動などを支援します。		
令和4年度 取組と成果	目標値 (主要な指標)	展示室5貸館入館者数及び利用団体数：6,900人及び10団体 美術館を活用した学校数：6校(延べ8校) 地域等での活動支援回数：9回		
	実績値 (目標値との比較)	展示室5貸館入館者数及び利用団体数：4,879人及び10団体 美術館を活用した学校数：5校(延べ14校) 地域等での活動支援回数：5回		
	重点課題	教育アクションプランに基づき文化芸術活動推進事業を実施していくため、指定管理者へ情報を提供し、支援していく必要があります。		
	課題への取組と成果	美術館に出向き利用団体の声を聞きながら情報を収集し、指定管理者との月例会議にて利用団体の情報提供を行い、活動の推進に努めました。 作品展示にあたっては、経験を活かし助言を行うなど、指定管理者と協働で支援を行いました。 10団体の展示室5の活用、5校(小学校4校、中学校1校)延べ14回の鑑賞学習が行われるなど、学校の美術館活用が戻りつつあります。 地域では夏休みのときめき学習を活用し、子どもたちの創作活動を支援することができました。		
次年度重点課題	引き続き、指定管理者と連携し、幅広く美術館の活用を図る必要があります。			
令和4年度 自己評価	【評価の指標】	A	B	C
	実績値評価 (当該年度の目標値に対する達成度・進捗度)		○	
	課題への取組と成果 (当該年度の取組における成果・効果)		○	
	※評価の指標 A：期待以上(高い) B：概ね期待どおり(基準) C：課題あり(低い)			
評価の根拠	<p>貸館入館者数は出品作品数の減少や期間の短縮により、目標値には達していませんが、昨年と比べ好転していることから実績値をB評価としています。</p> <p>学校の利用については、ほぼ目標値に達しており、嘉穂小学校では全年が、またれすとびあでも活用があるなど、今後、学校での活用が見込まれます。なお、市内保育園、市外幼稚園の利用もありました。</p> <p>今回、地域での子どもたちの創作活動支援は夏休み期間中のみの実施でしたが、シーサー作りを通じて沖縄の歴史や文化を学ぶ機会を提供できており、課題の取組と成果についてはB評価としています。</p> <p>新型コロナウイルス感染症予防に対する人々の意識が高まり、取組むことにより学校、地域、関係団体の活動も戻りつつ、利用状況や目標値も近づいていることから総合もB評価としています。</p>			
教育委員会評価	今回	B	(前回)	(B)

※評価の指標 A：期待以上(高い) B：概ね期待どおり(基準) C：課題あり(低い)

主要施策	7	市民文化の創造			
施策の内容	1	美術に関する創造的活動の推進			
事業名 (予算/決算)	[53] 美術館運営管理事業 (生涯学習課：美術館係) (予算： — 千円 / 決算： — 千円)				
事業の概要	事業の目的	快適で安全な環境の中で、芸術作品鑑賞や創作、展示活動ができ、また隣接する公園が憩いの場となるよう維持管理を行い、利用を図ります。 展示収蔵作品の保存、関連資料の収集を行うとともに、その活用を図ります。			
	事業の内容	施設設備の保守点検や維持管理、収蔵庫の温湿度管理や燻蒸を行います。 作品の修復、デジタル化に努め、作品の保存と活用を図ります。 ホームページやSNSの活用、関係機関などと連携し周知を図ります。			
令和4年度 取組と成果	目標値 (主要な指標)	入館者数： 10,900人 入館者総数：12,600人 展示室5及びアトリエの利用時間：2,080時間			
	実績値 (目標値との比較)	入館者数： 10,969人 入館者総数：11,820人 展示室5及びアトリエの利用時間：1,700時間			
	重点課題	管理運営が円滑に進むよう進捗状況の管理を行いながら、指定管理者と協働的に運営管理を行う必要があります。			
	課題への取組と成果	施設管理や公園の管理状況について月例会議にて報告を受け、進捗状況を把握し、設備修理については、指定管理者と調整しました。美術館係は空調設備の計画修理を行い、課題であった吸収式冷温水器の伝熱管取替整備を行うことができました。 公園の管理状況については、現地で状況確認を行うなど、安全安心な環境維持に努めました。			
次年度重点課題	ホームページやSNS、フリーペーパーなど様々な広報手段を活用し、また関係機関と連携し、美術館ならびに事業の周知を図る必要があります。				
令和4年度 自己評価	【評価の指標】		A	B	C
	実績値評価 (当該年度の目標値に対する達成度・進捗度)			○	
	課題への取組と成果 (当該年度の取組における成果・効果)			○	
	※評価の指標 A：期待以上 (高い) B：概ね期待どおり (基準) C：課題あり (低い)				
評価の根拠	<p>特別企画展の入館者は多く、展示室5の利用団体も戻ってきました。入館者数は目標値に達しましたが、利用者数減により入館者総数、展示室5、アトリエ利用時間総数は目標値を下回りました。しかし通常に戻りつつあることから実績値はB評価としています。</p> <p>美術館や公園の維持管理は、引き続き適切に行われており、公園は市外小学校の遠足で利用されるなど、日常生活以外でも活用されています。</p> <p>収蔵庫1の燻蒸の他に新たに館内の「ねずみ、害虫防除」が行われ、虫菌害防止が実施されました。なお、収蔵作品のデジタル化及び絵画の修復については、再度調査を行い効率的な実施を計画しており、課題への取組と成果はB評価としています。</p> <p>施設の管理運営については、課題もありますが、連絡を取り合うことによりスムーズに移行が行われており、総合もB評価としています。</p>				
教育委員会評価		今回	B	(前回)	(B)

※評価の指標 A：期待以上 (高い) B：概ね期待どおり (基準) C：課題あり (低い)

主要施策	7	市民文化の創造			
施策の内容	1	美術に関する創造的活動の推進			
事業名 (予算/決算)	[54] 企画展事業 (生涯学習課: 美術館係) (予算: ー 千円 / 決算: ー 千円)				
事業の概要	事業の目的	織田廣喜など郷土ゆかりの作家の作品や様々な芸術作品鑑賞の機会を提供し、芸術への興味と関心を深め、豊かな感性を培うとともに、嘉麻市の観光資源としての役割を担います。			
	事業の内容	特別企画展や館蔵品展など幅広く優れた芸術作品を公開し、図書館とも連携し関連事業を行い、集客を図ります。 チラシやポスター、ホームページやSNS、新聞などを活用し幅広い周知を図ります。			
令和4年度 取組と成果	目標値 (主要な指標)	特別企画展入館者数: 2,750人 企画展入館者数: 180人			
	実績値 (目標値との比較)	特別企画展入館者数: 5,175人 企画展入館者数: 242人			
	重点課題	指定管理者と協働的に教育アクションプランに基づく企画展事業を実施していく必要があります。			
	課題への取組と成果	特別企画展として「ノンタン絵本の世界展」と「県展筑豊巡回展」、企画展として「コレクション展」「アートキッズ作品展」が開催されました。 特別企画展については準備段階から職員が進捗状況を確認しながら美術館へ出向いたり、電話にて助言を行うなど協働で取組みました。 「ノンタン絵本の世界展」では、図書館と事前準備から連携協力し、前売券の販売、おはなし会、スタンプラリーなど関連事業を行うことができました。 絵本は世代を超えて愛され続けられており、ポスター、チラシ以外にSNSの活用、フリーペーパーと連携をすることで、幅広い世代にわたる多くの人々が訪れました。コレクション展では織田廣喜の作品以外に郷土ゆかりの作家の作品鑑賞の機会を提供することができました。			
次年度重点課題	幅広い広報活動及び充実した情報提供を行い、集客を図る必要があります。				
令和4年度 自己評価	【評価の指標】		A	B	C
	実績値評価 (当該年度の目標値に対する達成度・進捗度)		○		
	課題への取組と成果 (当該年度の取組における成果・効果)		○		
	※評価の指標 A: 期待以上 (高い) B: 概ね期待どおり (基準) C: 課題あり (低い)				
評価の根拠	<p>コロナ禍ではあるが「ノンタン絵本の世界展」には、狙いとしていた子育て世代や中学生以下の来館者も多く4,402人が原画などを楽しみ、グッズを買い求めていました。会期中、常設展示室を鑑賞する人も多く、織田廣喜と作品の魅力を合わせて伝えることができました。</p> <p>「県展筑豊巡回展」の入館者は773人で、3年ぶりの合評会は、出品者自身のコメントや作品制作における貴重なアドバイスを聞く時間となり非常に好評でした。</p> <p>入館者数は目標値を上回りましたが、開催までの準備が不十分で広報活動を十分行うことができず、集客力を発揮できなかったことなど、事業の広報、情報提供には課題が残りますが、実績値や取組から総合はA評価としています。</p>				
教育委員会評価		今回	A	(前回)	(B)

※評価の指標 A: 期待以上 (高い) B: 概ね期待どおり (基準) C: 課題あり (低い)

主要施策	7	市民文化の創造		
施策の内容	1	美術に関する創造的活動の推進		
事業名 (予算/決算)	[55] 美術教育普及事業 (生涯学習課：美術館係) (予算： — 千円 / 決算： — 千円)			
事業の概要	事業の目的	学び合い、芸術への興味と関心を深め、親しむ学習機会を提供します。 子どもたちに豊かな感性と創造力などを培う機会を提供します。 ボランティアとして美術館事業に関わる機会を提供します。		
	事業の内容	市民アトリエなどを活用し、専門家などの指導による大人、子ども対象の美術講座を開催します。 ボランティアの活動として子どもたちの創作活動、学びを支援します。		
令和4年度 取組と成果	目標値 (主要な指標)	講座実施日数 (講座数)：21日 (4講座) 延べ受講者数：300人 ボランティア登録者数：9人		
	実績値 (目標値との比較)	講座実施日数 (講座数)：13日 (4講座) 延べ受講者数：145人 ボランティア登録者数：0人		
	重点課題	指定管理者と協働的に教育アクションプランに基づく教育普及事業を実施していく必要があります。		
	課題への取組と成果	事業計画に基づき大人、子ども対象の事業を実施されました。大人の講座は、昨年度、新型コロナウイルス感染症予防のため延期していた「カリグラフィー講座」を2回実施しました。 アートキッズ (小学生対象) は新型コロナウイルス感染症予防のため募集人数を半減して実施し、近畿大学との連携事業も継続しました。夏休みアートラボは特別企画展と重なったため、春休みに実施。親子で野菜くずを活用し絵具作りを体験しました。 親子ワークショップは社会教育係の家庭教育支援事業 (未就学児対象) と共催で実施。親子で「上手に」「きれいに」などという考えにとらわれずにのびのびと指で描くフィンガーペイントを楽しむことができました。		
次年度重点課題	美術館の活動に幅広く関わる、ボランティアを新たに募集し、育てる必要があります。			
令和4年度 自己評価	【評価の指標】	A	B	C
	実績値評価 (当該年度の目標値に対する達成度・進捗度)		○	
	課題への取組と成果 (当該年度の取組における成果・効果)		○	
	※評価の指標 A：期待以上 (高い) B：概ね期待どおり (基準) C：課題あり (低い)			
評価の根拠	<p>アートキッズは好評で近畿大学連携事業を含め9回開催。様々な技法や人々と触合いながら作品を制作し、アートキッズ展で学びの成果を展示しました。初めて取組んだ「子ども二科展」への出品作品13点のうち1点が入選しました。</p> <p>親子ワークショップは1回のみとなりましたが、社会教育係の家庭教育支援事業と共催で実施。事業は好評でしたので、次年度も共催で事業実施を計画しています。</p> <p>新たなボランティアの募集育成については、実施に到らず、次年度実施を目指しています。</p> <p>コロナ禍、事業は通常より募集定員を減らしたり、実施時期、内容を見直したり、美術館の状況に応じて実施しており、総合はB評価としています。</p>			
教育委員会評価	今回	B	(前回)	(B)

※評価の指標 A：期待以上 (高い) B：概ね期待どおり (基準) C：課題あり (低い)

主要施策	7	市民文化の創造		
施策の内容	2	文化財の保護・継承・活用		
事業名 (予算/決算)	[56] 郷土の歴史文化を守る事業 (生涯学習課：文化財係) (予算：13,119千円 / 決算：12,516千円)			
事業の概要	事業の目的	市内に残る多様な文化財を郷土の「たから」として後世に伝え、適切な活用が図れるように、文化財の保護管理に努めることを目的とします。		
	事業の内容	文化財保護審議会の運営、指定文化財等の維持管理、埋蔵文化財の事前審査、その他さまざまな文化財の調査・研究などを行います。		
令和4年度 取組と成果	目標値 (主要な指標)	文化財保護審議会の開催：2回 未指定文化財等の現況確認調査件数：2件		
	実績値 (目標値との比較)	文化財保護審議会の開催：2回 未指定文化財等の現況確認調査件数：2件		
	重点課題	地元との協議を進め、リブアーチ型石橋の文化財指定を行います。		
	課題への取組と成果	4月・6月に地元行政区と協議し、情報共有を行いました。 リブアーチ型石橋の構造や価値を明確化するため、3次元計測およびオルソ画像作成・図化作業を業者に委託し、指定に向けた根拠資料としました。その上で、飯塚県土整備事務所と協議し、石橋の占有権を市が所持することとなりました。 6月・3月に開催した文化財保護審議会において、第1回目は現地視察を行い、現状把握および指定に向けての審議を行いました。第2回目は、名称の設定など諮問を行い、指定の方針を定めることができましたが、年度内の告示までには至りませんでした。		
次年度重点課題	小野谷地区の石造警鐘台の文化財指定に向けた調査・記録業務を行います。			
令和4年度 自己評価	【評価の指標】	A	B	C
	実績値評価 (当該年度の目標値に対する達成度・進捗度)		○	
	課題への取組と成果 (当該年度の取組における成果・効果)		○	
	※評価の指標 A：期待以上 (高い) B：概ね期待どおり (基準) C：課題あり (低い)			
評価の根拠	文化財保護審議会を2回開催しました。 未指定文化財の調査については、馬見地区・大隈地区のリブアーチ型石橋の調査を行い、リブアーチ型石橋の類例を確認できたことは成果となりました。また、福岡県が実施している近世窯跡調査に伴い、詳細不明であった3か所の窯跡 (黒田窯跡・野口窯跡・猪之鼻窯跡) の状況把握を行いました。 他の主な成果としては、県指定史跡である沖出古墳の葺石補修工事の実施設計を行い、今後の方針を定めることができました。			
教育委員会評価	今回	B	(前回)	(B)

※評価の指標 A：期待以上 (高い) B：概ね期待どおり (基準) C：課題あり (低い)

主要施策	7	市民文化の創造			
施策の内容	2	文化財の保護・継承・活用			
事業名 (予算/決算)	[57] 郷土の歴史文化を伝える事業 (生涯学習課：文化財係) (予算：4,933千円 / 決算：4,707千円)				
事業の概要	事業の目的	市内に残る多様な文化財の活用を図り、郷土への誇りと愛着を培うと共に、郷土の歴史・文化のPRに努めることを目的とします。			
	事業の内容	指定文化財の公開・活用、講座、企画展等の教育普及事業を行います。			
令和4年度 取組と成果	目標値 (主要な指標)	沖出古墳特別公開事業参加者数：250人 学習支援・視察研修等への対応件数：18件 「語り伝える 戦争の話」参加者数：35人			
	実績値 (目標値との比較)	沖出古墳特別公開事業参加者数：293人 学習支援・視察研修等への対応件数：27件 「語り伝える 戦争の話」参加者数：33人			
	重点課題	ポストコロナ社会を踏まえて「You Tube」動画の充実を図ります。			
	課題への取組と成果	令和4年度は、市内の主要な遺跡を紹介する「おきまる探検隊」シリーズの第2作となる「アミダ遺跡の謎を解き明かせ」と施設老朽化のため一般利用を中止している嘉穂ふるさと交流館の収蔵資料を物語風に紹介した「とけいばんちょうものがたり」、そのほか沖出古墳特別公開事業で人気の体験学習「火おこし」の方法を紹介した3本の動画を新たに制作しました。しかし、まだ、嘉麻市文化財公式「You Tube」についての一般への周知が不十分であることが今後の課題です。			
次年度重点課題	郷土の歴史・文化のPRを目的に、市内に伝わる民話や伝承の紹介動画を制作します。				
令和4年度 自己評価	【評価の指標】	A	B	C	
	実績値評価 (当該年度の目標値に対する達成度・進捗度)	○			
	課題への取組と成果 (当該年度の取組における成果・効果)	○			
	※評価の指標 A：期待以上 (高い) B：概ね期待どおり (基準) C：課題あり (低い)				
評価の根拠	<p>沖出古墳特別公開事業参加者数及び学習支援・視察研修等への対応件数は目標値を上回り、「語り伝える 戦争の話」参加者数もほぼ目標値に達することができました。また、上記以外にも令和4年度は、これまで注目されることが少なかった筑豊の土木遺産を周知することを目的に、各分野の専門家を招聘して秋月街道シンポジウムを実施し、定員数に対し満席の参加を得ることができました。SNSや新聞広告等の広報活動も上手く行き、市の文化財や歴史・文化のPRに努めることができました。</p>				
教育委員会評価		今回	A	(前回)	(A)

※評価の指標 A：期待以上 (高い) B：概ね期待どおり (基準) C：課題あり (低い)

主要施策	7	市民文化の創造		
施策の内容	2	文化財の保護・継承・活用		
事業名 (予算/決算)	[58] 郷土の歴史文化拠点施設活用事業 (生涯学習課：文化財係) (予算：9,536千円 / 決算：9,011千円)			
事業の概要	事業の目的	効率的な施設運営を図りながら、学校教育及び社会教育に資すると共に郷土の歴史・文化のPRに貢献することを目的とします。		
	事業の内容	歴史民俗資料展示・保管施設（4館1室）の維持管理に努めると共に収蔵資料の台帳整備を行い、資料の活用を進めます。		
令和4年度 取組と成果	目標値 (主要な指標)	収蔵資料台帳整備件数：240件 常設展示替え/出張展示等の回数：3回		
	実績値 (目標値との比較)	収蔵資料台帳整備件数：337件 常設展示替え/出張展示等の回数：2回		
	重点課題	碓井平和祈念館収蔵の人権資料の利活用を図ります。		
	課題への取組と成果	碓井平和祈念館人権資料展示室の映像展示が老朽化したため、展示室の改修を実施し、これまで十分に活用が図れていなかった人権資料の実物展示を基本とした展示替えを行いました。しかし、資料の調査研究に当初の計画より時間を要したため、展示替えの時期が遅れ、年度内の周知と活用を図るまでには至りませんでした。碓井平和祈念館は、県内の市町村が人権研修の場として利用することも多い施設なので、今後はこうした市内外の研修等でさらなる活用を図ります。		
次年度重点課題	展示替え等の作業効率化を図るために、碓井郷土館の劣化した常設展示説明パネルを改修します。			
令和4年度 自己評価	【評価の指標】	A	B	C
	実績値評価（当該年度の目標値に対する達成度・進捗度）		○	
	課題への取組と成果（当該年度の取組における成果・効果）		○	
	※評価の指標 A：期待以上（高い） B：概ね期待どおり（ 基準 ） C：課題あり（低い）			
評価の根拠	収蔵資料の台帳整備については、嘉穂ふるさと交流館と碓井郷土館の収蔵資料において、目標値を上回る337件を新たに台帳登録することができました。また、常設展示替えについては、碓井郷土館において山本作兵衛原画の入れ替え、碓井平和祈念館において人権資料の常設展示改修を行いました。その他の成果としては、碓井郷土館のリーフレットを新たに作成しましたので、今後はこうした配布物やSNS等を活用して、コロナ禍で減少した見学者数の回復に努めます。			
教育委員会評価	今回	B	(前回)	(A)

※評価の指標 A：期待以上（高い） B：概ね期待どおり（**基準**） C：課題あり（低い）

福岡県立大学 看護学部
准教授 原田 直樹

■主要施策1 少人数指導等による学力向上

主要施策1の事業について、教員の配置は目標値を達成しているが、学力検証事業における学力テストの結果と土日の家庭学習ゼロの児童生徒に関しては目標値に届いておらず、事業実施状況はやや課題があると判断せざるを得ない。

少人数指導推進事業（事業1）においては、教員の配置は目標値を達成しているものの、少人数指導による成果として学力テストの結果を直接的に結び付けて捉えることは、成果検証の方法として妥当であるか疑問が残った。1クラス当たりの児童生徒数（少人数指導の達成度）と学力の関連で検証する等の改善が必要と考える。

本市における少人数指導の推進は、児童生徒の学力向上を目指して第1次アクションプランから継続して実施されている事業である。少人数指導は、学力向上のみならず、不登校等の児童生徒が抱える課題の未然防止や生徒指導にも効果があるとされているが、重要であるのは少人数でどのような指導をするかである。今後はそのあたりの検討を進めながら発展的に事業継続がなされることを期待する。

また、学力検証事業（事業2）において、学力向上を測る指標に全国学力・学習状況調査や標準学力調査の結果を用いることは客観性があり望ましいと考えるが、こちらでも検証の方法として適切か疑問が残った。前年度同学年の児童生徒と学力の高低を比較して検証がなされているが、異なる集団の学力を比較したところで、そこから取り組むべき課題を見出すことは難しいと考える。同一集団の経年推移で検証すべきと考える。

ヒアリングにおいては、学力検証によって学力CD層の児童生徒の把握がなされ、学校できめ細やかな指導がなされていることが示された。しかし、これらの児童生徒に対する具体的な指導の内容は教員個人の努力や工夫によるところが大きく、それゆえに指導の在り方にばらつきがあることが懸念された。今後は、これらの指導が組織の中で体系化されて実施することを期待する。

■主要施策2 個人又は能力を育成する学校教育の充実

主要施策2の各事業について、ほぼ目標値どおりの達成率を示しており、概ね順調な事業実施状況にあると判断する。

とりわけ情報教育推進事業（事業6）において、本市の1人1台の学習端末（カスタ）導入に際し、その活用充実化を目的とした教師のICT活用指導力向上のための校内研修が目標値を上回る実施状況にあることを評価する。

コミュニティ・スクール推進事業（事業15）においては、市内の小中学校において準備と実施が順次取り組まれていることが明らかとなった。コミュニティ・スクー

ルは、学校と地域住民等が力を合わせて学校の運営に取り組むものである。次年度以降は、各学校において地域とどのような共通認識を図り、いかに地域と一体となって特色ある学校づくりを進めるのかをご報告いただきたい。

就学援助事業（事業 19）については、本市の就学援助率は県内でもかなり高いところに位置しており、本市の就学世帯には経済的困窮世帯が多いことが考えられる。経済的困窮は児童生徒の学習のみならず、様々な体験の機会減少に影響を及ぼすことが懸念されている。本市では土曜未来塾等において経済的困窮世帯の児童生徒の学力向上に向けた取り組みが実施されているが、体験機会への参加支援は十分とは言えず、学校教育課と生涯学習課との連携も十分になされていない状況にある。市教育委員会全体として、経済的困窮世帯の児童生徒への支援が、積極的かつ包括的に実施されることを期待する。

■主要施策 3 豊かな人間性及び志をもってたくましく生きる力を培う教育の推進

主要施策 3 の各事業について、ほぼ目標値どおりの達成率を示しており、概ね順調な事業実施状況にあると判断する。

読書活動推進事業（事業 26）について、学校図書館での図書貸し出し冊数が小・中学校ともに目標値に届いていないが、背景には昨今の児童生徒の読書離れだけではなくメディアの多様化の影響も考えられる。とするならば、読書活動の検証を学校図書の貸し出し冊数だけで測るのは困難になっていると考える。図書館を学習・情報センターとして機能させるという目標に照らし、図書貸し出し冊数だけではなく利用児童生徒数やデジタル教材の活用実績等、児童生徒の実態を測ることができ、検証に適切な指標を用いるべきと考える。

適応指導教室（れすとぴあ）推進事業（事業 27）および不登校対策支援事業（事業 28）によって、本市の不登校児童生徒には何かしらの教育的支援が届けられている。不登校児童生徒の社会的自立について考えた場合、特に中学 3 年生の進路は重要と考えるが、卒業時点で進路が未決定の不登校生徒についても支援がなされ、さらに今後は子育て支援課との連携も検討されており、きめ細やかな不登校支援が実施されていることが示された。

しかしながら本市の不登校児童生徒発生率は全国平均値を上回る状況にある。不登校になった児童生徒の支援とともに、不登校の未然防止の取り組みが求められる。未然防止に関しては、本市では未登校の児童生徒数は把握がなされていることから、これらのデータ等の分析により不登校リスクが高い児童生徒をいち早く把握し、ターゲットを絞ったアプローチが求められる。

青少年健全育成事業（事業 31）では電話相談件数が 3 件と少なく、前年度の 7 件よりさらに減少している。本市が独自にこの電話相談窓口を開設することの意義について見直すべき段階にもあると考える。その上で青少年の健全育成のために市民に必要とされる支援の在り方についての検討が求められる。

■主要施策4 生涯学習の実現を目指す社会教育の推進

主要施策4の各事業について、一部で目標値に届かない実施状況も見られるが、コロナ禍の影響と見られるものであり、この状況下にあっては概ね順調な事業実施状況にあると判断する。

とりわけ公民館活動活性化推進事業（事業38）において、コロナ禍の影響がまだ残る中で青少年体験活動推進事業が目標を超える事業数が実施され、公民館講座から自主サークルが設立される等、地域の学習活動の充実が図られていることを評価する。今後は、青少年体験活動推進事業に経済的困窮世帯の児童生徒の参加が促進されるよう、学校教育課との連携がなされることを期待する。

■主要施策5 体力及び運動能力向上の推進

主要施策5の各事業について、一部で目標値に届かない実施状況も見られるが、これらはコロナ禍の影響や建物改修に伴うものである。一方で、目標値には達してはいるものの内容に疑問が残るものもあり、事業実施状況はやや課題があると判断する。

その中であって、スポーツコミュニティ創造事業（事業42）は、参加者数、支援団体数、教室開催数のいずれも目標値を上回る実績があり、評価すべき事項と考える。

スポーツ振興には広くスポーツに携わる者を増やすための、いわゆる裾野を広げる活動と、競技スポーツに取り組む競技者を養成する活動の両輪での進展が望ましいことは理解できる。その観点から、プロジェクトK事業（事業46）は裾野を広げる活動に、競技スポーツ推進事業（事業47）が競技者養成に資する活動にそれぞれ位置すると推察するが、いずれも中身はコーディネーショントレーニングの研修会であり、それぞれの事業の特色が見えない。

さらに競技スポーツ推進事業（事業47）では、トップアスリートを招聘してのスポーツ教室を実施しているが、目的に照らしてこの活動が妥当であるのか、かかった費用と参加者数、得られた成果から総合的に検証し、今後の教室実施の在り方について再度検討すべきと考える。

■主要施策6 人権尊重精神を育成する教育の推進

主要施策6の各事業について、一部で目標値に届かない実施状況も見られるが、コロナ禍の影響と見られるものであり、この状況下にあっては概ね順調な事業実施状況にあると判断する。

人権・同和教育推進少年団体育成事業（事業50）について、解放子ども会運営委員会開催回数は目標値を上回った実績値となっているが、子ども会に参加している児童生徒数が小学生2名、中学生1名と少ない状況にある。実施団体の組織強化に向けて、市が継続的に協議、支援していくことを期待する。

人権・同和教育推進団体育成事業（事業51）については、解放学級と識字学級が

継続実施されていることを評価する。市民の学ぶ意欲を広く保障する方策の一助となるべく、今後も本事業が継続されることを期待する。

■主要施策7 市民文化の創造

主要施策7の各事業について、一部で目標値に届かない実施状況も見られるが、コロナ禍の影響と見られるものであり、この状況下にあっては概ね順調な事業実施状況にあると判断する。

とりわけ、郷土の歴史文化を伝える事業（事業57）については、沖出古墳特別公開事業参加者数や学習支援・視察研修等対応件数が目標値を超えており、YouTubeやSNS等を活用した広報活動の成果が見られたことを評価する。

また、美術教育普及事業（事業55）については、評価指標の実績値は目標値に及ばなかったものの、アートキッズで近畿大学との連携を図る等の工夫が見られた。

今後もこれらの積極的な広報活動や官学連携について、参加者や市民の反応、評価の把握・検証を進め、市民のニーズに合った事業展開がなされることを期待する。

【全体所見】

令和4年度の嘉麻市の教育施策に関する事業は、第5次嘉麻市教育振興基本計画（第5次教育アクションプラン）に基づいて、総じて概ね順調な実施状況にあると判断する。なお今回の点検・評価では2つの施策でやや課題があると判断したが、いずれも成果の評価方法における課題であるとも言える。今後の点検・評価に際しては、その後の検証を可能とするために、事業の目的に照らして適切な定性的・定量的な評価根拠（エビデンス）を提示していただきたい。

令和4年度はコロナ禍が落ち着きを見せ始めたとは言え、その影響が残る中での事業実施となり、参加者が必要な事業については目標値に届いていないものも散見された。しかしその中であって、ウィズコロナ時代に対応する積極的なICT利活用の展開を見ることができた。今後も教育の効率性や効果をさらに高めるツールとして、より柔軟な発想のもとでICTの積極的な利活用が求められる。

他方、コロナ禍の影響は、市民の生活や児童生徒にも深刻な傷跡を残したことは否めない。市民の生活という部面では、世帯の経済にもたらした影響は大きく、今なお復調できずにいる世帯も少なくない。さらに児童生徒への影響としては、不登校を含む長期欠席児童生徒の増加等も懸念されるところである。これらの影響について、今後、丁寧な支援の展開がなされることが求められる。

評価者は昨年度の点検・評価委員のコメントにおいて、不登校をはじめとする教育上の課題には地域性があり、国・県レベルの画一的な課題解決方法だけではなく、地域性を加味した方法が必要となると指摘した。今回の点検・評価において、本市では、少人数指導や不登校支援、青少年健全育成等、丁寧な教育実践がなされていることが垣間見れたが、本市の児童生徒らの特性、地域の特性を考慮した手法等を構築する段階に入りつつあるように思われる。

今後も教育委員会主導の下、取りこぼしのない、広く市民の学びに応えることができる効果的で持続的な教育施策が着実に推進されることを期待する。

鹿児島大学 法文学部
准教授 農中 至

■主要施策1 少人数指導等による学力向上

少人数指導等による学力向上の取り組みは概ね順調なように見えるものの、少人数指導が常態化することによって、今後その意義や価値が教育行政・学校現場共に不明確になることも予測される。そのためにも、特に「少人数指導推進事業」（事業1）の継続的な評価、価値確認が求められる。いずれの事業の評価にも経年変化をみることのできる情報・データが不可欠であり、事業の継続のためには、中長期的な事業の成果の確認が必要となる。教育行政には事業を適切に評価するためのデータの開示が求められる。

特に事業1は、人材派遣会社への派遣依頼にもとづく、予算措置・人材配置であることから、人材派遣会社への支払いが不可避である点は注意が必要である。

各事業の成果の適切な評価のためにも、前年度比の改善データの提示にとどまらず、市民も含めた第三者が評価・検証可能な情報開示を求めたい。

なお、教育行政は各学校間の競争を促すような働きかけではなく、学校間の情報交換・課題共有の一層の円滑化にも努めてもらいたい。

一方、学力検証事業（事業2）の予算額は現状妥当なのかどうか、費用対効果の観点から、学力を検証した結果どのような有益な教育効果が得られたのか、十分な検証が必要なのではないか。また、計測される学力が現行テストで把握できるものにとどまる以上、時代に求められる学力であるとは言い切れないのではないか。検証された学力は、真に「確かな学力向上」につながりえているのかどうか、冷静な判断が求められる。

なお、学力向上の判定の結果、課題を学力低位層の学習指導の充実に定めたのであれば、きめ細やかな指導による学力低位層の学力の向上にこそ努めるべきであり、テストによる判定結果をいたずらに重視するのではなく、適切な指導人材を配置し学力低位層の密な指導環境を実現することこそ、「確かな学力向上のための取組の推進」といえるだろう。学力低位層の把握は、日頃の定期考査でも十分把握可能なはずであり、そこで把握された層へのきめ細やかな指導こそ求められているのではないか。

■主要施策2 個人又は能力を育成する学校教育の充実

特にコミュニティ・スクール推進事業（事業15）は、慎重に進めていただきたい。というのも嘉麻市学校教育の課題が、①教員不足、②地域住民の教育余力の減退（住民に子どもの教育・学校外教育に携わる時間的・経済的余裕がない）であるとすれば、コミュニティ・スクール推進事業は教師と住民にさらなる負担を増やすことになる。これでは、個人の育成も能力の育成も難しく、学校教育の充実につながっていくとは思われない。むしろ、学校教育の衰退を招きかねない。これまで嘉麻市各地でやられてきた各校区に固

有の学校地域連携の営みがあるのならば、それらのスキームを最大限活かし、教職員と住民が一番無理のない形式を模索すべきである。教育行政としては、一律に特定の形式と方法をあてはめずに、各学校の教育自治の力を高める働きかけを進め、各学校の自主的・自治的な学校地域協働の取り組みが柔軟に進行するようなサポートが求められる。

なお、就学援助事業（事業 19）については、今後も増加が予想される。子ども期の不利が生涯にわたる不利益へとつながることのないように、人生最初の手厚いサポートとして今後も拡充していくことが望まれる。それこそが、「個人又は能力を育成する学校」へとつながる大前提であることを強く確認しておきたい。

他方、小・中学校情報教育施設整備事業（事業 7）においては、情報セキュリティの観点に基づく事業評価の視点が乏しく、ここは早急な改善が必要である。本事業は、学校情報通信基盤整備の事業であるが、ネットワークの保守・点検や個人情報保護、セキュリティ対策等の取組についての言及・説明が一切みられない。情報セキュリティの問題と児童・生徒の個人情報保護・漏洩防止の対策は重要な課題である以上、丁寧かつ正確な事業の振り返りが不可欠である。学校情報通信環境、特に情報セキュリティの対応動向が万一にも不十分であるとすれば、嘉麻市行政における情報セキュリティの問題にも派生する。学校情報通信の影響が行政部局横断的な問題にも派生しかねないという危機意識を強く持ったうえで、事業を推進・評価していく必要がある。

奨学金事業（事業 20）については、進学格差を抑制する未来志向の方略として重要である。引き続き捕捉率を向上させ、本事業情報の住民、保護者、教育関係者、児童・生徒への周知徹底に努めていただきたい。なお、新規貸付者数が減少する傾向は、明らかに同時代的に逆行している。この新規貸付者減少の原因についての究明を求めたい。

■主要施策 3 豊かな人間性及び志をもってたくましく生きる力を培う教育の推進

読書活動推進事業（事業 26）の事業評価が貸出冊数にとどまるものでよいのだろうか。より適切な目標値の設定が今後求められる。また、「豊かな人間性及び志をもってたくましく生きる力を培う教育」のためには、学校図書館だけで完結するような読書推進だけでは不十分だろう。公立図書館との形式的ではない実質的な連携を進めること、児童・生徒が地域の生活者になることを見越し、日常的な読書活動の振興・推進を視野に入れつつ、市立図書館と学校図書館の有機的な連携を図ることを念頭に、本事業は再検討して欲しい。再検討ということの意味は、学校図書館を起点に、公立図書館の利用習慣の調達につなげること、青年期・成人期における社会教育施設の利用可能性を子ども期に高めること、これらを前提に事業自体の再価値化に努めて欲しいというものである。学校での児童・生徒の経験が、持続可能な地域社会づくり（人が選択的に生まれた地域で生き続けること）へと連続しうる可能性があることを念頭に置いてもらいたい。

不登校対策支援事業（事業 28）は個々人に応じた、よりきめ細やかな対応を教育行政では進めていただきたい。小学校時代の不登校が中学校に継続するケースは容易に想像できるが、最大の問題は、中学校を卒業した時点で、不登校問題は学校教育問題（教育行

政上の課題)から離脱するということである。とりわけ貧困や障害など、当事者とその家族ではどうにもならないケースもありえ、学校との関係が切断された瞬間に、当事者とその家族は社会に放り出されてしまう。本人と家族にとって学校が唯一の社会との接点である場合、学校教育問題からの離脱と学校との関係切断は、人生を大きく左右する事態に転換しかねない。不登校問題はすぐれて自治体の未来の課題なのであり、学校への復帰を第一義と考えず、社会復帰の筋道を描き、社会復帰という過程の一部に学校復帰を再定位してみることが重要であろう。「豊かな人間性及び志をもってたくましく生きる力を培う教育」を標榜する以上、未来の嘉麻市民育成の視点から、本事業の有効かつ効果的な展開を期待したい。

青少年健全育成事業(事業31)については、少年相談センター業務の電話相談3件は極めて低い数値であるといわざるをえない。電話相談は時代的にも相談ハードルは高く、SNSや各種アプリケーション(LINEやZOOMなど)による代替相談の方法などが検討されてよい。相談員配置がより有効に機能するためにも、スマートフォンやIT機器での現代的な相談対応の拡充が求められる。さらに、相談につながりやすくするための仕組み、たとえばQRコードの読み取りから、相談につながる方法の検討など、明日から試みられるべきことは多い。地域固有の課題に応じた仕組みとして残された事業であるとするれば、時代に応じた仕組みのバージョンアップは不可避である。

地域社会における男女共同参画推進事業(事業33)は、一部高校生ボランティアを対象とした講座として実施されたものもあるが、直接的に「男女共同参画推進」を企図した事業内容とは評価できなかった。ミニプレーパーク事業の再開に際して、ボランティア講習を進めるにあたり、内容が男女共同参画啓発に類するものであったに過ぎず、あくまで目的は「ミニプレーパーク事業ボランティア講習」であった感が否めない。高校生を対象とする取り組みの意義は理解できるが、高校生を対象とするからこそ、より真剣で適切な「男女共同参画推進」のための講習・講座が重要となる。事業推進にあたっては、誤解のないような講座づくりを進め、たとえ抱き合わせの講座であっても、誇張や過大評価に陥ることのないような適切な自己評価と報告をお願いしたい。

■主要施策4 生涯学習の実現を目指す社会教育の推進

生涯学習推進事業(事業36)は広範な市町村でみられる仕組みであるが、せっかくのボランティア人材バンクが有効に活用されているとは思われない。目的を「市民が学習した成果を活用」としているが、学校教育への協力可能な人材としてしかボランティア人材を捉えられていないのではないか。ボランティア人材の活用実態はさまざまな側面があるはずであり、「評価の根拠」ではより実態に即した評価を進めていただきたい。また、そもそもボランティア人材が嘉麻市にいることの意味と価値を教育行政はどう評価しているのか、この点についてもより明確にして欲しい。重点課題を「人材バンクの活用促進」としているが、そのような展望が十分に描かれているとは思われず、教育行政としては学校協力人材ボランティア以外の活躍の場を前景化させ、ボランティア人材の活躍

の場をより多方面に広げていってほしい。

公立公民館・自治公民館連携強化推進事業（事業 37）では、広域市町村合併の弊害もあり、容易な進展が期待できないことが把握される。しかし、公民館活動の振興が地域活性化を結果的にもたらすことが指摘されており（全国公民館連合会編著『よくわかる公民館のしごと』第3版、第一法規、2022）、公民館施設配置の十分進んだ嘉麻市は、住民の経済事情・社会背景に配慮せざるをえないものの、可能性を持つ自治体の一つといえる。人口減少にともなう施設の統廃合や仕組み（公民館制度）の改変など、問題山積の状況はあるだろうが、公民館は住民自治の拠点にもなりえ、住民の学習拠点、生きがいつくりの砦、多世代交流・産業振興の場、不登校・ひきこもり支援の現場にも展開可能な施設でもある。形骸化した公民館に住民自治／学習・文化拠点としての価値を再び充填することは嘉麻市に残された大いなる可能性でもあろう。今後の発展に期待したい。

図書館施設管理運営事業（事業 39）は、懸案だった指定管理者制度導入による課題や弊害がいまのところみられない。指定管理者と教育行政の密な連携・連絡を継続し、引き続き社会教育の振興に努めてほしい。

■主要施策5 体力及び運動能力向上の推進

スポーツ環境創成事業（事業 44）および競技スポーツ推進事業（事業 47）については予算削減も視野に大幅な見直しの検討を要請したい。前者は、事業評価ヒアリング前の時点でHP公開の動画リンクの閲覧ができない状態にあり、評価者指摘後に対応があった。コロナ禍でできないことが多いことは理解できるものの、実行したことをセルフモニタリングできていないことは、怠慢であると指摘せざるをえない。担当課の存続可否、設置意義、人員配置の正当性の観点から、教育行政における担当課の位置づけの再定義が不可欠ではないか。前者事業の重要性は理解できるものの、担当課の取り組みとして妥当だったのかどうかは、ゼロ予算に関係なく、深い省察が必要だろう。他方、後者については、貧困家庭の増加傾向のなかで、一部の参加可能な子ども・家庭の選別につながりかねない、「トップアスリートによるバドミントン教室」などは果たして現代的に、教育の公平性の観点から妥当な事業といえるのだろうか。あらゆる所得階層の子どもたちが、等しく競技スポーツの機会にアクセスでき、平等に経験を調達できることを保障することこそが望ましい教育行政のあり方であるはずであり、一部の家庭とその子弟のみが体験できる機会を教育行政が整備・推進すべきなのだろうか。市民に対する平等で公平な機会保障の観点から、是非再考を進めていただきたい。

■主要施策6 人権尊重精神を育成する教育の推進

人権・同和教育推進事業（事業 48）および人権・同和教育推進少年団体育成事業（事業 50）については、嘉麻市における重点的課題であると認識することから、内容の見直し、検討・工夫を重ねつつ、今後も引き続き時代に合った形で継続してほしい。特に前者の研修機会の継続は、教職員の人権意識を高めるためにも不可欠の営みであること

から、一層工夫を進め、前向きな研修機会となるように努めて欲しい。また、これまでの成果と課題を確認する時期に来ていると思われることから、研修の成果と課題の洗い出しに教育行政としては取り組んでいただきたい。他方、後者については、少子化が進むなかで、事業の重要性に変わりはないものの、少年団体の育成事業そのものがこれまでとは異なる形への生まれ変わり（地域（字・地区）の教育力を維持・再活性化し、大人も子どももともに誇りと尊厳を持ち生まれた場所で生きつづけられる仕組みの再編成・再構築）が求められる時期にきているといえるかもしれない。同和教育推進少年団体の育成は地区の子どもを主要な対象とするが、大人や青年との協働を抜きに果たし得るものではなく、その点で、長く地区・字の教育力の向上に寄与してきた点を見逃してはならない。同和教育推進少年団体の育成事業とは、個を対象とした個別最適化の事業などではなく、字・地区を対象とするすぐれて公共的な営みであり、嘉麻市の人権を尊重した地域づくりにも寄与するものである。教育行政としては、関係諸団体、教職員、地域住民との粘り強い対話を重ね、今後の建設的な方向性を模索して欲しい。ただし、その際は当事者団体の意見を最大限尊重し、人権に十分配慮したものである必要があることは付言する。教育行政と一般行政の都合を優先させることなく、関係諸団体との未来ある対話を進めていただきたい。

■主要施策7 市民文化の創造

美術教育普及事業（事業55）および郷土の歴史文化を守る事業（事業56）は引き続き、工夫・改善を進め、推進していただきたい。前者については、指定管理者と教育行政との関係も比較的良好な様子がみられ、連携・連絡をさらに密に市民文化の創造に邁進していただきたい。美術館・図書館は、現在の指定管理者と教育行政との緊密な連絡・連携関係を基本線に、相互の良好な関係が喪失することのないよう努力していただきたい。また、「市民文化の創造」という教育行政の使命から、指定管理者の困りごとに対する迅速な教育行政の対応も重ねて求めておきたい。指定管理者への教育行政の対応とは、すなわち嘉麻市民への対応であることを忘れないでおいて欲しい。後者については、地域意識を高め、郷土を大切に作る情念を刺激するものであることは間違いがないが、特に保存された各指定文化財の利活用と地域活性化との関係をどう見定めるかについて、知恵を絞っていただきたい。これまでの文化財保護行政ではその歴史的・文化的価値ゆえ、専ら事・物を保存すること自体に価値が見出されてきた。今日問うべきは、人口減少と高齢化が進むなかで、人間の喜びや人生の豊かさ、生きがいの問題と郷土文化の保存・振興がどう接続するかにある。単なる保護・保存事業から、持続可能な地域づくりを見据えた、本来有する攻め得る文化事業への転換を求めたい。

【全体所見】

懸案だった図書館・美術館への指定管理者制度の導入については、行政との密な連携がみられ、引き続き相互の関係向上に努めていただきたい。昨年同様、全般的に概ね良好

と思われる。ただし、スポーツ事業の見直し・吟味のほか、奨学金事業の新規貸付者の減少原因の究明などについては今後検討の余地がある。予算と人員の配分は適切かどうか、貧困化の進む現代社会にあって優先すべき教育行政上の課題とはなにか、学校教育と社会教育の連携・協働の実質化を進めつつ、冷静かつ確実に吟味していただきたい。

嘉麻市教育委員会点検評価実施要綱

[平成21年嘉麻市教育委員会要綱第6号]

[平成23年嘉麻市教育委員会要綱第4号]

[平成24年嘉麻市教育委員会要綱第4号]

[平成26年嘉麻市教育委員会要綱第4号]

[平成26年嘉麻市教育委員会要綱第6号]

[平成27年嘉麻市教育委員会要綱第3号]

[令和2年嘉麻市教育委員会要綱第1号]

[令和4年嘉麻市教育委員会要綱第3号]

(趣旨)

第1条 この要綱は、地方教育行政の組織及び運営に関する法律(昭和31年法律第162号)第26条及び嘉麻市教育基本条例(平成22年嘉麻市条例第16号。以下「条例」という。)第7条の規定に基づき、嘉麻市教育委員会(以下「教育委員会」という。)が実施する事務の点検及び評価について、必要な事項を定めるものとする。

(点検評価事項)

第2条 教育委員会は、前年度の教育委員会の事務の管理及び執行の状況について、次に掲げる事項の点検及び評価(以下「点検評価」という。)を行う。

- (1) 教育委員会の会議の実施状況等に関すること。
- (2) 教育委員会の主要な施策に関する執行の状況及びその成果に関すること。

(点検評価の方法)

第3条 教育委員会は、点検評価を実施するに当たり、別に定める評価表により教育委員会事務局において、その所管する事務事業等の自己評価を行わせるものとする。

- 2 教育委員会は、前項の自己評価の結果について評価の客観性を確保するため、嘉麻市教育委員会点検評価委員(以下「評価委員」という。)を設置し、意見を求める。
- 3 教育委員会は、評価委員の意見を踏まえ、教育委員会の会議において最終的な点検評価を行う。

(評価委員)

第4条 評価委員は、3人以内とし、次に掲げる者のうちから教育委員会が委嘱する。

- (1) 教育に関し、学識経験者を有する者
- (2) その他教育委員会が適当と認める者

第5条 評価委員の任期は3年とし、再任を妨げない。ただし、委員が欠けたときの補欠委員の任期は、前任者の残任期間とする。

(公表の方法)

第6条 教育委員会は、条例第7条の規定により点検評価の結果に関する報告書は次に

掲げる方法で公表する。

- (1) 嘉麻市公式ホームページに掲載
- (2) 報道機関に提供
- (3) 教育委員会での閲覧
(庶務)

第7条 点検評価の実施に関する庶務は、主幹課において処理する。

(その他)

第8条 この要綱に定めるもののほか、点検評価の実施に関し必要な事項は、教育長が定める。

附 則〔平成21年嘉麻市教育委員会要綱第6号〕

この要綱は、平成21年7月8日から施行する。

附 則〔平成23年嘉麻市教育委員会要綱第4号〕

この要綱は、平成23年4月5日から施行する。

附 則〔平成24年嘉麻市教育委員会要綱第4号〕

この要綱は、平成24年4月1日から施行する。

附 則〔平成26年嘉麻市教育委員会要綱第4号〕

この要綱は、平成26年4月1日から施行する。

附 則〔平成26年嘉麻市教育委員会要綱第6号〕

この要綱は、平成26年10月6日から施行する。

附 則〔平成27年嘉麻市教育委員会要綱第3号〕

この要綱は、公表の日から施行し、改正後の嘉麻市教育委員会点検評価実施要綱の規定は、平成27年4月1日から施行する。

附 則〔令和2年嘉麻市教育委員会要綱第1号〕

この要綱は、令和2年6月2日から施行し、改正後の嘉麻市教育委員会点検評価実施要綱の規定は、令和2年4月1日から適用する。

附 則

この要綱は、令和4年5月1日から施行し、改正後の嘉麻市教育委員会点検評価実施要綱の規定は、令和4年4月1日から適用する。

嘉麻市教育委員会点検・評価報告書

(令和4年度事業分)

発行 嘉麻市教育委員会 教育総務課
〒820-0592 福岡県嘉麻市上臼井 446 番地 1
TEL 0948-62-5723

発行年月 令和5年9月